

# TD Bridge

## テクニカルリファレンスガイド

TD Bridge の概要

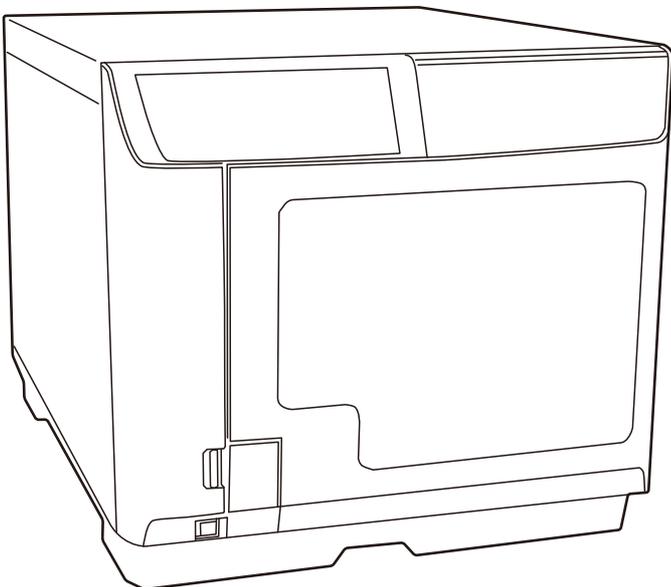
インストール

設定

連携アプリケーション開発ガイド

付録

**Disc** producer™



## ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複写、複製、改ざんすることは固くお断りします。
- 本書の内容については、予告なしに変更することがあります。最新の情報はお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
- 運用した結果の影響については、上項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品がお客様により不適切に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者以外の第三者により修理・変更されたことなどに起因して生じた損害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- エプソン純正品およびエプソン品質認定品以外のオプションまたは消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

## 商標について

EPSON および EXCEED YOUR VISION はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。また、Discproducer はセイコーエプソン株式会社の商標です。

Windows<sup>®</sup>、Windows Vista<sup>®</sup>、および Windows Server<sup>®</sup> は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

©Seiko Epson Corporation 2018-2020. All rights reserved.

# 安全のために

## 記号の意味

本書では以下の記号が使われています。それぞれの記号の意味をよく理解してから製品を取り扱ってください。

### 注意

ご使用上、必ずお守りいただきたいことを記載しています。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、製品の故障や動作不良の原因になる可能性があります。

### 参考

補足説明や知っておいていただきたいことを記載しています。

## 使用制限

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、きわめて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認の上、ご判断ください。

## 本書について

### 本書の目的

本書は、Discproducer (PP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II / PP-50BD) を使ったディスク発行システムの開発、設計に必要なすべての情報を開発技術者に提供することを、その目的としています。

### 本書の構成

本書は次のように構成されています。

- 第 1 章 [TD Bridge の概要](#)
- 第 2 章 [インストール](#)
- 第 3 章 [設定](#)
- 第 4 章 [連携アプリケーション開発ガイド](#)

### サンプルコードについて

本書内の JDF ファイルなどにおいてデータフォルダー、ファイルの指定方法で例示している “\” (バックスラッシュ) は、日本語のシステムでは “¥” (円マーク) で表示されます。

# 目次

■ 安全のために.....	3
記号の意味.....	3
■ 使用制限.....	3
■ 本書について.....	3
本書の目的.....	3
本書の構成.....	3
サンプルコードについて.....	3
■ 目次.....	4

## TD Bridge の概要..... 5

■ TD Bridge とは.....	5
接続図.....	5
システム概念図.....	6
システムの動作.....	6
ステータスの確認方法.....	10
■ 端末の動作環境.....	11
■ コンピューターから見たデバイスの 接続台数.....	12
■ 作成できるディスクの仕様.....	13
■ システム構築例.....	14
PP-100III を使用した場合の構築例.....	14
PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II を 使用した場合の構築例.....	17
■ TD Bridge Ver.8.0 の追加機能.....	19
■ 制限事項.....	20

## インストール.....21

■ インストール手順.....	21
TD Bridge のインストール.....	21
TD Bridge の起動.....	24

## 設定.....25

■ TD Bridge の設定.....	25
■ 設定項目一覧.....	28
Total Disc Setup の設定.....	29
Total Disc Net Administrator の設定.....	33
作業フォルダーの設定.....	35
プリンタードライバーの設定.....	36

## 連携アプリケーション開発ガイド.....37

■ 連携アプリケーションの機能.....	37
■ JDF ファイル.....	38
JDF ファイルの遷移図.....	38
JDF ファイルの記載例.....	39
設定項目リスト.....	42
記録フォーマットと制限事項.....	49
AudioCD トラック情報の指定方法.....	50
データディスク作成 - 書き込みデータフォルダー / ファイルの指定方法.....	51
レーベルファイルの作成.....	53
テキストの差込印刷.....	57
バーコードの差込印刷.....	61
画像の差込印刷.....	65
テキスト / バーコード / 画像アイテムの 差込印刷.....	69
マルチセッション書き込み機能.....	70
Plug-in の実行.....	72
■ STF ファイル.....	73
STF ファイルのステータスの変化.....	74
STF ファイルのステータスの機種別対応表.....	75
STF ファイルのステータス.....	77
エラーコードと対処方法.....	84
INFORMATION コード一覧表.....	92
■ JCF ファイル.....	95
JCF ファイル例.....	95
■ ログ機能.....	96
■ ポップアップメッセージ一覧表.....	97

## 付録.....99

# TD Bridgeの概要

本章ではPP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II / PP-50BD連携アプリケーションを作成していただくために、TD Bridgeの概要と動きについて説明します。また、動作環境と作成できるディスク仕様、連携アプリケーションの構築例をご紹介します。

本書ではPP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II / PP-50BDをまとめて表記する場合、Discproducerと表示します。

## 参考

- PP-100NE / PP-100NE II を使用する場合、TDBridge からは PP-100N として認識されます。
- PP-100NE / PP-100NE II に関する内容は、本マニュアルの PP-100N の記載を参照してください。

## TD Bridgeとは

TD Bridgeとは、お客様のシステムにDiscproducerを接続するための、HotFolder方式によるディスク発行のソフトウェアです。データの書き込み/印刷したディスクや、印刷だけのディスクを発行できます。

お客様にはTD Bridgeを制御する「連携アプリケーション」を開発していただくことで、お客様のシステムからCD / DVD / BDを発行できます。

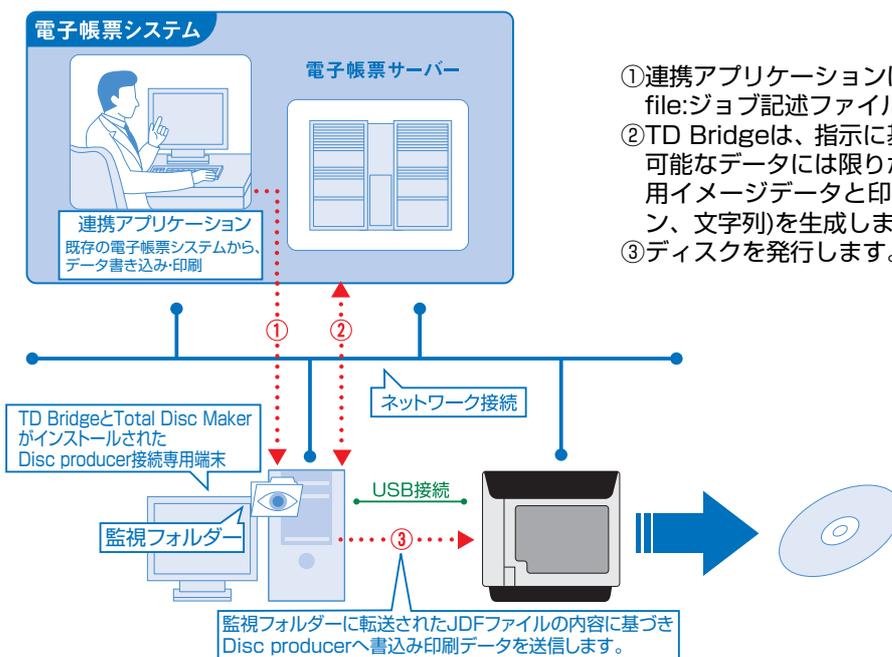
TD Bridgeを使用するには、EPSON Total Disc Makerが必要です。

EPSON Total Disc Makerの詳細はDiscproducerのユーザーズガイドを参照してください。

## 接続図

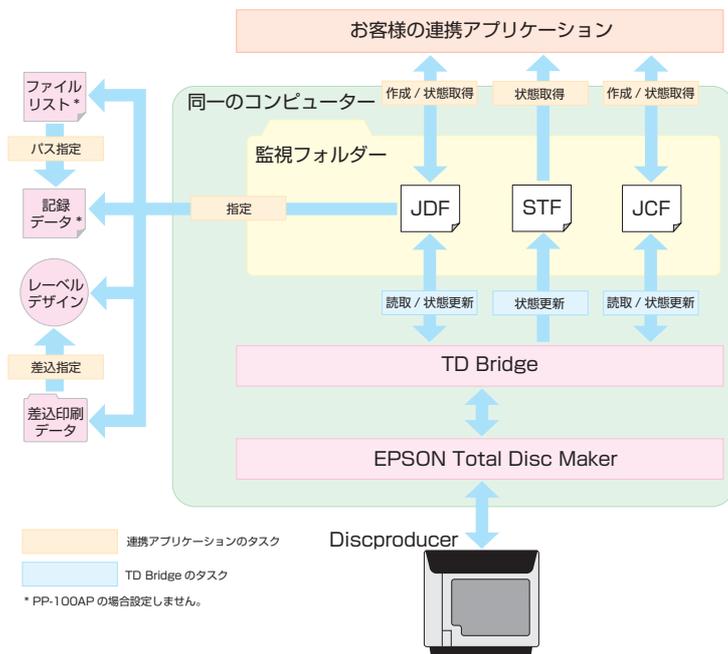
以下はTD Bridgeと連携アプリケーションを組み込んだシステムの接続図です。

この図では、既存の電子帳票システムに、ディスク発行の連携アプリケーションを組み込んでいただいたものを説明しています。



## システム概念図

お客様の連携アプリケーションと、TD Bridgeは以下のような動作をします。



## システムの動作

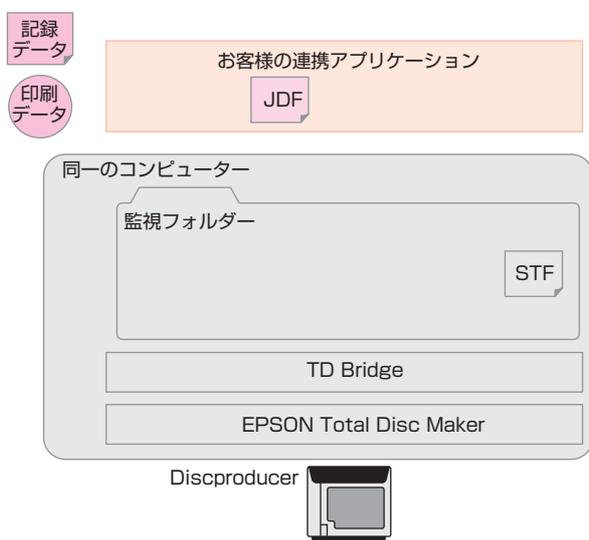
ディスクを発行する一連の流れと、キャンセル/一時停止/エラー時の、連携アプリケーションとTD Bridgeの動作を説明します。

### ディスクを発行する一連の流れ



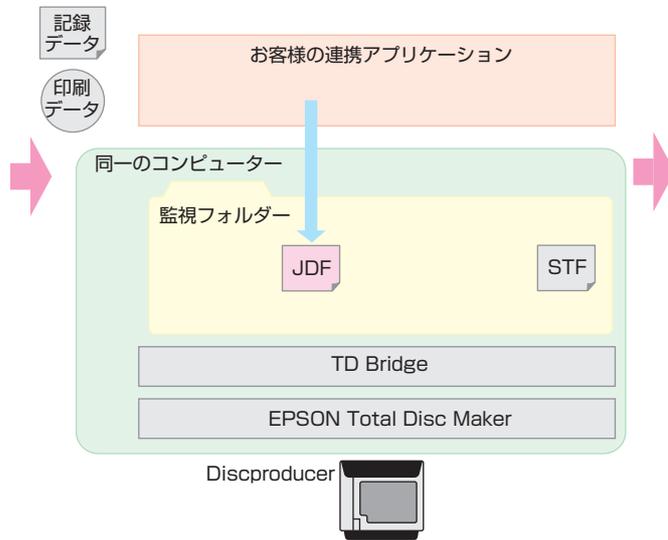
#### 準備

記録データと印刷データを準備し、連携アプリケーションでJDFファイルを作成します。  
(印刷だけの場合、記録データは不要です。)



#### データセット

JDFファイルを監視フォルダーに移動します。



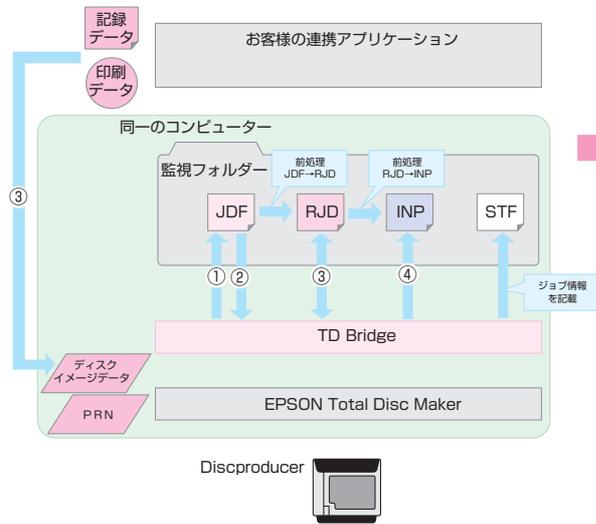


### 前処理

前処理とは、ジョブの記述に矛盾がないかチェックし、ディスクのイメージデータを作成して、サーバーに転送(\*1)することです。イメージファイルの作成および転送(\*1)が終了すると、RJD (Received Job Description) ファイルはINP (IN Progress) ファイルに変更されます。

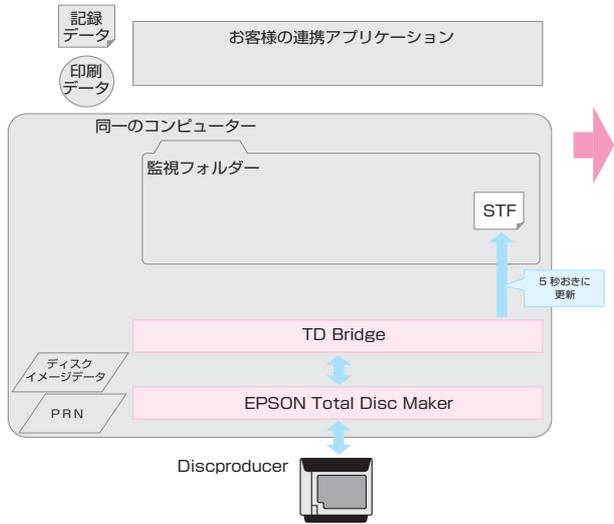
- ①TD Bridgeは監視フォルダーを常時監視しています。
- ②監視フォルダーにJDFファイルがあると、前処理を開始します。
- ③JDFファイルを読み込んで前処理を開始します。このときJDF ファイルはRJDファイルに変更されます。
- ④RJDファイルはINPファイルに変更されます。

\*1 PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIのみ



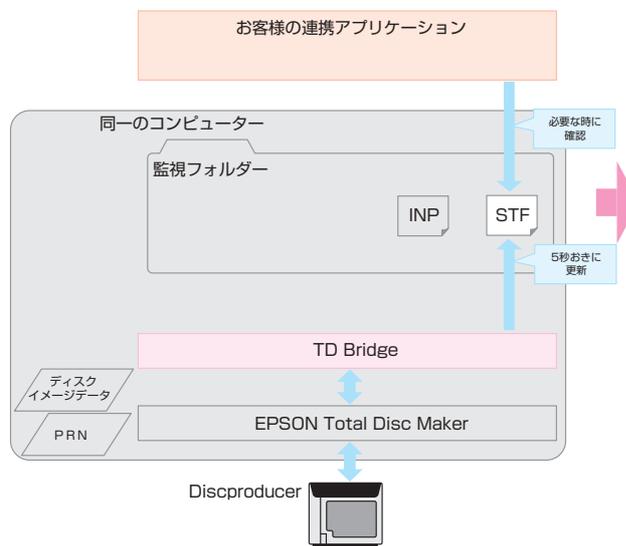
### 書き込み / 印刷開始

書き込み/印刷準備が整いしだい、書き込み/印刷を開始します。STF (Status File) ファイルにはジョブ情報が記載されます。



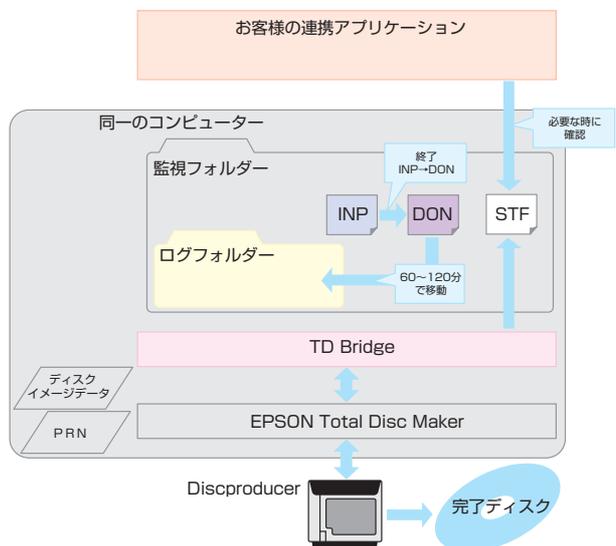
### 動作中の確認

STFファイルは、5秒ごとに更新されます。連携アプリケーションは必要に応じて、STF ファイルを確認します。



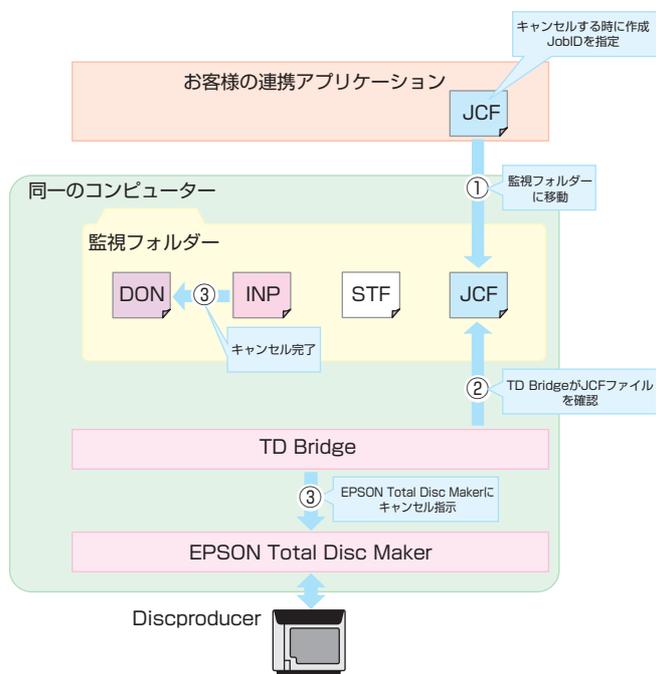
### 終了

ディスクが発行されジョブが終了すると、5秒以内にINPファイルがDON (DONE) ファイルに変更されます。DONファイルは60~120分でログフォルダーに移動します。



## ジョブのキャンセル

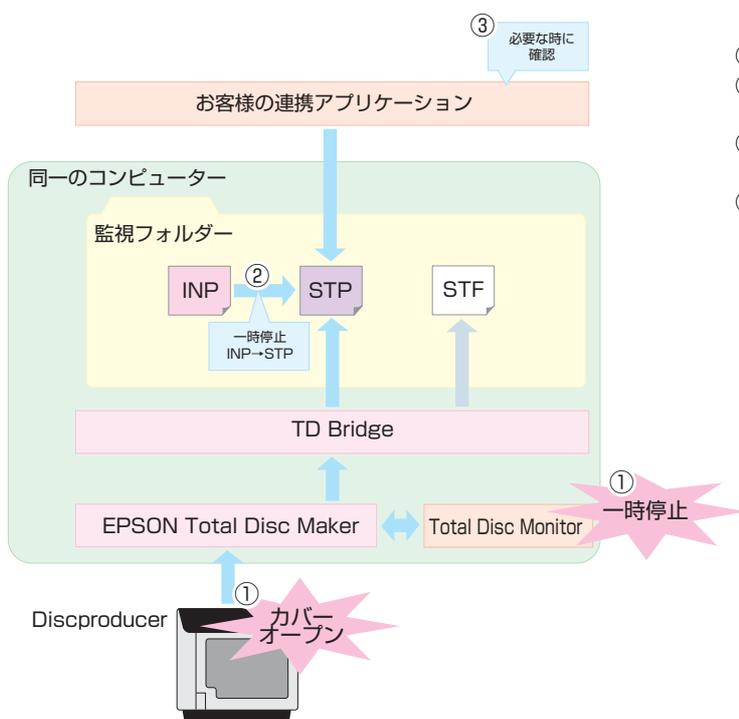
連携アプリケーションからJCF (Job Cancel File) ファイルを監視フォルダーに移動しジョブをキャンセルすると、以下のように動作します。



- ① 連携アプリケーションがJCFファイルを生成し、監視フォルダーに移動します。
- ② 監視フォルダーにJCFファイルがあると、キャンセル処理を開始します。
- ③ EPSON Total Disc Makerにキャンセル指示を出します。監視フォルダーにあるINPファイルがDONファイルに変更されます。

## ジョブの一時停止

Discproducerにカバーオープンなどの一時停止条件が発生したり、Total Disc Monitorでジョブの一時停止処理をした場合、以下のように動作します。



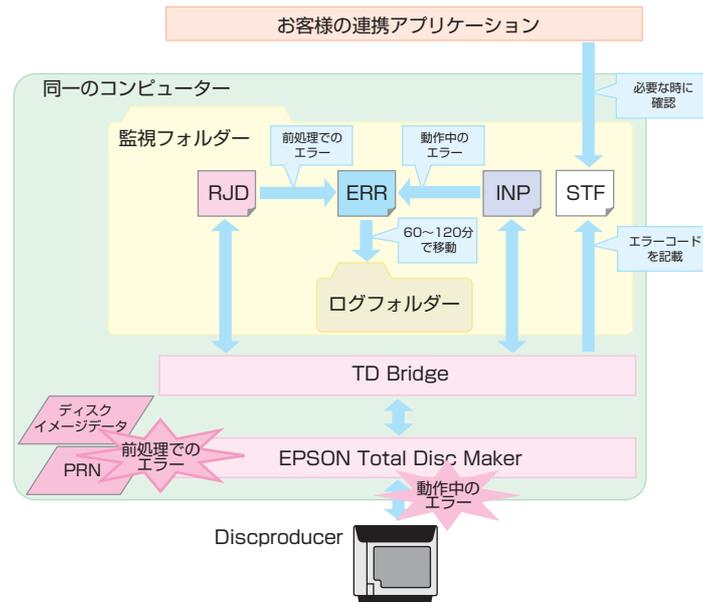
- ① 一時停止イベントが発生します。
- ② 監視フォルダーにある INPファイルが STPファイルに変更されます。
- ③ 連携アプリケーションがジョブの一時停止を確認します。
- ④ Discproducerのカバーを閉めるなど一時停止条件が解除されたり、Total Disc Monitorで一時停止したジョブを再開すると、ディスク発行動作の続きを行います。

## エラー発生時

前処理でのエラーまたはディスク書き込み/印刷時にエラーが発生すると、RJDファイルまたはINPファイルがERR (ERRor) ファイルに変更されます。また、エラーコードがSTFファイルに記述されます。

ERRファイルは60～120分でログフォルダーに移動します。

動作中のエラーの場合、ジョブのエラー情報は60～120分でログフォルダーに移動しますが、機器のエラー情報は、原因を解消しない限りSTFファイルに残ります。(STFファイルの詳細は73ページ「STFファイル」を参照してください。)

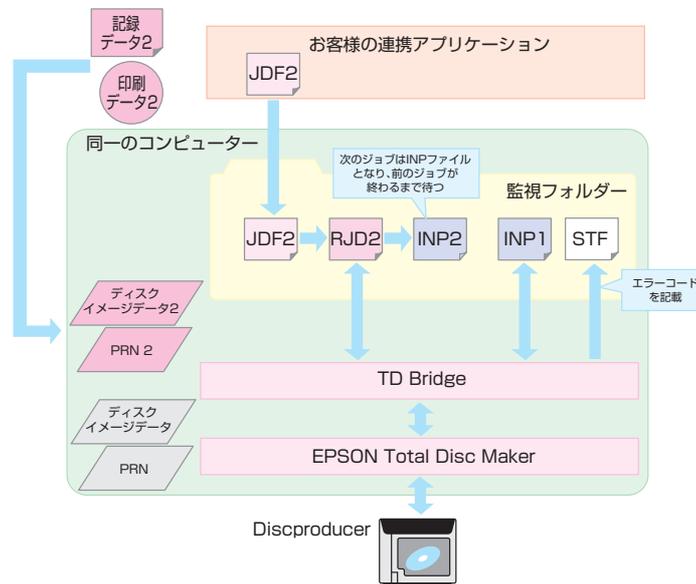


## 動作中に別のジョブを登録する

動作中に別のジョブを登録することができます。連携アプリケーションでJDFファイルを作成し、監視フォルダーに移動すると、前処理が実行されJDFファイルはRJDファイルに変更されます。前処理が完了するとRJDファイルはINPファイルになり、前のジョブが終わるまで待機します。

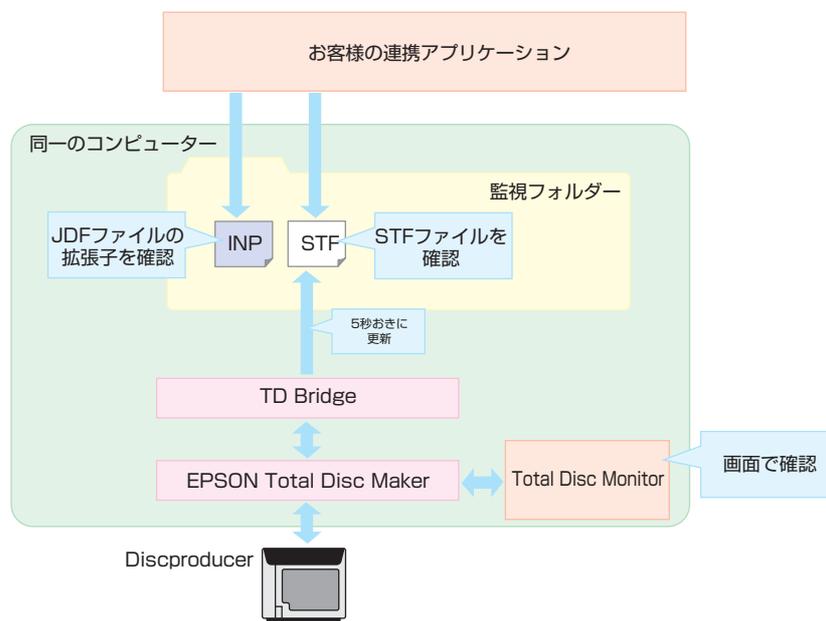
前のジョブが終了すると、ジョブが自動的に実行されます。

ディスクを発行する順番は登録された順番になります。ジョブの優先度を設定することにより、後から登録したジョブを先に実行することができます。



## ステータスの確認方法

Discproducerのステータスの確認方法には以下の3つがあります。



- STFファイルを確認
  - 連携アプリケーションからSTFファイルを参照します。
  - 連携アプリケーションから発行したジョブの状態、エラーコード、Discproducerの状態を知ることができます。このファイルからエラーハンドリングすることをお勧めいたします。
- JDFファイルの拡張子を確認
  - 連携アプリケーションからJDFファイルの拡張子を参照します。
  - 各ジョブの動作状態を簡単に確認できます。
  - JDFファイルは動作状態により、拡張子が変わります。拡張子で動作状態を把握できます。
- 端末コンピューターのTotal Disc Monitor画面を確認
  - オペレーターが、Discproducerの接続された端末でTotal Disc Monitorを起動して確認します。この内容を連携アプリケーションで取り込むことはできません。
  - 連携アプリケーションからのジョブだけでなく、直接EPSON Total Disc Makerでディスク発行した状況も確認できます。
  - ネットワーク経由では見ることはできません。

## 端末の動作環境

TD Bridgeを動作させるのに必要な環境は以下のとおりです。

項目		仕様
動作環境	対応OS	Windows 10 (32 bit / 64 bit) Home / Pro / Enterprise Windows 8.1 (32 bit / 64 bit) Windows 8.1 Professional (32 bit / 64 bit) Windows 7 SP1以降 (32 bit / 64 bit) Home Premium / Professional / Enterprise / Ultimate Windows Vista SP2以降(32 bit / 64 bit) Home Basic / Home Premium / Business / Enterprise / Ultimate Windows Server 2019 Essential / Standard Windows Server 2016 Essentials / Standard Windows Server 2012 R2 Essentials / Standard Windows Server 2012 Essentials / Standard Windows Server 2008 R2 SP1以降 Standard / Enterprise Windows Server 2008 SP2以降 (32 bit / 64 bit) Standard / Enterprise
	CPU	Core Duo T2700 / Core 2 Duo E6300以上 またはその互換プロセッサ
	メモリー	Windows 10 / Windows 8.1 (64 bit) / Windows 7 (64 bit) / Windows Server 2012 / 20012 R2 / Windows Server 2008 / 2008 R2 / Windows Server 2019 / Windows Server 2016 2GB以上 Windows 8.1 (32 bit) / Windows 7 (32 bit) / Windows Vista (32 bit) / Vista (64 bit) 1GB以上
	HDD容量	書き込みデータサイズx1.5倍の空き容量が必要となります。ただし、最低1GBの空き容量が必要です。(回転数7200 rpm以上のHDDを推奨します)
ソフトウェア環境		同一コンピューターに、EPSON Total Disc Maker Ver.8.0、がインストールされていること。 TD Bridge起動ユーザーによって、EPSON Total Disc Makerが使えること。 連携アプリケーションは、同一のコンピューターでなくても構いません。

## コンピューターから見たデバイスの接続台数

機種	同時接続台数	同時ジョブ発行台数	動作モード
PP-100III	最大6台	最大6台	標準モード、外部排出モード、 バッチ処理モード
PP-100II	最大6台	最大6台	標準モード、外部排出モード、 バッチ処理モード
PP-100AP	最大6台	最大6台	標準モード、外部排出モード、 バッチ処理モード
PP-100N	最大10台	最大10台	標準モード、外部排出モード、 バッチ処理モード
PP-100NE	最大10台	最大10台	標準モード、外部排出モード、 バッチ処理モード
PP-100NE II	最大10台	最大10台	標準モード、外部排出モード、 バッチ処理モード
PP-50BD	最大1台	最大1台	標準モード、少量発行モード

\* 1台のPP-100N/ PP-100NE / PP-100NE IIIは同時に5台のコンピューターからジョブを受け付けられます。6台目以降は、各コンピューターのTD Bridgeがリトライを繰り返します。

## 作成できるディスクの仕様

作成可能なディスクとフォーマットは以下のとおりです。

項目		仕様
作成可能なディスク		CD-R 650MB / 700MB
		DVD-R 4.7GB (片面1層)
		DVD+R 4.7GB (片面1層)
		DVD-R DL 8.5GB (片面2層)
		DVD+R DL 8.5GB (片面2層)
		BD-R 25GB (片面1層)
		BD-R DL 50GB (片面2層)
作成可能な記録フォーマット	AudioCD	AudioCD
	データCD	ISO9660レベル2
		Joliet
		UDF1.0.2
	Video-CD	Video-CD
	データDVD	UDF1.0.2
		UDF1.50
		UDF1.0.2 + ISO Bridge
	DVD-Video	DVD-Video
	データBD	UDF1.0.2
		UDF2.60

**参考**

印刷可能なディスクの詳細は、Discproducer のユーザーズガイドを参照してください。

# システム構築例

TD Bridgeを使用したシステムの構築例をいくつか紹介します。

## PP-100III を使用した場合の構築例

### ケース 1: 写真ラボ

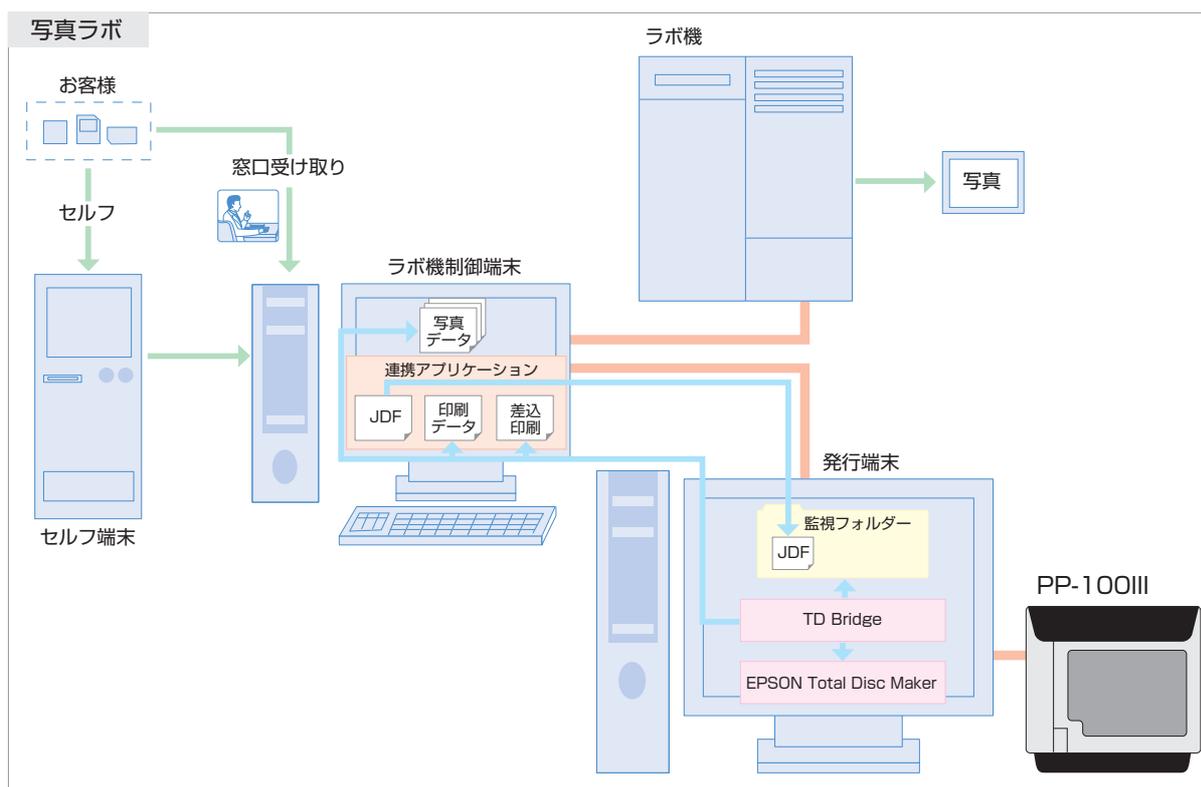
システム説明

アプリケーションの配置 : PP-100IIIと接続されている発行端末にEPSON Total Disc Maker、TD Bridgeがインストールされています。ラボ機制御端末に、連携アプリケーションがインストールされています。

書き込み/印刷データの配置 : お客様の写真データ(書き込みデータ)は、ラボ機制御端末に保存します。印刷データは、お客様が選択できるように複数用意されており、データは発行端末に保存されています。

アクセス権 : 発行端末には、ラボ機制御端末の写真データへのアクセス権が設定されています。

連携アプリケーションの操作 : お店の係員。



動作シナリオ

- ①来店したお客がセルフ端末に記録メディアをセットして、プリントしたい画像とCDに書き込む写真データを選択します。
- ②係員はラボ機制御端末を操作して受け取ったデジタルカメラに保存されたデータのプリントをラボ機に指示します。
- ③お客はセルフ端末から、あらかじめ用意されているレーベルデザインから好みのものを選択します。セルフ端末は、連携アプリケーションに、CD作成を指示します。
- ④連携アプリケーションは写真データのパスを取得してJDFファイルを作成します。

- ⑤ 連携アプリケーションはお客様が選択したレーベルデザインに従って、差込データが記述された差込印刷データを作成します。
- ⑥ PP-100IIIにより写真データがディスクに書き込まれます。
- ⑦ レーベル面にはお客様が選択したレーベルデザインが印刷され、差込印刷されます。
- ⑧ 係員からお客様にディスクが渡されます。

## ケース 2:バックアップ・アーカイブ

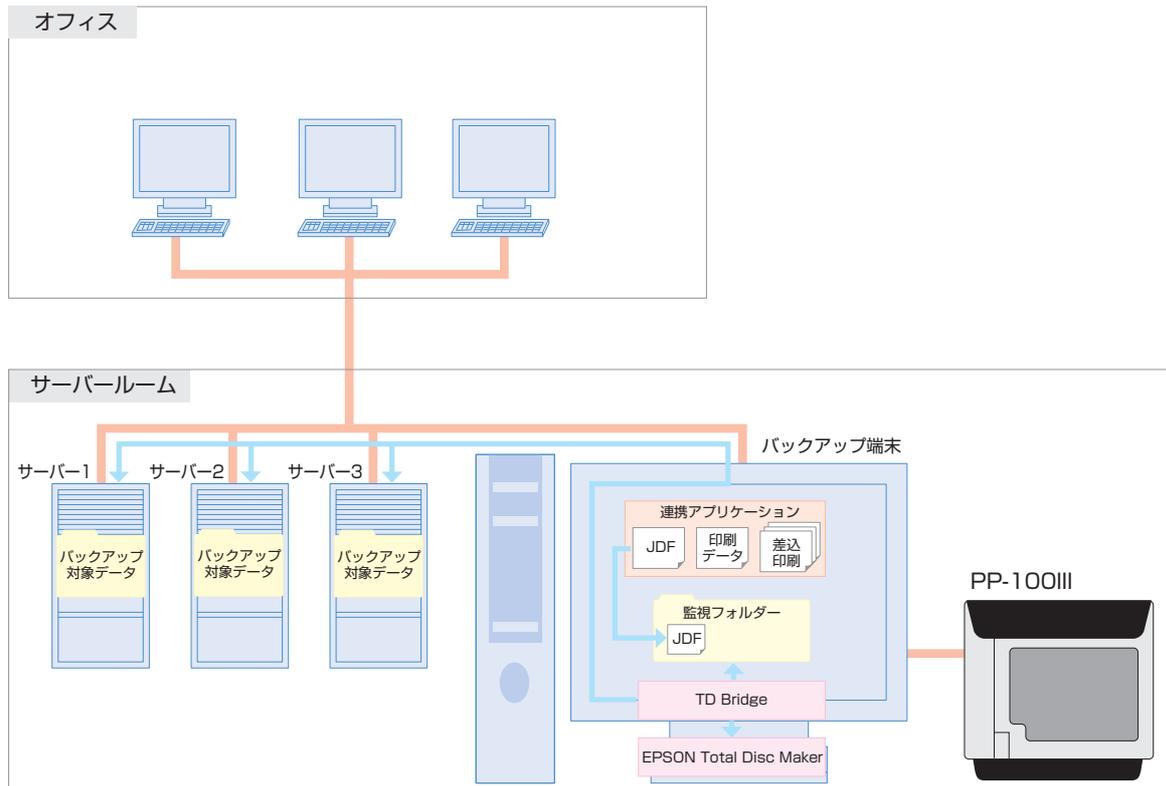
### システム説明

アプリケーションの配置 : PP-100IIIと接続されているバックアップ端末に連携アプリケーション、EPSON Total Disc Maker、TD Bridgeがインストールされています。

書き込み/印刷データの配置 : 書き込みデータは各サーバーに保存されています。  
印刷データはバックアップ端末に保存されています。

アクセス権 : バックアップ端末には、サーバー 1, 2, 3へのアクセス権が設定されています。

連携アプリケーションの操作 : タスクスケジューリング機能による自動操作(サーバー管理者)。



### 動作シナリオ

- ①連携アプリケーションのタスクスケジューリング機能により、バックアップ処理が開始されます。
- ②連携アプリケーションはデータ容量を計算して、ディスク構成を考慮したJDFファイルを作成します。
- ③PP-100IIIによりバックアップデータがディスクに書き込まれます。
- ④レーベル面にはバックアップした日付やディスク番号（何枚目のディスクか）などが印刷されます。

## PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II を使用した場合の構築例

## ケース 3:写真ラボ

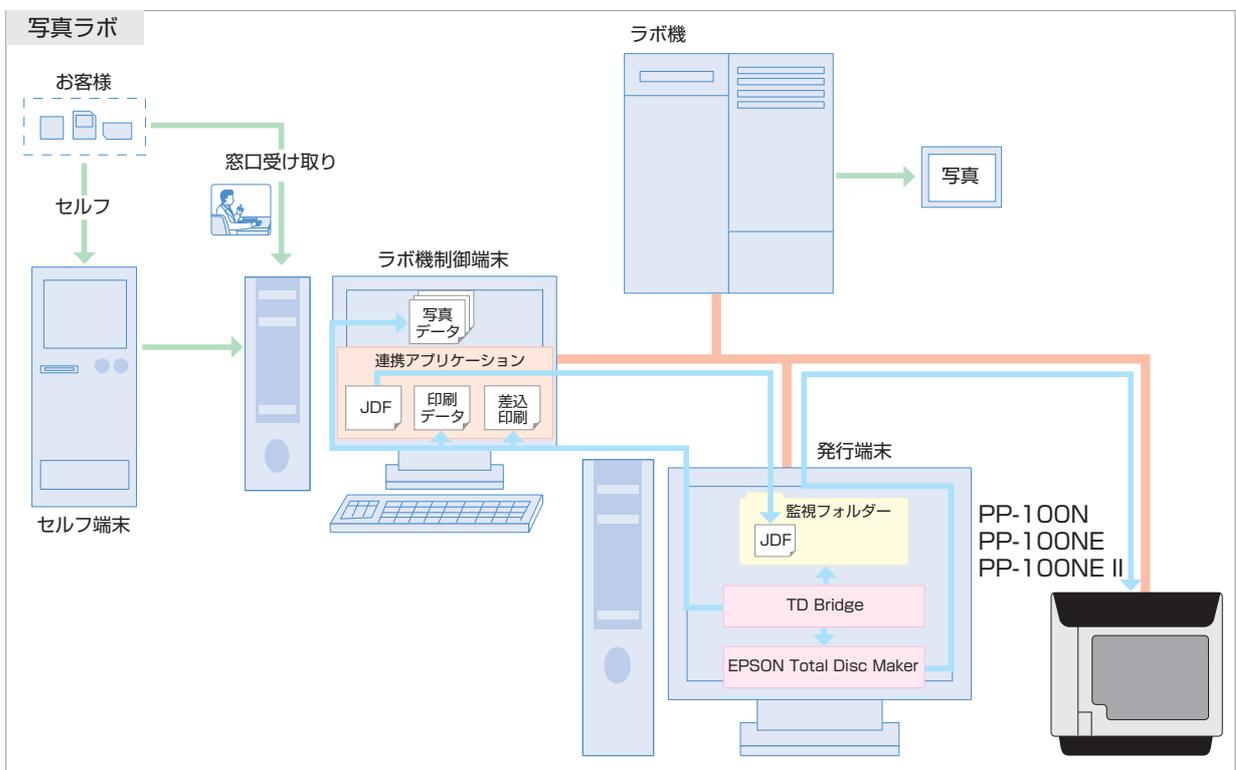
## システム説明

アプリケーションの配置 : 発行端末にEPSON Total Disc Maker、TD Bridge がインストールされています。ラボ機制御端末に、連携アプリケーションがインストールされています。

書き込み/印刷データの配置 : お客様の写真データ(書き込みデータ)は、ラボ機制御端末に保存します。印刷データは、お客様が選択できるように複数用意されており、データは発行端末に保存されています。

アクセス権 : 発行端末には、ラボ機制御端末の写真データへのアクセス権が設定されています。

連携アプリケーションの操作 : お店の係員。



## 動作シナリオ

- ①来店したお客様がセルフ端末に記録メディアをセットして、プリントしたい画像とCDに書き込む写真データを選択します。
- ②係員はラボ機制御端末を操作して受け取ったデジタルカメラに保存されたデータのプリントをラボ機に指示します。
- ③お客様はセルフ端末から、あらかじめ用意されているレーベルデザインから好みのものを選択します。セルフ端末は、連携アプリケーションに、CD作成を指示します。
- ④連携アプリケーションは写真データのパスを取得してJDFファイルを作成します。
- ⑤連携アプリケーションはお客様が選択したレーベルデザインに従って、差込データが記述された差込印刷データを作成します。
- ⑥PP-100N/ PP-100NE / PP-100NE IIIにより写真データがディスクに書き込まれます。
- ⑦レーベル面にはお客様が選択したレーベルデザインが印刷され、差込印刷されます。
- ⑧係員からお客様にディスクが渡されます。

## ケース 4:バックアップ・アーカイブ

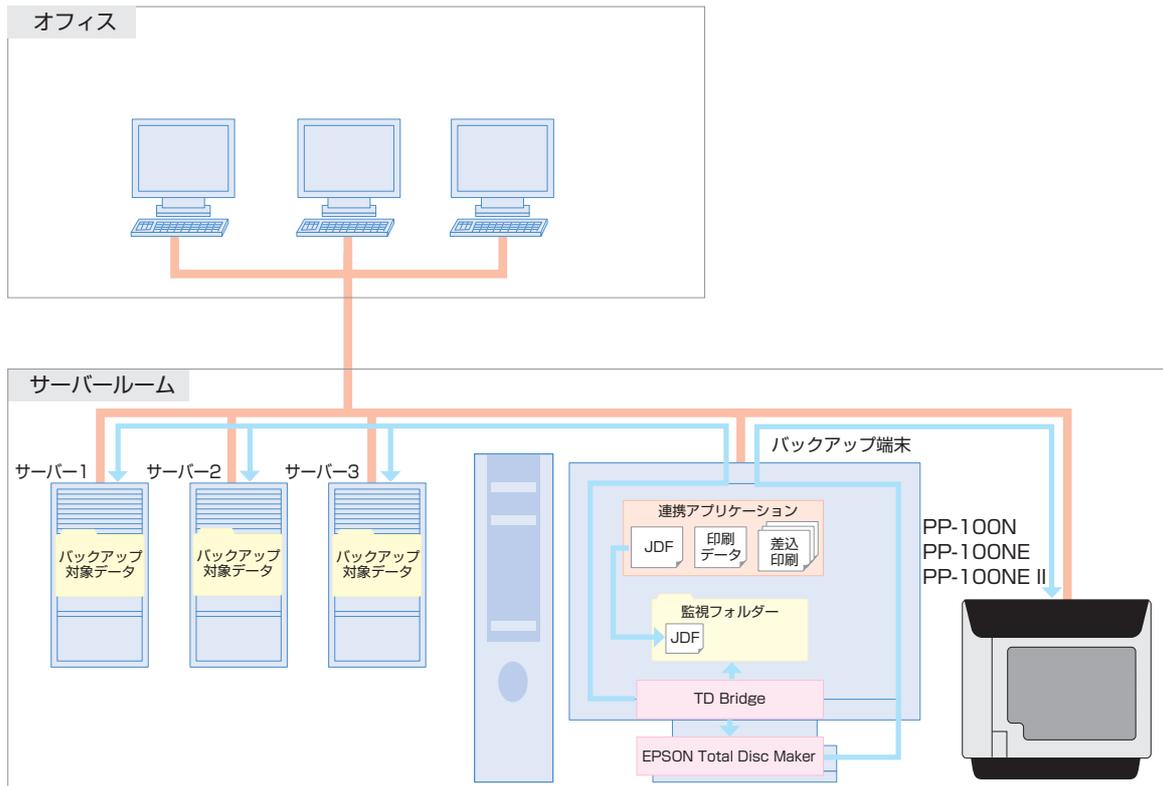
### システム説明

アプリケーションの配置 : バックアップ端末に連携アプリケーション、EPSON Total Disc Maker、TD Bridgeがインストールされています。

書き込み/印刷データの配置 : 書き込みデータは各サーバーに保存されています。  
印刷データはバックアップ端末に保存されています。

アクセス権 : バックアップ端末には、サーバー 1, 2, 3へのアクセス権が設定されています。

連携アプリケーションの操作 : タスクスケジューリング機能による自動操作(サーバー管理者)。



### 動作シナリオ

- ①連携アプリケーションのタスクスケジューリング機能により、バックアップ処理が開始されます。
- ②連携アプリケーションはデータ容量を計算して、ディスク構成を考慮したJDFファイルを作成します。
- ③PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIIによりバックアップデータがディスクに書き込まれます。
- ④レーベル面にはバックアップした日付やディスク番号（何枚目のディスクか）などが印刷されます。

# TD Bridge Ver.8.0の追加機能

TD Bridge Ver.8.0で追加された機能は以下のとおりです。

TD Bridge Ver.8.0より前のバージョンをお使いの場合、移行をお勧めします。

- PP-100NE IIに対応しました。
- Total Disc Maker Ver.8.0に対応しました。
- 「EPSON TD Bridge 環境設定」に以下のチェック欄を追加しました。

「JOB登録の進捗を表示する」

ジョブ登録時に表示される進捗表示画面の「キャンセル」ボタンを使用したくない場合などにチェックを外します。設定方法は[25ページ「TD Bridgeの設定」](#)を参照してください。

- マルチセッション書き込み機能に対応しました。

対象機種：PP-100III

機能の詳細は、[70ページ「マルチセッション書き込み機能」](#)を参照してください。

## 制限事項

- ジョブの一時停止は、連携アプリケーションからは行えません。端末のEPSON Total Disc Makerから行ってください。
- ジョブの処理中に、別のジョブを実行(割り込みディスク発行)することはできません。また処理中に、EPSON Total Disc Makerから直接ディスクを発行することもできません。
- ディスク書き込みや印刷の進捗度合いを取得することはできません。またディスク書き込みとレーベル印刷を行う場合に、ディスク書き込みだけが終了した状態を取得することもできません。
- TD Bridgeには、ジョブやエラーのログを取得する機能はありません。必要に応じてお客様のアプリケーションにて対応してください。
- JDFファイル、JCFファイル、ファイルリストファイル、テキストアイテムファイルは、ANSI形式のテキストファイルで作成してください。それ以外(UNICODE,UTF-8など)は使用できません。
- EPSON Total Disc MakerとTD Bridgeのサポートバージョンは、以下のとおりです。

		TD Bridge				
		5.0	5.5	6.0	7.0	8.0
EPSON Total Disc Maker	5.0	○	○	×	×	×
	5.5	×	○	×	×	×
	6.0	×	×	○	×	×
	7.0	×	×	×	○	×
	8.0	×	×	×	×	○

○：サポートします、×：サポートしません

- EPSON Total Disc Maker が起動しているときは、TD Bridge を起動できません。

# インストール

本章では、TD Bridgeのインストール方法について説明しています。

## インストール手順

EPSON Total Disc Makerがインストールされているコンピューターに、TD Bridgeをインストールしてください。

### TD Bridge のインストール

TD Bridgeをインストールします。

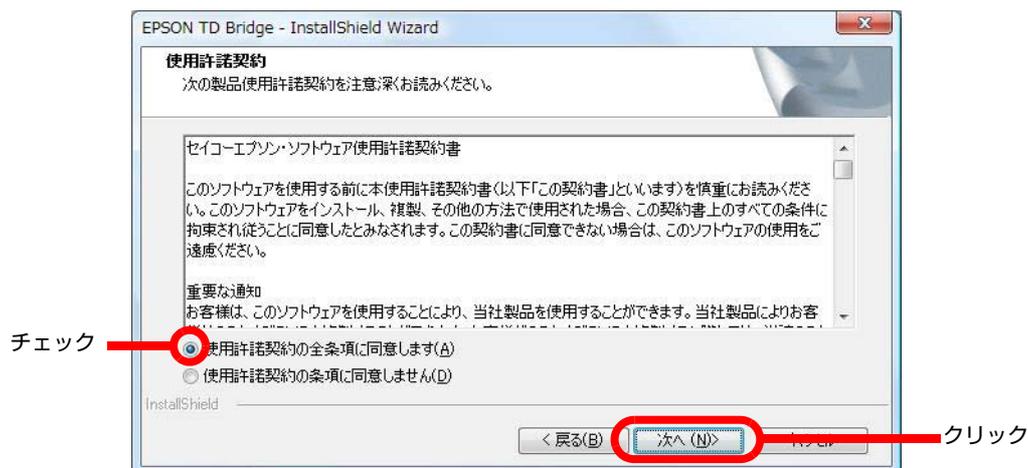
**注意**

管理者 (Administrator) 権限でインストールしてください。

- 1 [setup.exe] アイコンをダブルクリックします。  
VC\_redist.x86.exe ファイルの実行確認画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作を続行してください。
- 2 [次へ] をクリックします。



### 3 [使用許諾契約の全条項に同意します] をチェックし、[次へ] をクリックします。



### 4 インストール先のフォルダーを確認し、[次へ] をクリックします。 フォルダーを変更する場合は [変更] をクリックしてフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。



### 5 TD Bridge が監視するフォルダーを確認し、[次へ] をクリックします。 フォルダーを変更する場合は [変更] をクリックしてフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。 監視フォルダーに、システムフォルダーは選択できません。



## 6 [インストール]をクリックします。



## 7 [完了]をクリックします。

TD Bridge を直ちに起動しない場合は、EPSON TD Bridge を起動するチェックを外し、[完了]をクリックします。



## アップグレードインストール

TD Bridgeをアンインストールせずに、新しいバージョンのTD Bridgeをインストールすることができます。インストール方法は通常の新規インストールと同じ方法で行ってください。

## TD Bridge の起動

インストール後、TD Bridgeを起動します。[スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON TD Bridge] - [EPSON TD Bridge]の順にクリックし、TD Bridgeを起動します。TD Bridgeが起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。



### 参考

TD Bridgeは起動直後に各種チェックをします。問題がある場合エラーを表示し、TD Bridgeを終了します。詳細は [24 ページ「TD Bridge 起動直後のチェック」](#) を参照してください。

## TD Bridge 起動直後のチェック

TD Bridgeは起動直後に以下のチェックをします。問題がある場合メッセージを表示します。

- EPSON Total Disc Maker のバージョンチェック  
EPSON Total Disc Maker のバージョンをチェックし、サポート対象外の場合はメッセージを表示します。  
EPSON Total Disc Maker Ver8.0 以降を再度インストールしてください。
- 通常使う出力機器のチェック  
環境設定の通常使う出力機器が [有効] になっているかチェックします。[無効] になっている場合メッセージを表示します。  
環境設定の通常使う出力機器を設定してください。(環境設定に関しては [25 ページ「TD Bridge の設定」](#) を参照してください)
- 監視フォルダーのチェック  
監視フォルダーにアクセス可能かチェックします。アクセスできない場合メッセージを表示します。  
監視フォルダーにシステムフォルダーが設定されている場合は、監視フォルダーをシステムフォルダー以外のフォルダーに設定します。  
監視フォルダーが見つからない場合は、環境設定で再度監視フォルダーを設定してください。(環境設定に関しては [25 ページ「TD Bridge の設定」](#) を参照してください)

# 設定

本章では、TD Bridge の設定項目と、連携アプリケーションに関する他のアプリケーションの設定について説明します。

## TD Bridge の設定

TD Bridge の設定をします。

**注意**

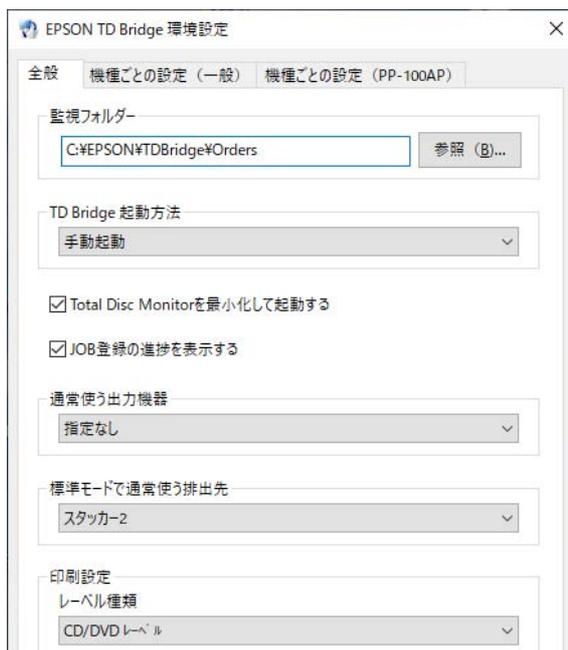
TD Bridge の設定は管理者権限で行ってください。  
管理者権限でない場合、設定を参照することはできますが、設定を変更することはできません。

[ スタート ] - [ すべてのプログラム ] - [ EPSON TD Bridge ] - [ EPSON TD Bridge 環境設定 ] の順にクリックし、[ EPSON TD Bridge 環境設定 ] 画面を表示します。

[ ユーザーアカウント制御 ] 画面が表示されます。

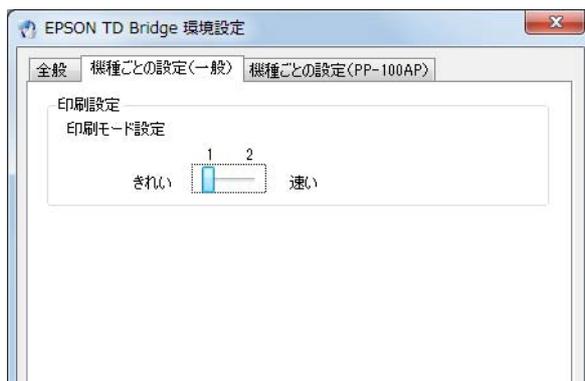
[ 続行 ] をクリックしてください。

□ 全般



設定項目	説明
監視フォルダー	TD Bridgeが監視するフォルダーを設定します。(このフォルダーにJDFファイルを移動し、ディスク発行を開始します。) 変更する場合は、参照をクリックし、フォルダー選択ダイアログからローカルコンピュータ内のフォルダーを選択します。監視フォルダーに、システムフォルダーは選択できません。
TD Bridge起動方法	TD Bridgeの起動方法を設定します。以下の起動方法があります。 手動起動 : ユーザーが手動でTD Bridgeを起動させます。 ログイン時に自動起動 : Windowsログオン時にTD Bridgeを自動起動させます。 PC起動時に自動起動 (サービス) : コンピューター起動時にTD Bridgeを自動起動させます。 この設定では、ポップアップメッセージが表示されなくなります。 TD Bridgeはローカルシステムアカウントで実行されます。ネットワークドライブのファイルを指定する場合は、EPSON TD Bridge Control Serviceのログオンアカウントをネットワークドライブにアクセスできるユーザーに変更してください。そうしないとジョブが受け付け拒否になる可能性があります。
Total Disc Monitorを最小化して起動する	ジョブ発行時に表示されるTotal Disc Monitorの表示方法を設定します。チェックすると、Total Disc Monitorのウィンドウが最小化された状態で起動します。
JOB登録の進捗を表示する	チェックすると、ジョブ登録の進捗状況が確認できるダイアログが表示されます。
通常使う出力機器	複数のDiscproducerを接続している場合に、通常使うDiscproducerを指定します。JDFファイルで出力機器を設定した場合は、JDFファイルの指定が優先されます。
標準モードで通常使う排出先	出力先のDiscproducerが標準モードの場合、通常使う排出先を指定します。JDFファイルで排出先を設定した場合、JDFファイルの指定が優先されます。PP-100III/PP-100II/PP-100AP/PP-100N/ PP-100NE / PP-100NE IIの場合排出先に設定できるのは“スタッカー 2”または“スタッカー 3またはスタッカー 4”です。PP-50BDの場合排出先に設定できるのは“スタッカー 2”または“スタッカー 3”です。
印刷設定	レーベルの種類
	レーベルの種類を設定します。“CD/DVDレーベル”、“高画質対応CD/DVDレーベル”、“光沢CD/DVDレーベル”のいずれかを設定できます。

□ 機種ごとの設定（一般）



設定項目		説明
印刷設定	印刷モード設定	印刷品質を設定します。印刷品質を重視する場合は“1”を指定し、印刷速度を重視する場合は“2”を指定します。 JOB記述ファイルと環境設定画面の両方で指定した場合、JOB記述ファイルの指定が優先されます。

□ 機種ごとの設定（PP-100AP）



設定項目		説明
印刷設定	印刷モード設定	印刷品質を設定します。印刷品質を重視する場合は“1”を指定し、印刷速度を重視する場合は“2”または“3”を指定します。（“3”の方が印刷速度は速くなります。） JOB記述ファイルと環境設定画面の両方で指定した場合、JOB記述ファイルの指定が優先されます。
外部排出モードで通常使う供給元		外部排出モードで通常使う供給元を設定します。スタッカー 1を供給元にする場合は“スタッカー 1”を、スタッカー 2を供給元にする場合は“スタッカー 2”を、両方を供給元にする場合、“オート”を指定します。

# 設定項目一覧

連携アプリケーションでDiscproducerを動作するためには、いくつかのアプリケーションで設定します。その内容は以下のとおりです。

分類	設定項目	JDF	TD Bridge 環境設定	Total Disc Setup / Total Disc Net Administrator	プリンター ドライバー	EPSON Total Disc Maker	備考
PP-100III/ PP-100II/ PP-100N/ PP-100NE/ PP-100NE II/ PP-50BDの動作 に関する設定	発行モード	—	—	○	—	—	
	PP-100III / PP-100II / PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II / PP-50BD のディスク種別	—	—	○	—	—	Total Disc Setup / Total Disc Net Administrator のスタッカー内のディスク 種別と、JDFの作成する ディスク種別を一致させて ください。
	作成するディスク種別	○	—	—	—	—	
	ドライブ設定	—	—	○	—	—	
	リトライ回数	—	—	○	—	—	
	エラーマークの印刷する・ しない	—	—	○	—	—	
	供給元	○	—	—	△	—	省略した場合、JDFで指定 したディスクによって、TD Bridge が自動判別します。
排出先	○	○	—	△	—	JDFを優先。JDFに記述が 無い場合、TD Bridge環境 設定の設定を使用します。	
PP-100APの動 作に関する設定	発行モード	—	—	○	—	—	
	供給元	○	—	—	○	—	
	排出先	○	○	—	△	—	JDFを優先。JDFに記述が 無い場合、TD Bridge環境 設定の設定を使用します。
印刷に関する 設定	レーベル種類	○	○	—	△	—	
	カラー/黒	—	—	—	○	—	
	きれい/速い	○	○	—	△	—	
	双方向印刷	—	—	—	○	—	
	色設定	—	—	—	○	—	
	レーベルサイズ	—	—	—	○	—	
	枚数	○	—	—	△	—	JDFに指定が無い場合は、 1枚になります。
	インク乾燥時間	—	—	—	○	—	
端末に関する 設定	作業フォルダー	—	—	○	—	—	

- ：設定  
△：設定可能（連携アプリケーションとは関係なし）  
—：設定不可能

## 参考

JDF ファイルの設定項目は、他のアプリケーションでも設定できる項目のみ記載しています。  
作業フォルダーについては、EPSON Total Disc Maker の設定を参照してください。

## Total Disc Setup の設定

Total Disc Setupでは、PP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-50BD の動作モードや、供給元/排出先スタッカーの指定などの主要な設定をします。

### 注意

- PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II の場合、名前以外の設定を変えることはできません。
- PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II の設定を変更する場合、Total Disc Net Administrator を使用します。(33 ページ「Total Disc Net Administrator の設定」を参照してください。)

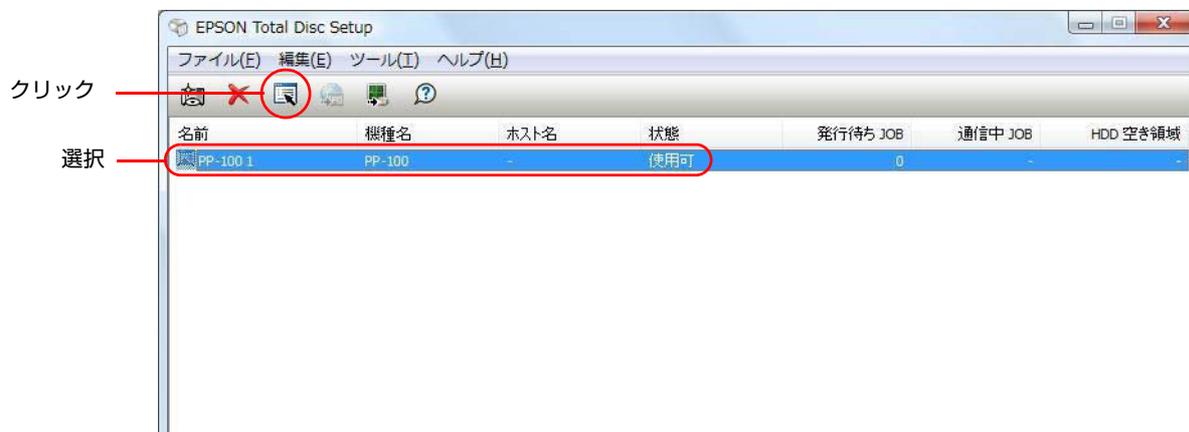
ここでは連携アプリケーションで使用するために必要な設定のみ説明します。

[スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON Total Disc Maker] - [EPSON Total Disc Setup]の順にクリックし、EPSON Total Disc Setupを起動します。

[ユーザーアカウント制御]画面が表示されます。

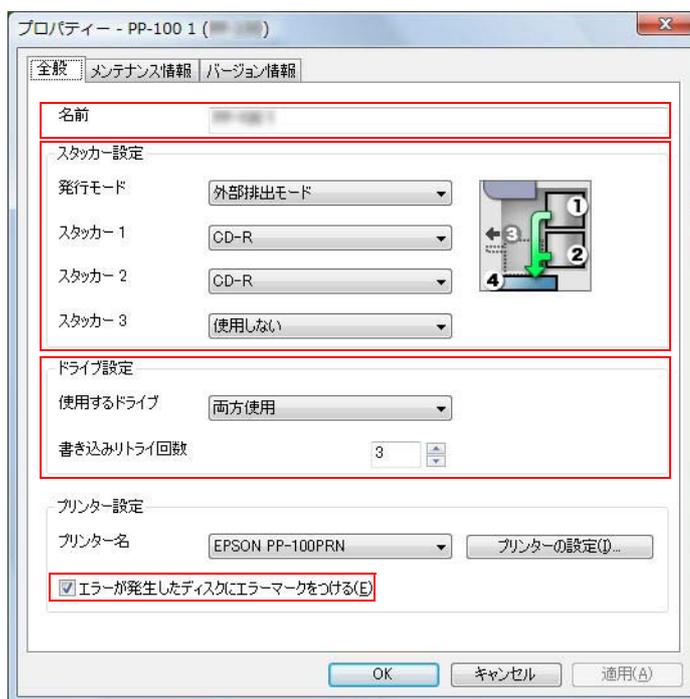
[続行]をクリックしてください。

使用するPP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-50BDを選択し、[プロパティ]をクリックします。



## PP-100III / PP-100II の場合

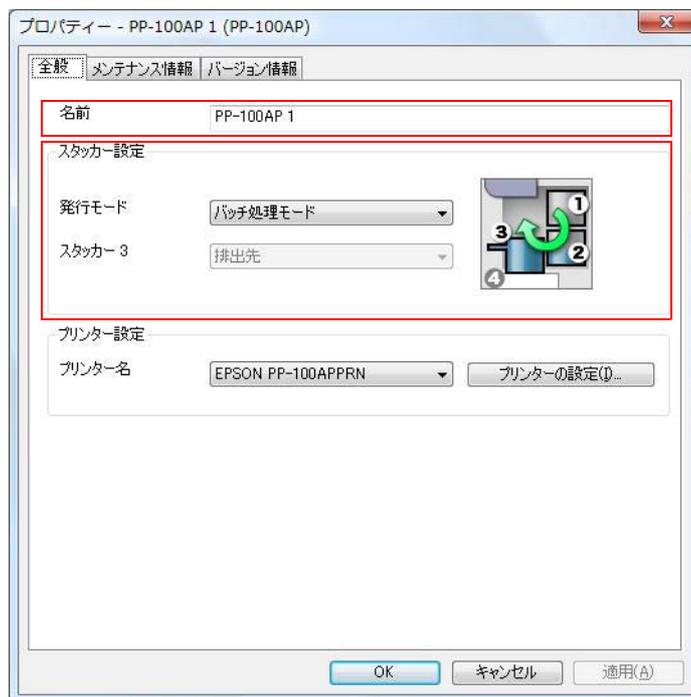
Total Disc Setupの設定画面が表示されます。Total Disc Setupでは、以下を設定できます。



設定項目		説明
名前		PP-100III / PP-100IIの名前を変更できます。JDFファイルのPUBLISHERキーで指定する名前になります。名前は64文字まで入力できます。同じ名前でも複数の機器は登録できません。
スタッカー設定	発行モード	発行モードを設定します。標準モード、外部排出モード、バッチ処理モードから選択できます。PP-100III / PP-100IIで読み込みモードを選択した場合、TD Bridge からJOBを発行することはできません。発行モードの詳細はお使いのDiscproducerのユーザーズガイドを参照してください。
	スタッカー 1,2	発行モードが標準モードの場合 スタッカー 1はディスク種類を設定し、スタッカー 2は排出先になります。 発行モードが外部排出モードの場合 スタッカー 1、2ともにディスク種類を設定します。 発行モードがバッチ処理モードの場合 スタッカー 1、2ともにディスク種類を設定します。 スタッカー 1、2で設定したディスク種類と、JDFファイルで設定したディスクの種類が異なる場合、エラーになります。
	スタッカー 3	発行モードが標準モードの場合 使用するか使用しないを選択できます。 発行モードが外部排出モードの場合 排出先か使用しないを選択できます。 発行モードがバッチ処理モードの場合 排出先
ドライブ設定	使用するドライブ	ディスクの書き込みに使用するドライブを選択します。“両方使用”、“ドライブ1のみ使用”、“ドライブ2のみ使用”のいずれかを選択できます。
	書き込みリトライ回数	ディスクの書き込みエラーが発生したときに再書き込みを行う回数を指定します。0回から9回まで入力できます。
プリンター設定	エラーが発生したディスクにエラーマークをつける	これをチェックすると、書き込み時にエラーが発生したディスクにエラーマークを印刷します。ディスクの発行後、書き込みが正常に行えなかったディスクを区別するのに役立ちます。

## PP-100AP の場合

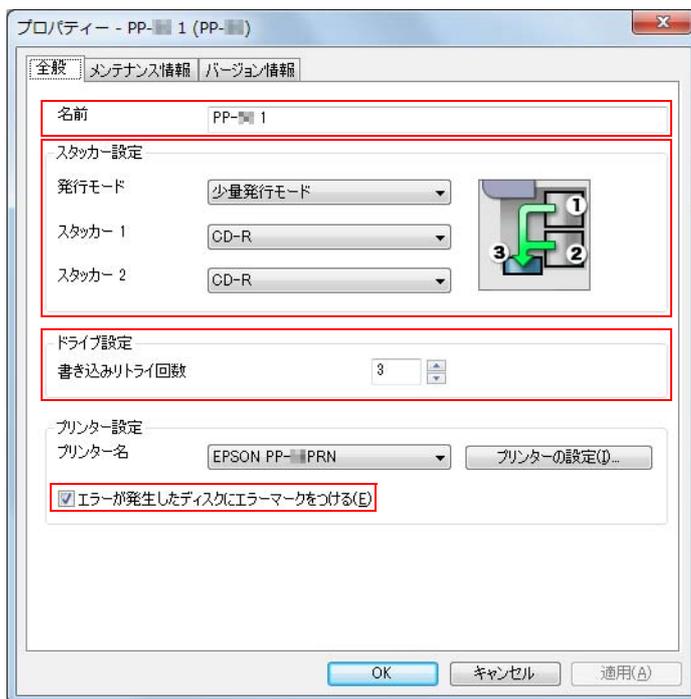
Total Disc Setupの設定画面が表示されます。Total Disc Setupでは、以下を設定できます。



設定項目		説明
名前		PP-100APの名前を変更できます。JDFファイルのPUBLISHERキーで指定する名前になります。 名前は64文字まで入力できます。 同じ名前で複数の機器は登録できません。
スタッカー設定	発行モード	発行モードを設定します。標準モード、外部排出モード、バッチ処理モードから選択できます。 発行モードの詳細はお使いのDiscproducerのユーザーズガイドを参照してください。
	スタッカー 3	発行モードが標準モードの場合 使用するか使用しないを選択できます。 発行モードが外部排出モードの場合 排出先か使用しないを選択できます。 発行モードがバッチ処理モードの場合 排出先

## PP-50BD の場合

Total Disc Setupの設定画面が表示されます。Total Disc Setupでは、以下を設定できます。



設定項目		説明
名前		PP-50BDの名前を変更できます。JDFファイルのPUBLISHERキーで指定する名前になります。 名前は64文字まで入力できます。 同じ名前で複数の機器は登録できません。
スタッカー設定	発行モード	発行モードを設定します。 PP-50BDの場合 標準モード、少量発行モードから選択できます。 PP-50BDで読み込みモードを選択した場合、TD Bridge からジョブを発行することはできません。 発行モードの詳細はお使いのユーザーズガイドを参照してください。
	スタッカー 1,2	発行モードが標準モードの場合 スタッカー 1はディスク種類を設定し、スタッカー 2は排出先になります。 発行モードが少量発行モードの場合 スタッカー 1、2ともにディスク種類を設定します。
ドライブ設定	書き込みリトライ回数	ディスクの書き込みエラーが発生したときに再書き込みを行う回数を指定します。0回から9回まで入力できます。
プリンター設定	エラーが発生したディスクにエラーマークをつける	これをチェックすると、書き込み時にエラーが発生したディスクにエラーマークを印刷します。ディスクの発行後、書き込みが正常に行えなかったディスクを区別するのに役立ちます。

## Total Disc Net Administrator の設定

Total Disc Net Administratorでは、PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの動作モードや、供給元/排出先スタッカーの指定などの主要な設定をします。

### 注意

- PP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-50BD に Total Disc Net Administrator 機能はありません。
- Total Disc Net Administrator の詳細は PP-100N、PP-100NE、PP-100NE II それぞれのユーザーズガイドを参照してください。

ここでは連携アプリケーションで使用するために必要な設定のみ説明します。

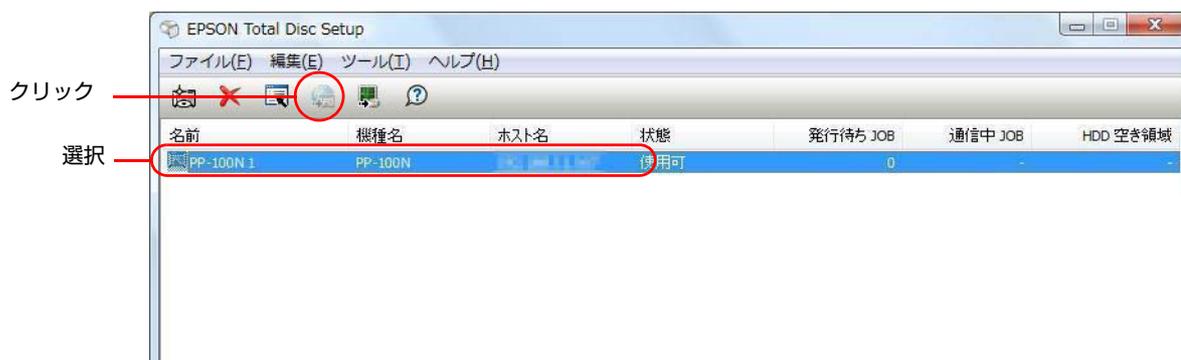
以下の作業は運用者が行ってください。

[スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON Total Disc Maker] - [EPSON Total Disc Setup]の順にクリックし、EPSON Total Disc Setupを起動します。

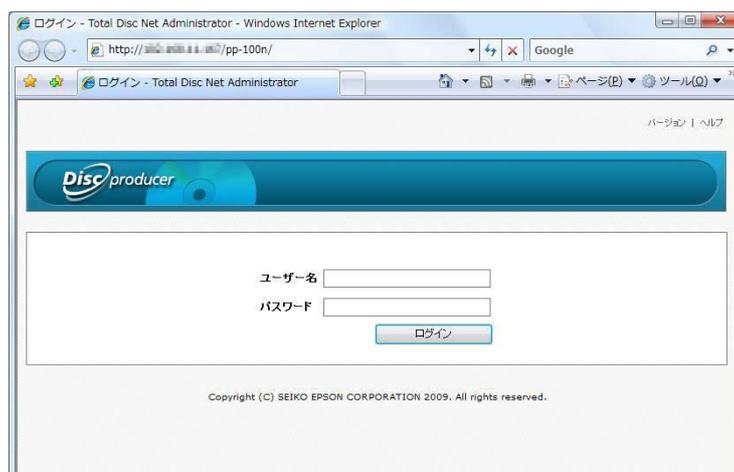
[ユーザーアカウント制御]画面が表示されます。

[続行]をクリックしてください。

使用するPP-100N / PP-100NE / PP-100NE II (CD/DVD パブリッシャー) を選択し、[Total Disc Net Administratorを起動]をクリックします。



Total Disc Net Administratorのログイン画面が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。



[システム設定] - [出力機器]タブを選択します。以下の設定ができます。



\* サーバシステムソフトウェア Ver1.10 の場合

設定項目		説明
機器名		PP-100N/ PP-100NE / PP-100NE IIの機器名を変更できます。
発行モード	モード	発行モードを設定します。標準モード、外部排出モード、バッチ処理モードから選択できます。 発行モードの詳細はお使いのDiscproducerのユーザーズガイドを参照してください。
	スタッカー 1,2	発行モードが標準モードの場合 スタッカー 1はディスク種類を設定し、スタッカー 2は排出先になります。 発行モードが外部排出モードの場合 スタッカー 1、2ともにディスク種類を設定します。 発行モードがバッチ処理モードの場合 スタッカー 1、2ともにディスク種類を設定します。 スタッカー 1、2で設定したディスク種類と、JDFファイルで設定したディスクの種類が異なる場合、エラーになります。
	スタッカー 3	発行モードが標準モードの場合 使用しない 発行モードが外部排出モードの場合 排出先か使用しないを選択できます。 発行モードがバッチ処理モードの場合 排出先
ドライブ設定	使用するドライブ	ディスクの書き込みに使用するドライブを選択します。“両方使用”、“ドライブ1のみ使用”、“ドライブ2のみ使用”のいずれかを選択できます。
	書き込みリトライ回数	ディスクの書き込みエラーが発生したときに再書き込みを行う回数を指定します。0回から9回まで入力できます。
プリンター設定	エラーが発生したディスクにエラーマークをつける	これをチェックすると、書き込み時にエラーが発生したディスクにエラーマークを印刷します。ディスクの発行後、書き込みが正常に行えなかったディスクを区別するのに役立ちます。

## 作業フォルダーの設定

Total Disc Setupの発行時の共通設定で、Discproducerが接続された端末の作業フォルダーを設定します。このフォルダーでは、書き込みデータや印刷データをイメージファイルに展開します。十分な容量があることを確認してください。

[スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON Total Disc Maker] - [EPSON Total Disc Setup]の順にクリックし、EPSON Total Disc Setupを起動します。

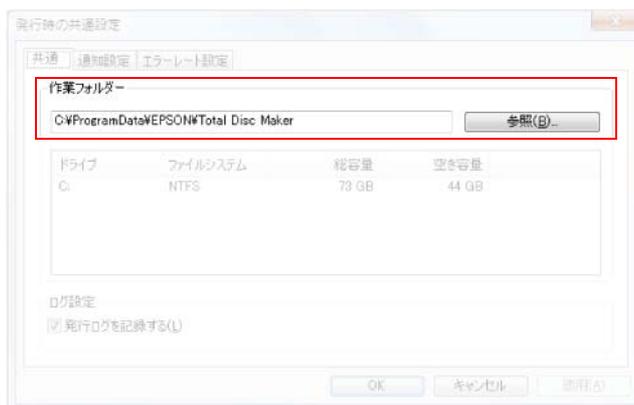
[ユーザーアカウント制御]画面が表示されます。

[続行]をクリックしてください。

[ツール] - [発行時の共通設定]をクリックします。



発行時の共通設定画面が表示されます。[参照]ボタンをクリックし、作業フォルダーを指定します。



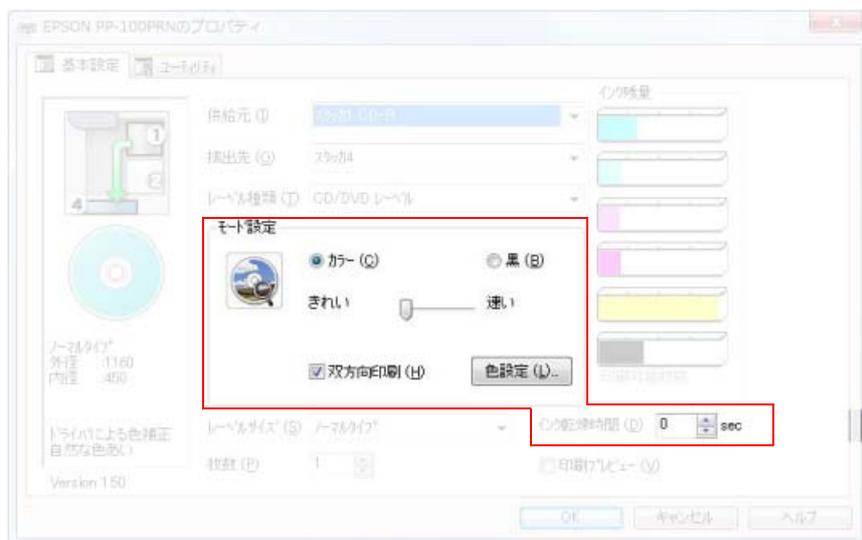
## プリンタードライバーの設定

プリンタードライバーでは、印刷に関する設定を行います。ここでは連携アプリケーションで使用するために必要な設定のみ説明します。

[スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON Total Disc Maker] - [EPSON Total Disc Maker]の順にクリックし、EPSON Total Disc Makerを起動します。

EPSON Total Disc Makerの起動後、[ツール] - [印刷設定]の順にクリックします。

プリンタードライバーの設定画面が表示されます。以下を設定できます。(\*画像はPP-100IIIの場合です)



設定項目		説明
モード設定	カラー / 黒	カラー印刷か、モノクロ印刷が設定します。
	双方向印刷	チェックすると双方向印刷になります。
	色設定	印刷の色合いを設定します。
インク乾燥時間		レーベル印刷が終了し、排出先スタッカーに排出されるまでのインク乾燥時間(0~600秒)を入力します。

# 連携アプリケーション開発ガイド

本章では、連携アプリケーションを作成していただくのに必要な事柄を説明します。

## 連携アプリケーションの機能

連携アプリケーションには、以下の機能を組み込んでください。

機能	内容
JDFファイルの作成/監視フォルダーへのコピー	ディスク書き込み/印刷するのに必要です。 必須機能です。
JDFファイルの監視(拡張子変更)	ジョブステータスを把握できます。 STFファイルからも取得できるので、必須ではありません。
STFファイルの監視/エラーハンドリング	STFファイルから、ジョブステータス/エラーコード/ディスク残量/インク残量などを取得できます。これらの情報を取得して必要なメッセージなどを表示してください。
キャンセル時のJCFファイルの作成/監視フォルダーへのコピー/監視	ジョブを途中でキャンセルする場合に必要です。キャンセルのステータスは、ファイルの拡張子で判別します。 推奨機能です。

### 参考

連携アプリケーションは、システム側、Discproducer の端末コンピューター側のどちらに組み込んでも構いません。確実に動作できる機能を組み込んでください。

# JDFファイル

JDFファイルとは、ディスクを作成するための指示書ファイルです。お客様の連携アプリケーションで作成していただけます。JDFファイルを監視フォルダーにコピーまたは移動すると処理が開始されます。

- ❑ ジョブID(指定しなくても可)、ディスクの種類や発行枚数、書き込むデータファイル/印刷データファイルなどを指定します。
- ❑ これはテキスト(ANSI)形式のファイルですが、拡張子をJDFとして作成してください。ファイル名は任意です。
- ❑ パスの指定には、UNC(Universal Naming Convention) で記述できます。
- ❑ 監視フォルダーにコピーまたは移動したJDFファイルは、削除したりファイル名の変更等をしてしないでください。また、ファイルの拡張子は動作状況によって変化します。詳細はJDFファイルの遷移図を参照してください。
- ❑ JDFファイルは、ジョブの完了/キャンセル/エラーになった後、60～120分で監視フォルダーからログフォルダーに自動的に移動します。(96ページ「ログ機能」を参照してください。)

## 注意

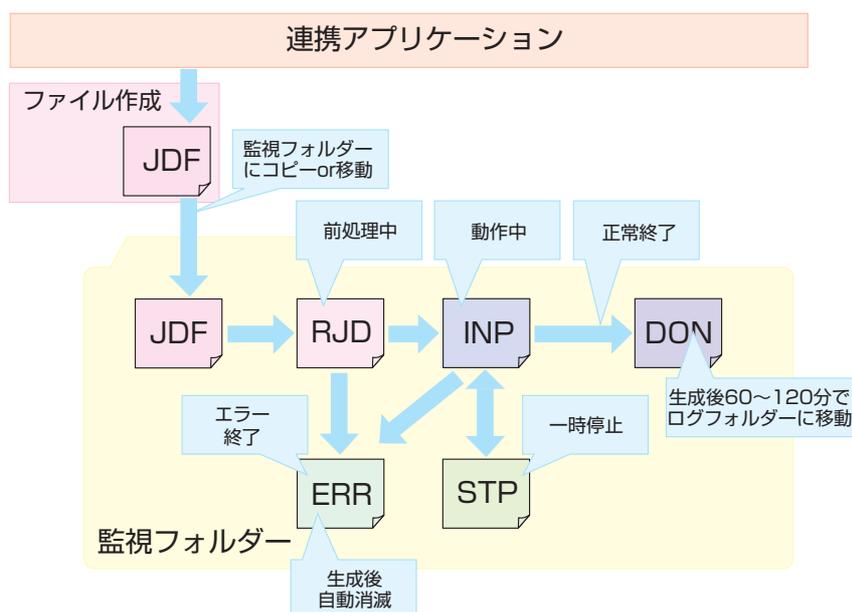
- JDF ファイルは連携アプリケーションで削除しないでください。
- 別のフォルダーに作成した JDF ファイルを、監視フォルダーにコピーまたは移動してください。監視フォルダー内に、JDF ファイルを作成（保存）しないでください。

## JDF ファイルの遷移図

JDFファイルはジョブの状態により、拡張子が変わります。JDF, RJD, INP, STPどの状態でもキャンセルすることができます。

これをモニタリングすることで、ある程度のステータスを確認できます。

詳細なステータスを把握するには、連携アプリケーションでSTFファイルを監視してください。また、端末のTotal Disc Monitor画面からも、ジョブやDiscproducerの状態を確認できます。



JDF, RJD, INP, STPからはキャンセルが可能です。

## JDF ファイルの記載例

以下の記載例は、CDのデータディスクを10枚作成します。差込印刷を行い、スタッカー2に排出します。

#データディスクを10枚作ります	コメント行
JOB_ID=001	
PUBLISHER=Publisher 0	
COPIES=10	
OUT_STACKER=2	
DISC_TYPE=CD	
FORMAT=ISO9660L2	
DATA=C:\Datafile\patient1	データディスク作成指定
VOLUME_LABEL=PCdatadisc	
LABEL=C:\Datafile\image1.tdd	差込印刷指定
REPLACE_FIELD=C:\Datafile\print.dat	

以下の記載例は、VideoCDを1枚作成し、スタッカー4に排出します。レーベル印刷はしますが、差込印刷はしません。

JOB_ID=002	
PUBLISHER=Publisher 0	
COPIES=1	
OUT_STACKER=4	
DISC_TYPE=CD	
VIDEO=C:\videofile\video.mpg	VideoCD作成指定
VIDEO_TITLE=Educational_video	
LABEL=C:\videofile\videoimage1.tdd	レーベル印刷指定

以下の記載例は、VideoCDを1枚作成し、スタッカー4に排出します。レーベル印刷はしますが、差込印刷はしません。ジョブの優先度を高くしているため、後からジョブを発行しても割り込むことができます。

JOB_ID=003	
PUBLISHER=Publisher 0	
COPIES=1	
OUT_STACKER=4	
DISC_TYPE=CD	
VIDEO=C:\videofile\video.mpg	VideoCD作成指定
VIDEO_TITLE=Educational_video	
LABEL=C:\videofile\videoimage1.tdd	レーベル印刷指定
PRIORITY=HIGH	ジョブの優先度の指定

以下の記載例は、AudioCDを1枚作成し、スタッカー4に排出します。レーベル印刷はしますが、差込印刷はしません。

```
JOB_ID=004
PUBLISHER=Publisher 0
COPIES=1
OUT_STACKER=4
DISC_TYPE=CD
AUDIO_TRACK=PATH:C:\audiodata\musicfile1.wav (TAB) TITLE:music1
(TAB) PERFORMER:Singer (TAB) PREGAP:150
AUDIO_TRACK=PATH:C:\audiodata\musicfile2.wav (TAB) TITLE:music2
(TAB) PERFORMER:Singer (TAB) PREGAP:150
AUDIO_TITLE=Best_music
LABEL=C:\audiodata\audioimage1.tdd
```

AudioCD作成指定

レーベル印刷指定

以下の記載例は、1枚のディスクにレーベル印刷のみ行って、スタッカー4に排出します。

```
JOB_ID=005
PUBLISHER=Publisher 0
COPIES=1
OUT_STACKER=4
DISC_TYPE=CD
LABEL=C:\labelfile\labelimage1.tdd
```

レーベル印刷指定



レーベルファイルには、あらかじめ別のアプリケーションから Discproducer のプリンタードライバーで生成した PRN ファイルを指定することもできます。

以下の記載例は、読み込みPlug-inの呼び出しを行います。スタッカー1にセットされた書き込み済みディスクを10枚読み込み、ディスクから読み込んだファイルを"c:\readdata"に保存します。読み込んだディスクはスタッカー2に排出します。(PP-100III / PP-100II / PP-50BDのみ)

```
JOB_ID=007
PUBLISHER=Publisher 0
COPIES=10
IN_STACKER=1
OUT_STACKER=2
DISC_TYPE=CD
PLUG_IN_ID=EPSONTotalDiscReader
PLUG_IN_PARAMETER=-r "c:\readdata" -k 1 -f 1
```

Plug-inの呼び出し

## コメント行について

JDFファイルに記載する場合、#で始まる行はコメント行とみなされ無視されます。行の先頭に#が無い場合は、コメント行とみなされません。

- 例1 : #DATA=C:\Data\test1.dat ←コメント行とみなされる
- 例2 : ##DATA=C:\Data\test1.dat ←コメント行とみなされる
- 例3 : # ←コメント行とみなされる  
DATA=C:\Data\test1.dat ←コメント行とみなされない  
# ←コメント行とみなされる

## 設定項目リスト

以下はJDFファイルに記載する設定項目リストです。すべての項目を記載する必要はありません。

キー名 : 大文字小文字を区別し、小文字が含まれている場合は無効なキー名として無視されます。また、最後にスペースがある場合も無効なキー名として無視されます。

値 : キー名直後の"="以降、改行コード、または、EOFまでを値とみなします。

指定の終わり : ファイルの先頭から処理し、改行コードのみの行、または、EOFが見つかったら指定の終わりとみなします。

キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須/任意	PP-100AP以外キーの有効/無効	PP-100APキーの有効/無効
JOB_ID	ジョブを一意に識別するためのIDを指定します。	すでに存在するジョブIDと重複しないIDを指定します。(このIDは、後述するSTFファイルの[JOB_ID]やジョブをキャンセルするときのJCFファイルの[JOB_ID]で使用します。)指定されていない場合、TD Bridgeによって自動生成されます。	40文字	半角英数, "-", "_"	任意	○	○
PUBLISHER	ディスクを発行する機器の機器名を指定します。	Total Disc Setupで登録した機器の機器名を指定します。指定されていない場合、TD Bridge環境設定の既定出力機器になります。環境設定の既定出力機器も設定されていない場合、Total Disc Setupで登録された出力機器が1台のみであればその機器が出力機器になります。(複数台の場合はエラーになります)	64文字	Total Disc Setupで登録した機器の機器名	任意	○	○
COPIES	発行するディスクの枚数を指定します。	【全モード共通】 1 ≤ X ≤ 1000の範囲で指定可能。 指定されていない場合、1になります。	4文字	半角数値	任意	○	○
OUT_STACKER	出力するスタッカーを指定します。	【出力先機器が標準モードの場合】 【出力機器がPP-100III/PP-100II/PP-100APの場合】 スタッカー 2を出力スタッカーにする場合、"2"を指定します。 スタッカー 3を出力スタッカーにする場合、"3"を指定します。 スタッカー 4を出力スタッカーにする場合、"4"を指定します。 【出力機器がPP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合】 スタッカー 2を出力スタッカーにする場合、"2"を指定します。 スタッカー 4を出力スタッカーにする場合、"4"を指定します。 【出力機器がPP-50BDの場合】 スタッカー 2を出力スタッカーにする場合、"2"を指定します。 スタッカー 3を出力スタッカーにする場合、"3"を指定します。  スタッカーを指定しない場合、TD Bridgeの環境設定の既定排出先となります。環境設定で既定排出先を設定していない状態で指定しないと、スタッカー 2が出力スタッカーになります。 【出力先機器が標準モードでない場合】 無効 (指定しても無視されます)	1文字	PP-100III / PP-100II / PP-100APの場合 "2", "3", "4" PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合 "2"または"4" PP-50BDの場合 "2"または"3"	任意	○	○

キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須/任意	PP-100AP以外キーの有効/無効	PP-100APキーの有効/無効
DISC_TYPE	発行するディスクの種類を指定します。	【出力機器がPP-100N / PP-100NEの場合】 CDを発行したい場合、"CD"を指定します。DVD 1層を発行したい場合、"DVD"を指定します。DVD 2層を発行したい場合、"DVD-DL"を指定します。 【出力機器がPP-100III / PP-100II / PP-100NE II / PP-50BDの場合】 CDを発行したい場合、"CD"を指定します。DVD 1層を発行したい場合、"DVD"を指定します。DVD 2層を発行したい場合、"DVD-DL"を指定します。 BD 1層を発行したい場合、"BD"を指定します。BD 2層を発行したい場合、"BD-DL"を指定します。 【出力機器がPP-100APの場合】 指定しません。(指定しても無効)	6文字	"CD","DVD","DVD-DL","BD","BD-DL"のいずれか	必須	○	—
WRITING_SPEED	ディスクヘータを書き込む際のライティング速度をディスク種類に応じて指定します。	何倍速で書き込みたいか、速度[N]を指定します。 【"CD-R"の場合】 "40","32","24","16","10","4"のいずれかを指定します。 【"DVD-R"の場合】 "12","8","6","4","2","1"のいずれかを指定します。 【"DVD+R"の場合】 "12","8","6","4","2.4"のいずれかを指定します。 【"DVD-R DL"の場合】 "8","6","4","2"のいずれかを指定します。 【"DVD+R DL"の場合】 "8","6","4","2.4"のいずれかを指定します。 【"BD"の場合】 PP-50BD "6","4","2"のいずれかを指定します。 PP-100III / PP-100II / PP-100NE II "8","6","4","2"のいずれかを指定します。 【"BD DL"の場合】 PP-50BD "6","4","2"のいずれかを指定します。 PP-100III / PP-100II / PP-100NE II "8","6","4","2"のいずれかを指定します。 【共通】 ディスク種類と一致しない速度を指定した場合、指定した速度の次に遅い速度になります。 指定されていない場合、最高速で書き込まれます。	3文字 ※ピリオド含む	"40","32","24","16","12","10","8","6","4","2.4","2","1"のいずれか	任意	○	—
COMPARE	ディスク書き込み後に、コンペアするかどうかを指定します。	コンペアする場合、"YES"を指定します。コンペアしない場合、"NO"を指定します。指定しない場合、コンペアされません。AudioCDは、COMPAREを指定してもコンペアしません。	3文字	"YES"または"NO"	任意	○	—

キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須/任意	PP-100AP以外キーの有効/無効	PP-100APキーの有効/無効
FORMAT (*1)	データディスクを作成する場合、記録フォーマットを指定します。	【ディスク種類がCDの場合】 ISO9660レベル2で作成する場合、"ISO9660L2"を指定します。 Jolietで作成する場合、"JOLIET"を指定します。 UDF1.0.2で作成する場合、"UDF102"を指定します。 指定しない場合、ISO9660レベル2で作成されます。 【ディスク種類がDVDの場合】 UDF1.0.2で作成する場合、"UDF102"を指定します。 UDF1.50で作成する場合、"UDF150"を指定します。 UDF1.0.2 + UDF Bridgeで作成する場合、"UDF102_BRIDGE"を指定します。 指定しない場合、UDF1.0.2 + UDF Bridgeで作成されます。 【ディスク種類がBDの場合】 UDF1.0.2で作成する場合、"UDF102"を指定します。 UDF2.60で作成する場合、"UDF260"を指定します。 指定しない場合、UDF2.60で作成されます。	13文字	"ISO9660L2", "JOLIET", "UDF102", "UDF150", "UDF102_BRIDGE", "UDF260"のいずれか	任意	○	—
DATA (*1)	データディスクの書き込みファイルおよびフォルダーを指定します。	データディスクを作成する場合、書き込みデータの書き込み元パスと書き込み先パスを指定します。 書き込み元に指定するパスは、TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たパスを記述します。 (書き込み先に指定するパス名の詳細は、書き込みデータの指定方法を参照してください)	511文字	49ページ「記録フォーマットと制限事項」を参照してください。	任意	○	—
DATA_LIST (*1)	データディスクの書き込みデータをファイルリストで指定する場合、ファイルリストファイルのパスを指定します。	TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たファイルリストファイルのパスを記述します。 (ファイルリストファイル内で書き込み先に指定するパス名の詳細は、書き込みデータの指定方法を参照してください)	255文字	パスとして有効な文字列	任意	○	—
VOLUME_LABEL (*1)	データディスクのボリュームラベルを指定します。	データディスクにボリュームラベルを設定する場合、ボリュームラベルを指定します。	*4	*4	任意	○	—
VIDEO (*2)	Video-CDを作成する場合、ビデオトラックに設定するビデオファイルのパスを指定します。 DVD-Videoを作成する場合、VIDEO_TSフォルダーのパスを指定します。	TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たVideoファイルのパス、または、VIDEO_TSフォルダーのパスを記述します。 VideoCDを作る場合、"DISC_TYPE"に"CD"を、DVD-Videoの場合"DISC_TYPE"に"DVD"または"DVD-DL"を指定します。 "DATA"または"DATA_LIST"が指定されている場合は無効になります。(指定しても無視します)	255文字	パスとして有効な文字列	任意	○	—
VIDEO_TITLE (*2)	Video-CDまたはDVD-Videoにビデオタイトルを設定する場合、ビデオタイトルを指定します。	Video-CDまたはDVD-Videoのビデオタイトルにする文字列を指定します。 "DATA"または"DATA_LIST"が指定されている場合は無効になります。(指定しても無視します)	32文字	Video-CD : 半角英大文字, 半角数字, " " DVD-Video : 半角英数, " "	任意	○	—
IMAGE (*3)	イメージファイルからディスクを作成する場合、Total Disc Makerで作成したイメージファイルのパスを指定します。	TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たイメージファイルのパスを記述します。 "DATA","DATA_LIST","VIDEO"のいずれかが指定されている場合は無効になります。(指定しても無効)	255文字	パスとして有効な文字列	任意	○	—

キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須/任意	PP-100AP以外キーの有効/無効	PP-100APキーの有効/無効
AUDIO_TRACK	AudioCDを作成する場合、トラック情報を指定します。	AudioCDのトラック情報をトラック数分指定します。 "DATA","DATA_LIST","VIDEO","IMAGE"のいずれかが指定されている場合は無効になります。 (指定して無視されます) 詳細は50ページ「AudioCDトラック情報の指定方法」を参照してください。	520文字	音楽ファイルパス：制限なし トラックタイトル：マルチバイトに変換可能な文字 トラックアーティスト名：マルチバイトに変換可能な文字 プリギャップ：半角数値	任意	○	—
AUDIO_TITLE	AudioCDにアルバム名を設定したい場合、アルバム名を指定します。	AudioCDのアルバム名にしたい文字列を指定します。 "DATA","DATA_LIST","VIDEO","IMAGE"のいずれかが指定されている場合は無効になります。 (指定しても無視されます)	128文字	マルチバイトに変換可能な文字	任意	○	—
AUDIO_CATALOG_CODE	AudioCDにMCN(Media Catalog Number)情報を設定したい場合、MCNを指定します。	AudioCDのMCNに設定したい文字列を指定します。	13文字	半角数値	任意	○	—
AUDIO_PERFORMER	AudioCDにアーティスト名を設定したい場合、アーティスト名を指定します。	AudioCDのアーティスト名にしたい文字列を指定します。 "DATA","DATA_LIST","VIDEO","IMAGE"のいずれかが指定されている場合は無効になります。 (指定しても無視されます)	128文字	マルチバイトに変換可能な文字	任意	○	—
LABEL	レーベル印刷を行う場合、レーベルファイルのパスを指定します。 (PP-100III / PP-100II / PP-100N / PP-100NE / PP-100NEII / PP-50BDは任意、PP-100APIは必須です)	TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たレーベルファイルのパスを記述します。 レーベルファイルに指定できるのは、EPSON Total Disc Makerで作成されたファイル(.tdd)、PRNファイル、BMPファイル、JPEGファイル、TIFFファイル、PNGファイルのいずれかです。	255文字	パスとして有効な文字列	任意/必須	○	○
REPLACE_FIELD	差込印刷を行う場合、テキストアイテムファイルのパスを指定します。	TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たテキストアイテムファイルのパスを記述します。 (LABELにPRNファイルを指定すると、差込印刷できません。差込印刷に関しては差込印刷設定を参照してください)	255文字	パスとして有効な文字列	任意	○	○
LABEL_AREA	レーベル画像の印刷領域を指定します。	外径、および、内径を指定します。 LABELキーにBMPファイル、JPEGファイル、TIFFファイル、PNGファイルのいずれかを指定していない場合は無効になります。(指定しても無視されます) 詳細は56ページ「印刷領域の指定」を参照してください。	4文字	半角数値	任意	○	○
PRIORITY	ジョブの優先度を指定します。	ジョブの優先度を高くしたい場合、"HIGH"を指定します。	4文字	"HIGH"	任意	○	○
LABEL_TYPE	レーベル種類を指定します。	"CD/DVDレーベル"を指定したい場合、"1"を指定します。 "高画質対応 CD/DVDレーベル"を指定したい場合、"2"を指定します。 "光沢CD/DVDレーベル"を指定したい場合、"3"を指定します。 指定されていない場合、環境設定のレーベル種類となります。	1文字	半角数値	任意	○	○
PRINT_MODE	印刷モードを指定します。	印刷品質を重視する場合は"1"を指定し、印刷速度を重視する場合は"2"または"3"を指定します。("3"の方が印刷速度は速くなります。) 指定されていない場合、環境設定の印刷モードとなります。 ※ "3" はPP-100APの場合のみ指定可能 ※レーベル種類に"光沢CD/DVDレーベル"を指定した場合は無効 ("きれい" 固定)	1文字	半角数値	任意	○	○

キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須/任意	PP-100AP以外キーの有効/無効	PP-100APキーの有効/無効
IN_STACKER	供給元にしたスタッカーを指定します。	【出力先機器が外部排出モードの場合】 スタッカー 1を供給元にした場合、"1"を指定します。 スタッカー 2を供給元にした場合、"2"を指定します。 スタッカー 1とスタッカー 2を供給元にした場合、"AUTO"を指定します。 指定しない場合、環境設定の既定供給元となります。 【出力先機器が外部排出モードでない場合】 無効 (指定しても無視される)	4文字	"1","2","AUTO"のいずれか	任意	—	○
PLUG_IN_ID	実行するPlug-inを指定します。	読み込みPlug-inの場合、 "EPSONTotalDiscReader"を指定します。 "EPSONTotalDiscReader"は、PP-100III / PP-100II / PP-50BDのみ実行可能です。	40文字	半角英数, "-", "_"	任意	○*5	—
PLUG_IN_PARAMETER	実行するPlug-inに渡す、パラメーターを指定します。	48ページ [PLUG_IN_PARAMETER]を参照してください。	1024文字	制御文字を含まず、マルチバイトに変換可能な文字	任意	○*5	—
SESSION	マルチセッション書き込みのディスク発行を指定します。 この指定をすることで、複数のJDFファイルの内容を1枚のディスクに書き込むことが可能になります。 このキーを指定した場合以下の制約があります。 ・「JOB_ID」の指定が必須になります。 ・「DATA」、または「DATA_LIST」のどちらかを指定する必要があります。 ・「FORMAT」の指定は「UDF102」のみ指定可能です。	"FIRST"を設定した場合 ディスクの最初の書き込みデータを指定します。 このJDFファイルで指定されたジョブが実行されると書き込みが終了した状態でドライブ内にディスクが入ったまま次の書き込みデータが送られてくるまでジョブは一時停止します。 以下のキーは"FIRST"が指定されたときのみ指定が可能です。 ("FIRST"以外で指定されても無視されます) PUBLISHR COPIES OUT_STACKER DISC_TYPE WRITING_SPEED COMPARE FORMAT VOLUME_LABEL PRIORITY IN_STACKER  "NEXT"を設定した場合 ディスクへの追加書き込みを行います。 同じ「JOB_ID」を指定されたディスクに対して追記を行うため、同じ「JOB_ID」が指定された "SESSION=FIRST"のJDFファイルの受付がされていないとエラーになります。 このJDFファイルで指定されたジョブが実行されると書き込みが終了した状態でドライブ内にディスクが入ったまま次の書き込みデータが送られてくるまでジョブは一時停止します。  "END"を設定した場合 ディスクへの追加書き込みを行います。 同じ「JOB_ID」を指定されたディスクに対して追記を行うため、同じ「JOB_ID」が指定された "SESSION=FIRST"のJDFファイルの受付がされていないとエラーになります。 このJDFファイルで指定されたジョブが実行されると書き込みが終了したのちドライブからディスクが排出されます。	5文字	以下のいずれか "FIRST", "NEXT", "END"	任意	○*6	—

キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須/任意	PP-100AP以外キーの有効/無効	PP-100APキーの有効/無効
SESSION_TIMEOUT	マルチセッション書き込みで、前のデータの書き込みが終了してから次のデータを受信するまでのタイムアウト時間を指定します。 指定した時間が経過しても次のデータを指定したJDFファイルが発行されない場合エラーになります。	タイムアウト値を秒単位で指定します。「SESSION」が指定されている状態で、このキーが省略された場合、「1800」(30分)が指定されます。 タイムアウトを無効にする場合「0」を指定します。 タイムアウトせずに次のデータが送られてくるまで待ちます。	5文字	"0"~"9"	任意	○*6	—

○：有効, ×：無効

\*1 データディスクを作成する場合設定します。

\*2 VideoCDを作成する場合のみ設定します。

\*3 イメージファイルから作成する場合のみ設定します。

\*4 記録フォーマットがISO9660L2の場合：文字数は32文字まで。半角英大文字, 半角数字, "\_"以外の文字は使用できません。

記録フォーマットがJolietの場合：文字数は16文字まで。半角英大文字, 半角数字, "\_"以外の文字は使用できません。

記録フォーマットがUDFの場合：文字数は62文字まで。

記録フォーマットがUDF Bridgeの場合：ISO9660L2の場合と同様。

\*5 PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIIは無効です。

\*6 PP-100III利用時のみ有効です。

## PLUG\_IN\_PARAMETER

読み込みPlug-inで指定するパラメーターは以下になります。

複数のパラメーターを指定する場合は、" "(半角スペース)で区切ってください。

指定する内容	説明	設定例	必須 / 任意
読み込み種類の指定	<p>ディスクに書き込まれているファイルをそのまま読み込むか、ディスクイメージファイルを作成するか指定します。</p> <p>"k" + " "(半角スペース) + 数値</p> <p>数値が1の場合： ファイルコピーする。</p> <p>数値が2の場合： ディスクイメージファイルを作成する。</p> <p>数値が上記以外の場合と省略された場合、数値が1の場合と同じ動作になります。</p>	<p>ファイルコピー</p> <p>-k 1</p> <p>ディスクイメージを作成</p> <p>-k 2</p>	任意
読み込みディスクごととフォルダー作成の指定	<p>読み込むディスクごとにサブフォルダーを作成するか指定します。読み込み種類が"ファイルコピーする場合(-k 1)"のみ有効です。</p> <p>"f" + " "(半角スペース) + 数値</p> <p>数値が1の場合： ディスクごとにサブフォルダーを作成し、その下に読み込んだファイルを保存します。読み込んだすべてのファイルが保存されます。</p> <p>数値が2の場合： "保存先フォルダー"に指定したフォルダーに、読み込んだすべてのファイルをコピーします。同名のファイルが存在する場合、更新日付の新しいファイルだけが保存されます。</p> <p>数値が上記以外の場合と省略された場合、数値が1の場合と同じ動作になります。</p>	<p>ディスクごととフォルダーを作成</p> <p>-f 1</p> <p>ディスクごととフォルダーを作成しない</p> <p>-f 2</p>	任意
保存先フォルダーの指定	<p>ディスクから読み込んだファイルを保存するフォルダーを指定します。</p> <p>"r" + " "(半角スペース) + フォルダーのフルパス</p>	<p>読み込んだファイルを</p> <p>"c:\readdata"フォルダーの下に保存</p> <p>-r "c:\readdata"</p>	必須

## 記録フォーマットと制限事項

記録 フォーマット	ファイル名 フォルダー名に 使用できない文字	文字数制限		最大フォルダー 階層数
		ファイル名	フォルダー名	
ISO9660L2	"a~z" [\ \ ^ ' { }   @ # \$ % / : * ? " < > ; 全角	31文字 (ドット「.」+拡張子3文字を含む) (62 Byte)	31文字 (62 Byte)	8階層
Joliet	\ / : * ? " < >   ;	64文字 (ドット「.」+拡張子3文字を含む) (128 Byte)	64文字 (128 Byte)	128階層
UDF102	\ / : * ? " < >	126文字 (ドット「.」+拡張子3文字を含む) (252 Byte)	126文字 (252 Byte)	128階層
UDF150	\ / : * ? " < >	126文字 (ドット「.」+拡張子3文字を含む) (252 Byte)	126文字 (252 Byte)	128階層
UDF102_BRIDGE	"a~z" [\ \ ^ ' { }   @ # \$ % / : * ? " < > ; 全角	31文字 (ドット「.」+拡張子3文字を含む) (62 Byte)	31文字 (62 Byte)	8階層
UDF260	\ / : * ? " < >	126文字 (ドット「.」+拡張子3文字を含む) (252 Byte)	126文字 (252 Byte)	128階層

## AudioCD トラック情報の指定方法

AudioCD トラック情報は以下の方法で指定します。複数のトラックを書き込みたい場合は、トラックの数だけ指定と改行を繰り返します。

**AUDIO\_TRACK=PATH:音楽ファイルパス(タブ文字)TITLE:トラックタイトル(タブ文字)PERFORMER:トラックアーティスト名(タブ文字)PREGAP:プリギャップ**

- 音楽ファイルパス (必須)  
AudioCD のトラックに設定したいファイルを、TD Bridge がインストールされているコンピューターから見たパスで記述します。指定可能なファイルの形式は、WAV,MP3,WMA のいずれかです。  
キーワード "PATH:" に続けて指定します。
- トラックタイトル (任意)  
AudioCD のトラックに設定したいタイトルを記述します。  
キーワード "TITLE:" に続けて指定します。  
トラックタイトルにはタブ文字は使用できません。
- トラックアーティスト名 (任意)  
AudioCD のトラックに設定したいアーティスト名を記述します。  
キーワード "PERFORMER:" に続けて指定します。  
トラックアーティスト名にはタブ文字は使用できません。
- プリギャップ (任意)  
AudioCD のトラックに設定したいプリギャップをフレーム単位で記述します。  
指定可能な値の範囲は、0 ~ 269999 (0分0秒0フレーム~59分59秒74フレーム) です。  
キーワード "PREGAP:" に続けて指定します。
- ISRC (任意)  
AudioCD のトラックに設定したい ISRC を記述します。  
キーワード "ISRC:" に続けて、ハイフン (-) を含まない 12 桁の文字を指定します。  
指定できる文字は、半角英大文字 (A ~ Z) および半角数字 (0 ~ 9) です。

### 記述例

音楽ファイルだけを指定する場合

```
AUDIO_TRACK=PATH:C:\Audiodata\musicfile1.wav
```

すべて指定する場合

```
AUDIO_TRACK=PATH:C:\Audiodata\musicfile1.wav(TAB)TITLE:music1(TAB)PERFORMER: Singer(TAB)PREGAP:150(TAB)ISRC:JPAA00123456
```

複数のトラックを、音楽ファイルだけ指定する場合

```
AUDIO_TRACK=PATH:C:\Audiodata\musicfile1.wav
```

```
AUDIO_TRACK=PATH:C:\Audiodata\musicfile2.wav
```

```
AUDIO_TRACK=PATH:C:\Audiodata\musicfile3.wav
```

## データディスク作成 - 書き込みデータフォルダー/ファイルの指定方法

データディスク作成時、書き込みデータフォルダー/ファイルの記述方法は以下のとおりです。

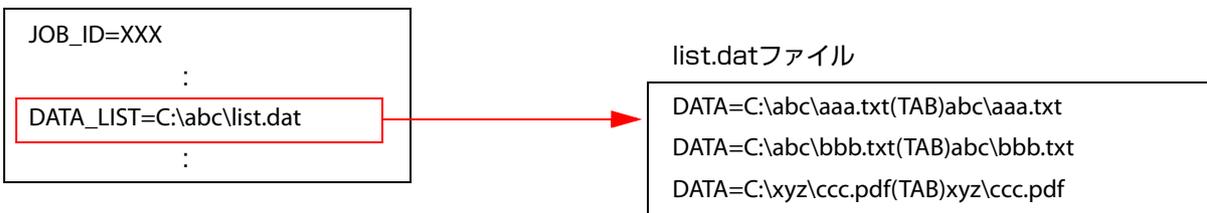
- 指定方法 : DATA=書き込み元 (タブ文字) 書き込み先
- 書き込み元 : 書き込みたいファイルまたはフォルダーを、TD Bridgeがインストールされているコンピューターから見たパスで記述します。  
フォルダーを指定した場合、指定されたフォルダーに含まれるファイルとサブフォルダーが書き込みの対象となり、指定されたフォルダー自体は書き込まれません。
- 書き込み先 : 書き込み先のファイルまたはフォルダーを、ディスクのルートから見た絶対パスで記述します。  
ディスクのルートを表す記号 ("\\") は記述する必要はありません。また、ディスクのルートに書き込む場合、(タブ文字) を含めて書き込み先を記述する必要はありません。
- 複数指定 : 複数のファイルまたはフォルダーを書き込む場合は、書き込みたいファイルまたはフォルダーの数だけ指定と改行を繰り返します。

### JDFファイルで直接書き込みデータを指定

```
JOB_ID=XXX
      :
DATA=C:\abc\aaa.txt(TAB)abc\aaa.txt
DATA=C:\abc\bbb.txt(TAB)abc\bbb.txt
DATA=C:\xyz\ccc.pdf(TAB)xyz\ccc.pdf
      :
```

書き込みデータのパスを直接JDFファイルに記述することもできますが、ファイルリストファイルを指定することもできます。

### JDFファイルでファイルリストファイル (list.dat) を指定



## ファイルリストファイル

ファイルリストファイルとは、JDFファイルとは別のファイルに書き込みデータのパスを記述したファイルです。ファイルリストファイルを作成することにより、JDFファイルに大きな変更を加えることなく書き込みデータを指定できます。ファイルリストファイルはテキスト(ANSI)形式で記述します。

(指定できない拡張子はCDN, CER, DON, ERR, INP, JCF, JDF, RJD, STPです。)

記述方法はデータディスク作成-書き込みデータフォルダー/ファイルの指定方法を参照してください)

## 指定例

- ケース1：ファイル (C:\abc\data.txt) を、ディスクのルートにあるフォルダー (abc) の中に、ファイル (data.txt) として書き込む場合。

指定方法：DATA=C:\abc\data.txt(TAB)abc\data.txt

※フォルダー (abc) は、別途作成の指定をしなくとも自動的に作成されます。

- ケース2：ファイル (C:\abc\data.txt) を、ディスクのルートにファイル (data.txt) として書き込む場合。

指定方法：DATA=C:\abc\data.txt

- ケース3：書き込み元がなく、ディスクのルートにフォルダー (abc)を新規作成する場合。

指定方法：DATA=abc

- ケース4：書き込み元がなく、ディスクのルートにフォルダー (abc) を新規作成し、フォルダー (abc) のサブフォルダーとしてフォルダー (def) を新規作成する場合。

指定方法：DATA=abc\def

※フォルダー (abc) とフォルダー (abc\def) を別々に指定する必要はありません。

- ケース5：指定したフォルダー (C:\data) 以下のファイルとサブフォルダーを、ディスクのルートに書き込む場合。

指定方法：DATA=C:\data

※フォルダー (C:\data) 自体は書き込まれません。

- ケース6：指定したフォルダー (C:\data) 以下のファイルとサブフォルダーを、ディスクのルートにあるフォルダー (abc) の中に書き込む場合。

指定方法：DATA=C:\data(TAB)abc

※フォルダー (C:\data) 自体は書き込まれません。また、フォルダー (abc) は、別途作成 の指定をしなくとも自動的に作成されます。

## エラーとなる場合

書き込み先に同一名のファイルやフォルダーを指定することはできません。以下のように指定した場合、エラーとなってしまいます。

DATA=C:\abc ← このフォルダーの中にファイル (abc.txt) が存在。

DATA=C:\def ← このフォルダーの中にファイル (abc.txt) が存在。

フォルダーを指定した場合、その中に含まれるファイルとサブフォルダーはそのままの名前で書き込まれます。

しかし、指定したフォルダーは書き込まれません。上記の例では、フォルダー (C:\abc) とフォルダー (C:\def) には、名前が重複するファイル (abc.txt) が存在するためエラーになります。

## レーベルファイルの作成

レーベルファイルとはディスクの表面に印刷するイメージファイルです。レーベルファイルの作成には以下の方法があります。

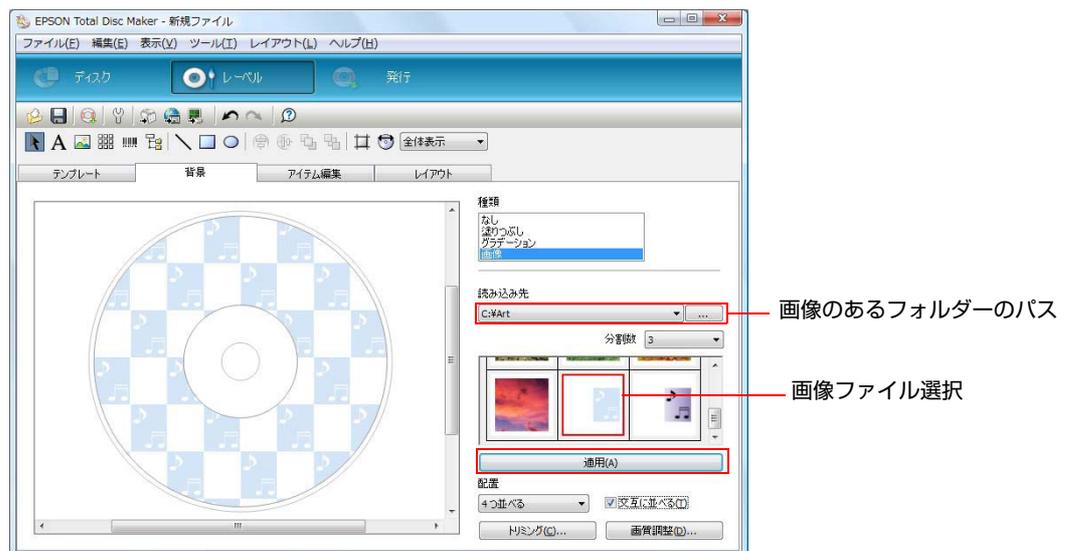
- EPSON Total Disc Makerで作成
- お客様のアプリケーションで作成

### EPSON Total Disc Maker で作成する

レーベルファイルをEPSON Total Disc Makerを使い、以下の手順で作成します。

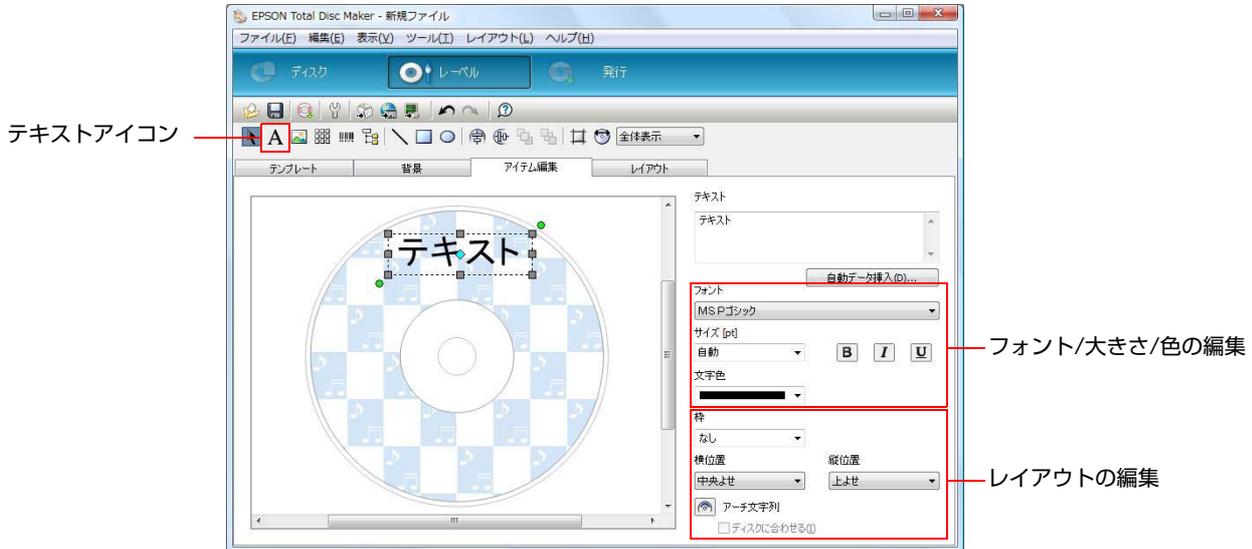
(EPSON Total Disc Makerの使い方および指定できる画像ファイルの種類は、「Discproducer ユーザーズガイド」または、「EPSON Total Disc Maker」のヘルプを参照してください。)

- 1 [ スタート ] – [ すべてのプログラム ] – [ EPSON Total Disc Maker ] – [ EPSON Total Disc Maker ] の順にクリックし、EPSON Total Disc Maker を起動します。
- 2 [ レーベル ]-[ 背景 ] タブをクリックします。[ 種類 ] から [ 画像 ] を選択し、[ 読み込み先 ] に画像のあるフォルダーのパスを入力します。  
パス入力後、画像が表示されます。画像を選択して [ 適用 ] をクリックし、背景に設定します。



### 3 文字を印刷する場合は、[ アイテム編集 ] タブをクリックします。テキストを配置し、編集します。

テキストアイコンを選択し、編集エリアでドラッグすると配置できます。



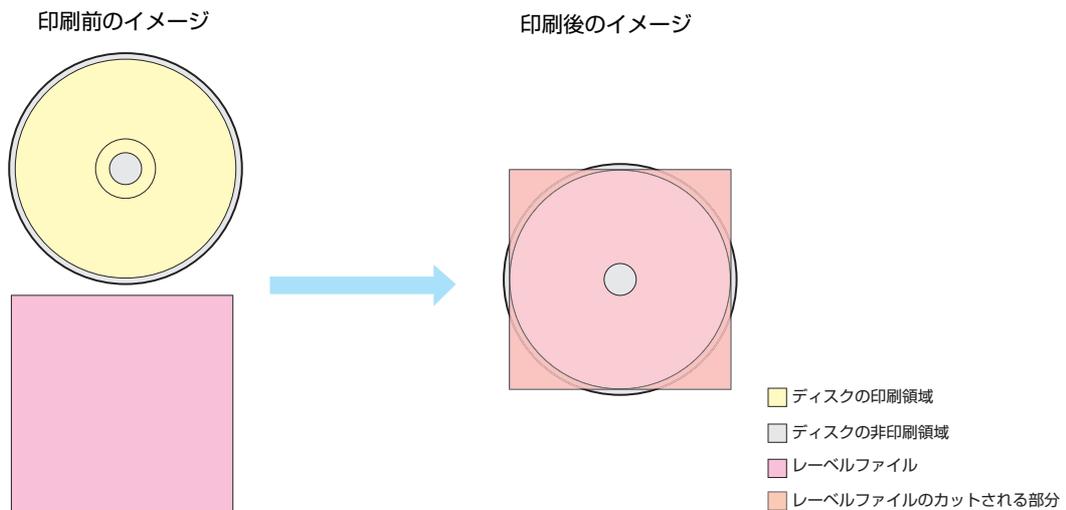
### 4 [ ファイル ]-[ 名前を付けて保存 ] をクリックします。任意の名前を付けて保存します。保存されたレーベルファイルの拡張子は TDD になります。このファイルを JDF ファイルで指定すると、レーベル印刷を行います。

## お客様のアプリケーションで作成

お客様のアプリケーションを使用してレーベルファイルを作成します。  
BMP, JPEG, TIFF, PNGのいずれかの形式で作成してください。

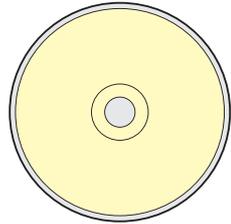
## 印刷イメージ

作成したレーベルファイルのサイズが、ディスクの印刷領域(1700\*1700)と同じ場合、以下のように印刷されます。

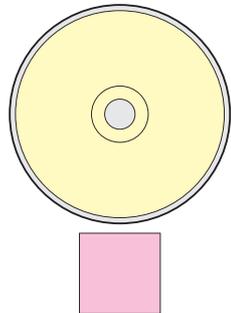


レーベルファイルのサイズがディスクの印刷領域(1700\*1700)と異なる場合、拡大/縮小されます。

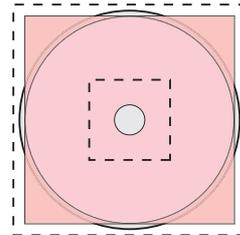
ディスクの印刷領域より大きい場合



ディスクの印刷領域より小さい場合



印刷後のイメージ



- ディスクの印刷領域
- ディスクの非印刷領域
- レーベルファイル
- レーベルファイルのカットされる部分

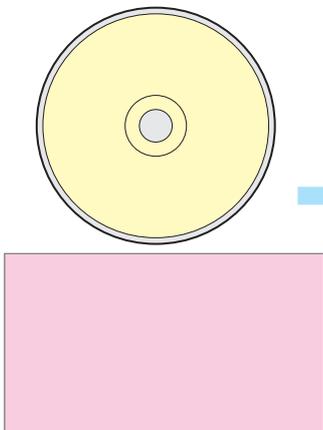
**注意**

レーベルファイルが拡大 / 縮小された場合、画質が劣化します。

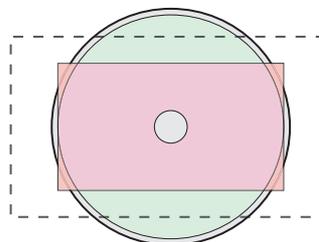
レーベルファイルが長方形の場合、長辺がディスクの印刷領域(1700\*1700)の直径になるよう、縦横比を保ったまま拡大/縮小されます。

また、印刷領域の上下または左右に余白部分が発生します。

印刷前のイメージ

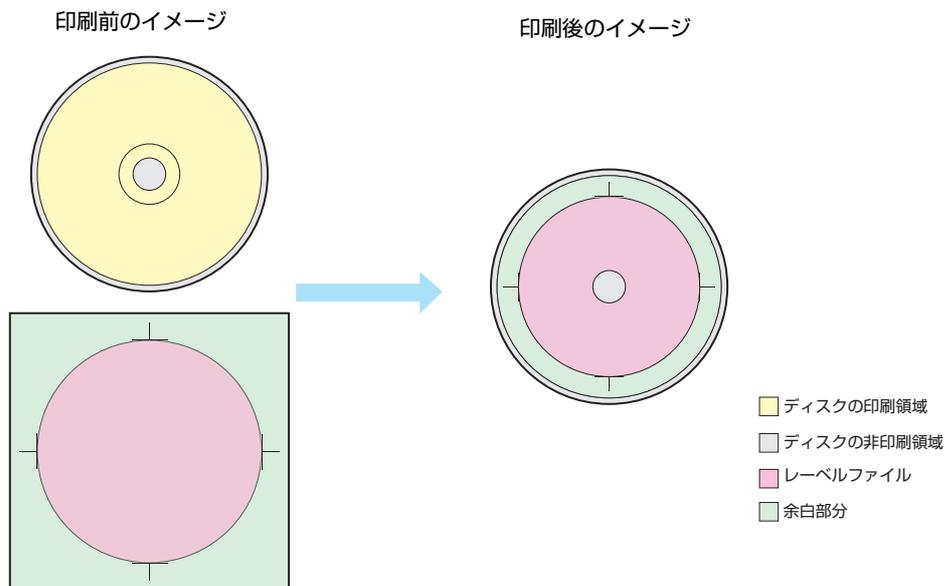


印刷後のイメージ



- ディスクの印刷領域
- ディスクの非印刷領域
- レーベルファイル
- レーベルファイルのカットされる部分
- 余白部分

レーベルファイルにトンボや余白がある場合、余白やトンボはそのまま印刷されます。



## 印刷領域の指定

レーベルファイルの形式がBMP, JPEG, TIFF, PNGのいずれかの場合、印刷領域の外径/内径を指定することができます。指定は任意です。

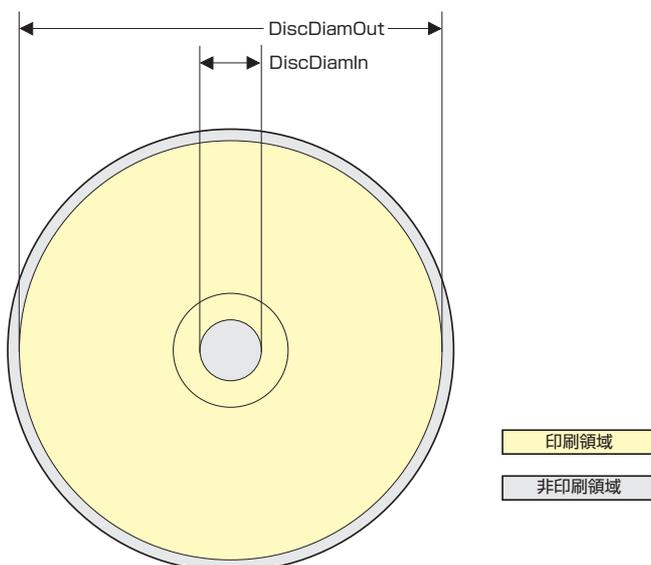
### 注意

印刷領域の指定は、ディスクのレーベル印刷領域の範囲内にしてください。  
レーベル印刷領域外に指定すると、インクが他のものに付着して汚れることがあります。

LABEL\_AREA=DiscDiamOut:外径(タブ文字)DiscDiamIn:内径

- 外径 (任意)  
ディスク印刷領域の外径を 1/10 mm 単位で指定します。指定可能な範囲は 700 ~ 1194 で、指定されていない場合、外径は 116 mm になります。
- 内径 (任意)  
ディスク印刷領域の内径を 1/10 mm 単位で指定します。指定可能な範囲は 180 ~ 500 で、指定されていない場合、内径は 45 mm になります。

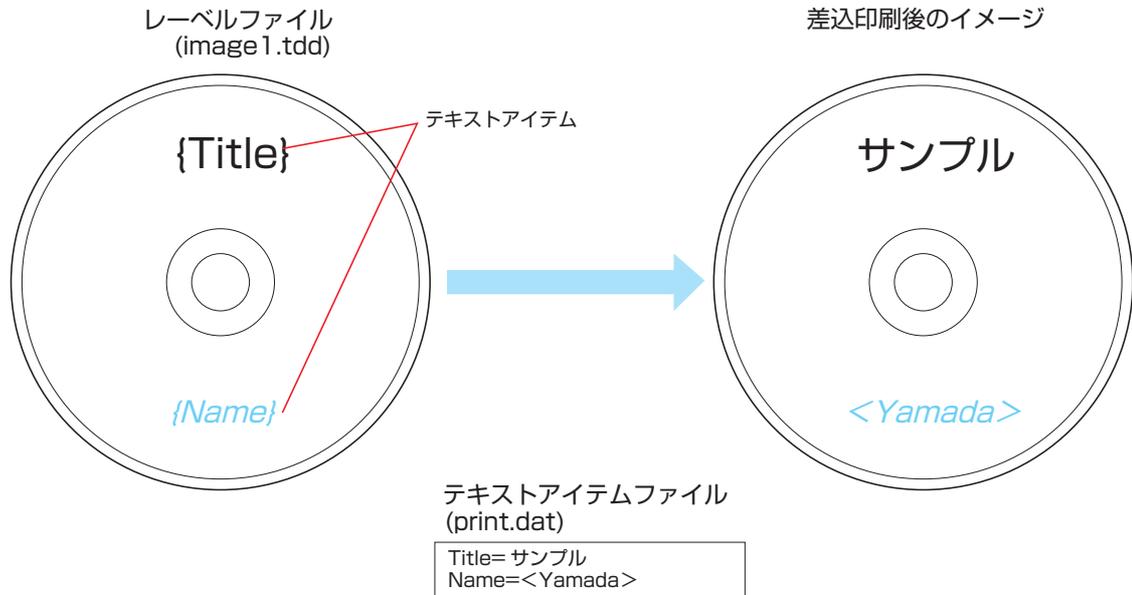
外径/内径の指定イメージ



## テキストの差込印刷

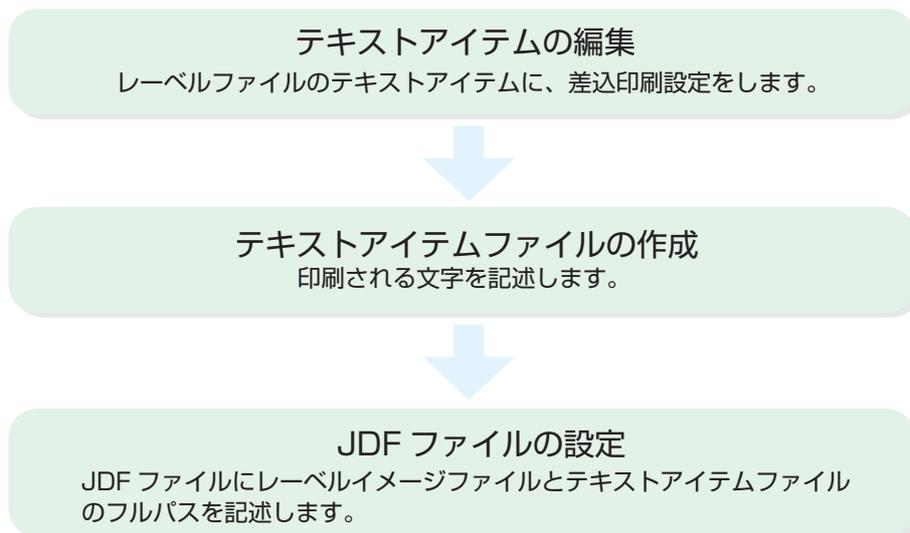
### テキストの差込印刷とは

レーベルファイルのテキストアイテムを、テキストアイテムファイルに記述されているテキストに差し換えて印刷します。



### 設定手順

テキストの差込印刷をする場合以下の手順で行います。



## テキストアイテムの編集

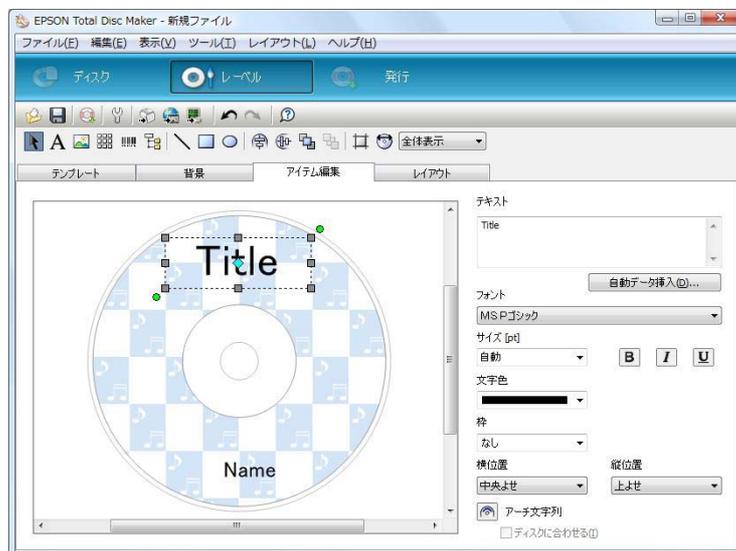
差込印刷をするにはレーベルファイルのテキストアイテムを編集します。レーベルファイルの編集はEPSON Total Disc Makerを使います。

- 1 [スタート] – [すべてのプログラム] – [EPSON Total Disc Maker] – [EPSON Total Disc Maker] の順にクリックし、EPSON Total Disc Maker を起動します。  
背景とするレーベルファイルを開き、[レーベル] – [アイテム編集] タブをクリックします。

### 参考

新たにレーベルファイルを作成したり、テンプレートファイルを使用することもできます。

- 2 編集するテキストアイテムを選択します。  
テキストが無い場合はテキストを追加します。テキストアイコンをクリックし、テキストアイテムを配置します。

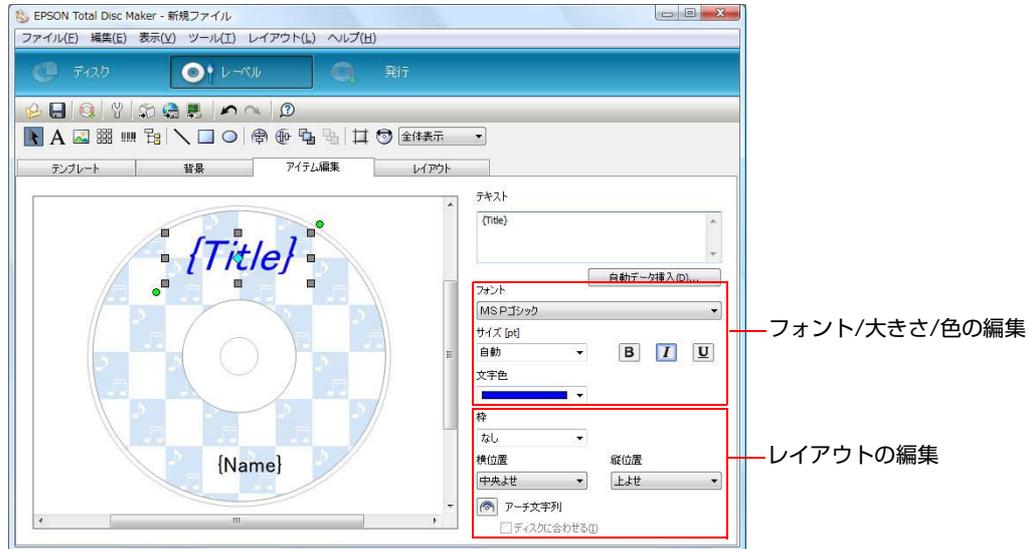


### 注意

テキストアイテムの枠の大きさは、差込む文字数や文字の大きさを考慮してください。差込む文字数がテキストアイテムの枠を超えてしまう場合、超えた分の文字は印字されません。

### 3 テキストの前後を "{" で囲みます。(例：Title → {Title}) "{" で囲まれたテキストアイテムは、差込印刷用のテキストアイテムになります。

テキストのフォント / 大きさ / 色などを編集します。これは差込むテキストにも反映されます。"サイズ"を"自動"に設定した場合、テキストアイテム枠に合わせて文字の大きさが変化します。



**参考**

差込印刷設定しないテキストアイテムは、そのまま印字されます。

#### 差込印刷のルール

テキストアイテム例	差込むテキスト	印刷結果	説明
{Title}	Title=サンプル	サンプル	基本的なテキストアイテムです。差込むテキストがそのまま印刷されます。
{ID} : 山田太郎	ID=001	001 : 山田太郎	"{" で囲まれていない部分は置換えられません。
{{Memo}}	Memo=メモ	{Memo}	先頭を"{"にした場合、"{"に置換えられますが、置換え対象にはなりません。
{Address}	-	空文字	テキストアイテムを作成しても、差込むテキストが無い場合、空文字に置換えられます。

複数の差込印刷をする場合は、手順2、3を繰り返します。

### 4 [ ファイル ]-[ 名前を付けて保存 ] をクリックします。任意の名前を付けて保存し、レーベルファイルを作成します。

保存されたレーベルファイルの拡張子は TDD になります。このファイルを JDF ファイルで指定します。

## テキストアイテムファイルの作成

テキストアイテムファイルとは実際に印刷される文字データのファイルです。このファイルは以下の方法に従って、お客様にて用意していただきます。

項目	内容
ファイル形式	テキスト(ANSI)形式
ファイル名	任意
指定できない拡張子	CDN, CER, DON, ERR, INP, JCF, JDF, RJD, STP

## テキストアイテムファイルの記述方法

テキストアイテム = 置換えるテキスト の形式で記述します。

(テキストアイテムの前後にある "{}" は記述しません)

- **テキストアイテム**

テキストアイテムには、半角英数、"-","\_" のみ使用可能で、大文字小文字は区別しません。半角英数、"-","\_" 以外の文字を使用した場合、エラーになります。

- **置換えるテキスト**

置換えるテキストに改行コードを指定したい場合は "\n" を指定し、"\n" そのものを指定したい場合は "\\n" を指定してください。

タブ文字は使用できません。使用した場合エラーになります。

1024文字を超える指定はできません。超えた場合、エラーになります。

("<" は内部処理により "<<" に変換されるため、2文字としてカウントされます。)

テキストアイテムがあってもテキストアイテムファイルに置換えるテキストが無い場合、空文字に置換えられます。

### テキストアイテムファイル例(print.dat)

```
Title=サンプル
Name=<Yamada>
```

## JDF ファイルの設定

JDFファイルにレーベルファイルと、テキストアイテムファイルのパスを記述します。

レーベルファイル (image1.tdd) とテキスト (print.dat) を記載したJDFファイル例は以下のとおりです。

### JDFファイル(demo.jdf)

```
JOB_ID=PATIENT00120071100
PUBLISHER=Publisher 0
COPIES=1
OUT_STACKER=4
DISC_TYPE=CD
FORMAT=ISO9660L2
DATA=C:\TDBridgeDemoFolder\hospital\ServerRoom\patient1
LABEL=C:\TDBridgeDemoFolder\hospital\uketsuke\LabelImage\image1.tdd
REPLACE_FIELD=C:\TDBridgeDemoFolder\hospital\uketsuke\ReplaceFieldData\print.dat
```

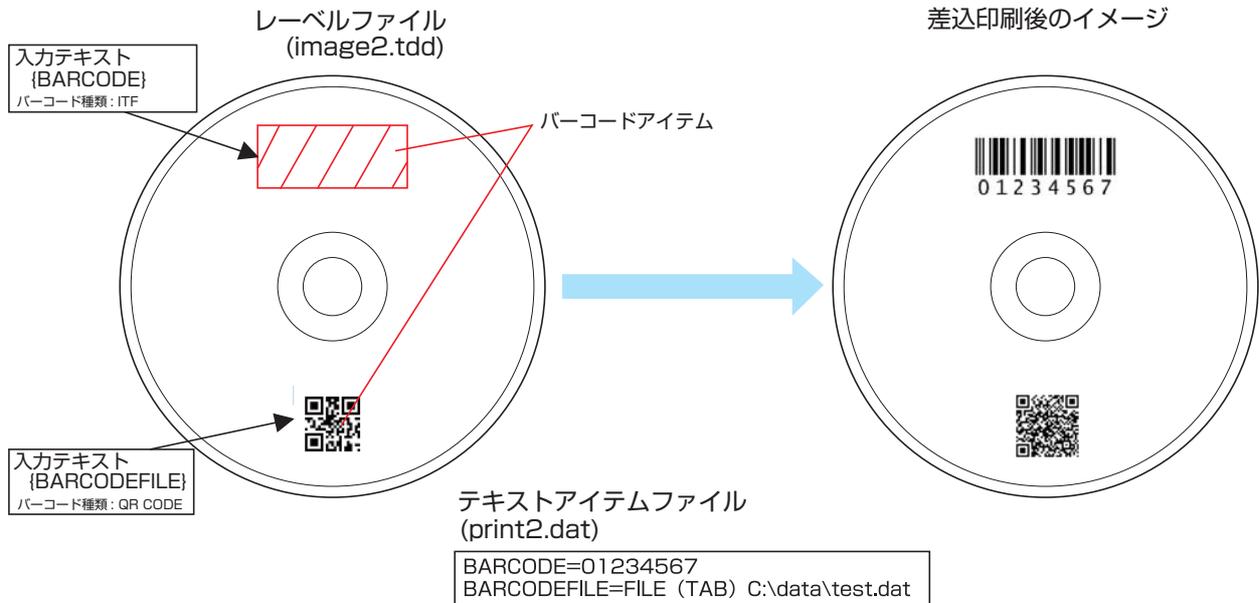
テキストアイテムファイルの指定

レーベルファイルの指定

## バーコードの差込印刷

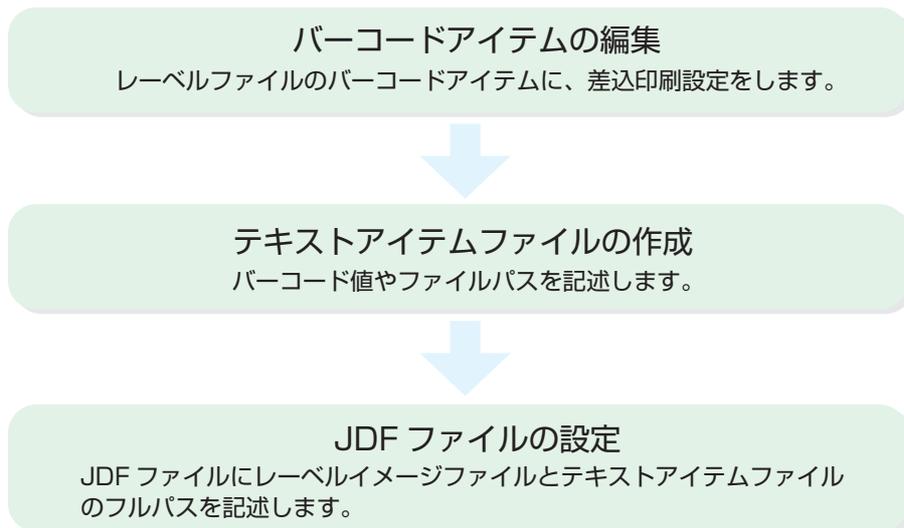
### バーコードの差込印刷とは

レーベルファイルのバーコードアイテムを、テキストアイテムファイルに記録されているバーコード値に差し換えて印刷します。



### 設定手順

バーコードの差込印刷をする場合以下の手順で行います。



## バーコードアイテムの編集

差込印刷をするにはレーベルファイルのバーコードアイテムを編集します。レーベルファイルの編集はEPSON Total Disc Makerを使います。

- 1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON Total Disc Maker] - [EPSON Total Disc Maker] の順にクリックし、EPSON Total Disc Maker を起動します。  
背景とするレーベルファイルを開き、[レーベル] - [アイテム編集]タブをクリックします。

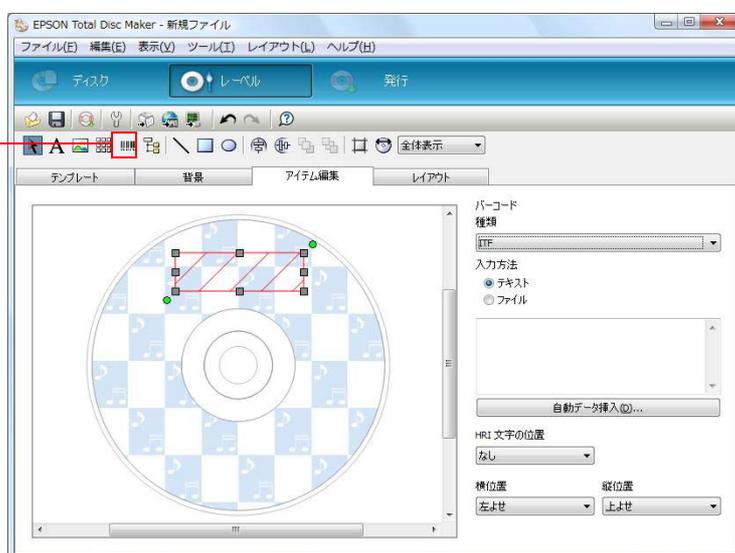
### 参考

新たにレーベルファイルを作成したり、テンプレートファイルを使用したりできます。

- 2 編集するバーコードアイテムを選択します。

バーコードアイテムが無い場合バーコードを追加します。バーコードアイコンをクリックし、バーコードアイテムを配置します。

バーコードアイコン

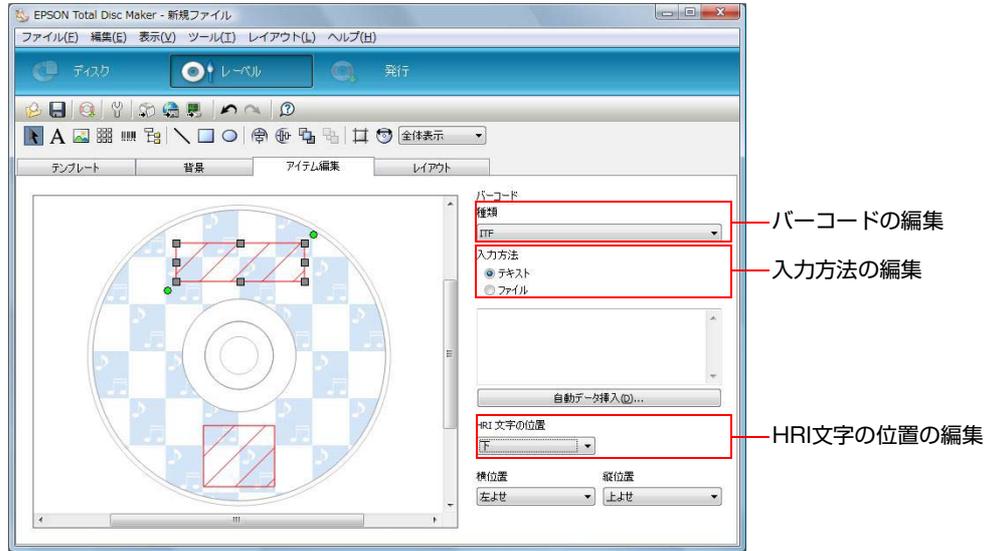


### 注意

バーコードアイテムの枠の大きさは、運用上あり得る最大長のデータを入力して問題なく印刷できることを事前に確認してください。  
差込むデータがバーコードアイテムの枠を超えてしまう場合、バーコードは印刷されません。

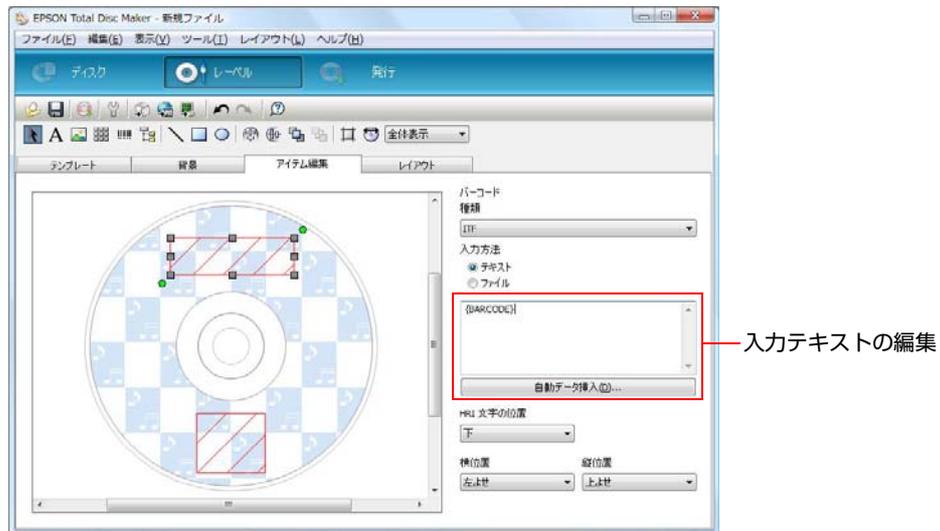
### 3 バーコードアイテムを編集します。

バーコードの種類、入力方法、HRI文字の位置などを編集します。(入力方法は"テキスト"を選択してください)



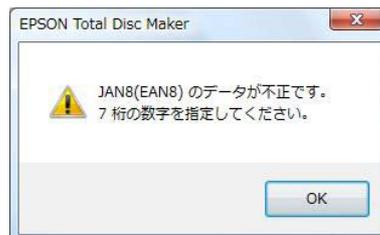
### 4 入力テキストの前後を "{" で囲みます。(例：{BARCODE}) "{" で囲まれたバーコードアイテムは、差込印刷用のバーコードアイテムになります。

バーコードアイテムは斜線で表示されますが、ディスクにはバーコードが印刷されます。



#### 参考

- 差込印刷設定しないバーコードアイテムは、そのまま印字されます。
- バーコードの種類によっては、キーワードを入力後に下記のメッセージが表示されますが、[OK]を押して問題ありません。



- 1つのバーコードアイテムに複数の差込指定はできません。(例：{BARCODE}{BARCODE\_2})

複数の差込印刷をする場合は、手順2～4を繰り返します。

5 [ファイル]-[名前を付けて保存] をクリックします。任意の名前を付けて保存し、レーベルファイルを作成します。

保存されたレーベルファイルの拡張子は TDD になります。このファイルを JDF ファイルで指定します。

## テキストアイテムファイルの作成

テキストアイテムファイルとは実際に印刷される文字データのファイルです。このファイルは以下の方法に従って、お客様にて用意していただきます。

項目	内容
ファイル形式	テキスト(ANSI)形式
ファイル名	任意
指定できない拡張子	CDN, CER, DON, ERR, INP, JCF, JDF, RJD, STP

## テキストアイテムファイルの記述方法

テキストアイテムファイルの記述方法には、バーコード値を記述する方法と、ファイルパスを記述する方法があります。

### バーコード値の記述方法

バーコードアイテム = バーコード値

- **バーコードアイテム**

バーコードアイテムには、バーコードアイテムの前後にある "{}" は記述しません。

バーコードアイテムには、半角英数, "-", "\_" のみ使用可能で、大文字小文字は区別しません。半角英数, "-", "\_" 以外の文字を使用した場合、エラーになります。

- **バーコード値**

バーコード値には、置換して印刷されるバーコードの基になる値を指定します。

バーコード値には、タブ文字は使用できません。使用した場合エラーになります。

バーコード値に、改行コードを指定したい場合は "\n" を指定し、"\n" そのものを指定したい場合は "\\n" を指定してください。

### ファイルパスの記述方法

バーコードアイテム = FILE(TAB) バーコードファイルのパス

- **バーコードアイテム**

バーコードアイテムには、バーコードアイテムの前後にある "{}" は記述しません。

バーコードアイテムには、半角英数, "-", "\_" のみ使用可能で、大文字小文字は区別しません。半角英数, "-", "\_" 以外の文字を使用した場合、エラーになります。

- **バーコードファイルのパス**

ファイルパスには、置換して印刷されるバーコードのバイナリーデータが記述されたファイルのパスを記述します。

### テキストアイテムファイル例(print2.dat)

```
BARCODE=01234567
BARCODEFILE=FILE (TAB) C:\data\test.dat
```

## JDF ファイルの設定

JDF ファイルの設定はテキストの差込印刷と同じになります。60ページ「JDF ファイルの設定」を参照してください。

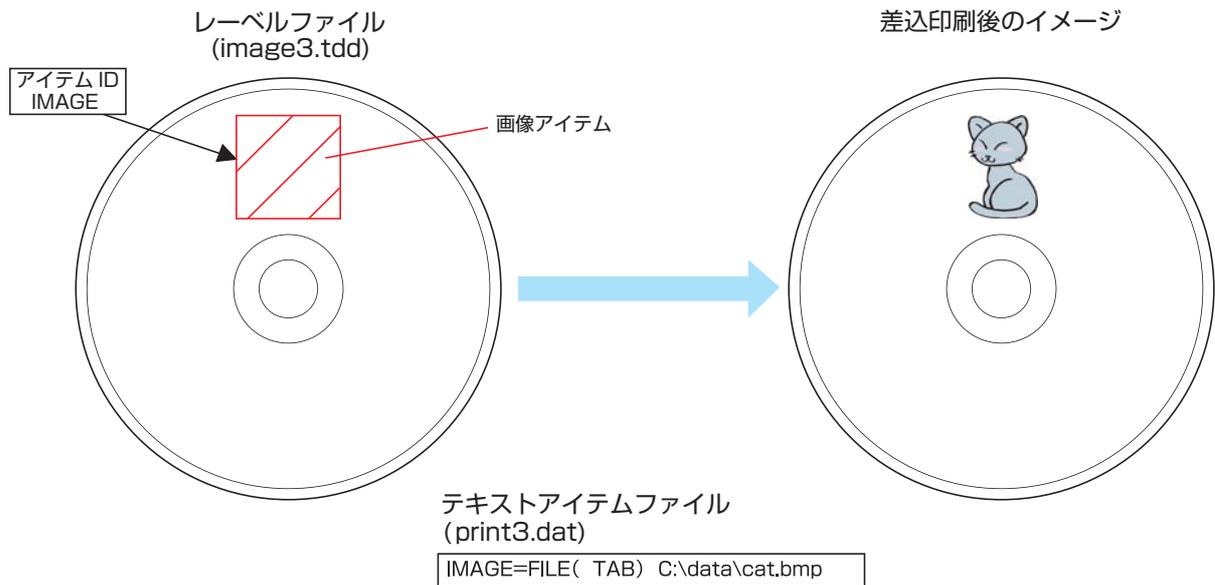
## テキスト / バーコード / 画像アイテムの差込印刷

1つのレーベルファイルに、テキストアイテム、バーコードアイテム、画像アイテムを差込印刷することができます。  
69ページ「[テキスト/バーコード/画像アイテムの差込印刷](#)」を参照してください。

### 画像の差込印刷

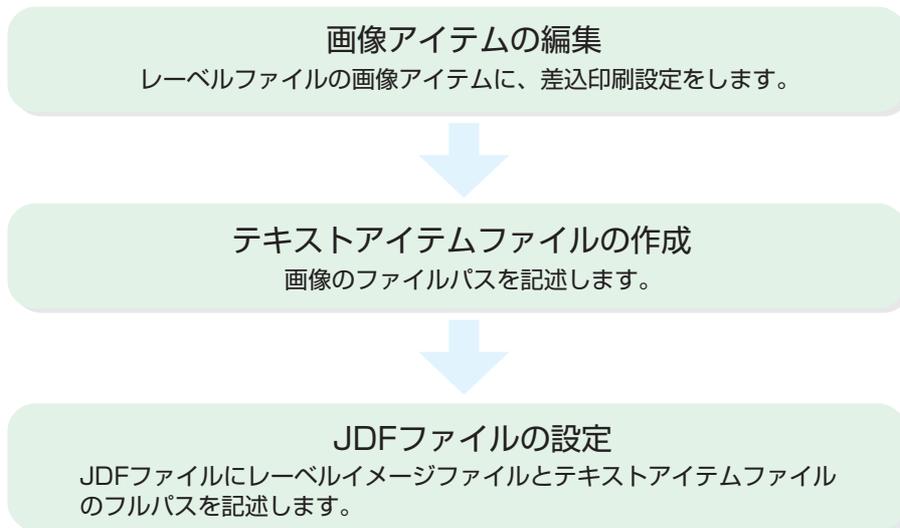
#### 画像の差込印刷とは

レーベルファイルの画像アイテムを、テキストアイテムファイルに記録されている画像に差し換えて印刷します。



#### 設定手順

画像の差込印刷をする場合以下の手順で行います。



## 画像アイテムの編集

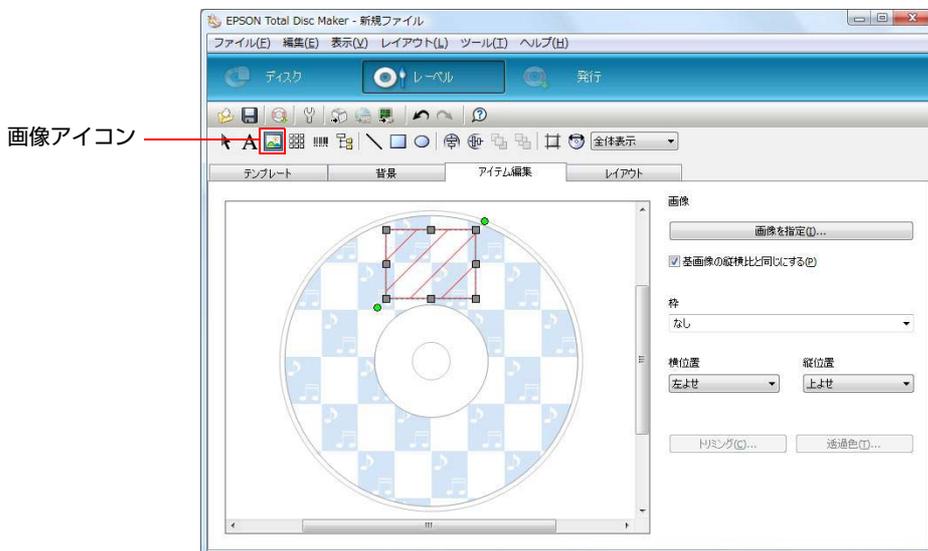
差込印刷をするにはレーベルファイルの画像アイテムを編集します。レーベルファイルの編集はEPSON Total Disc Makerを使います。

- 1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [EPSON Total Disc Maker] - [EPSON Total Disc Maker] の順にクリックし、EPSON Total Disc Maker を起動します。  
背景とするレーベルファイルを開き、[レーベル] - [アイテム編集]タブをクリックします。

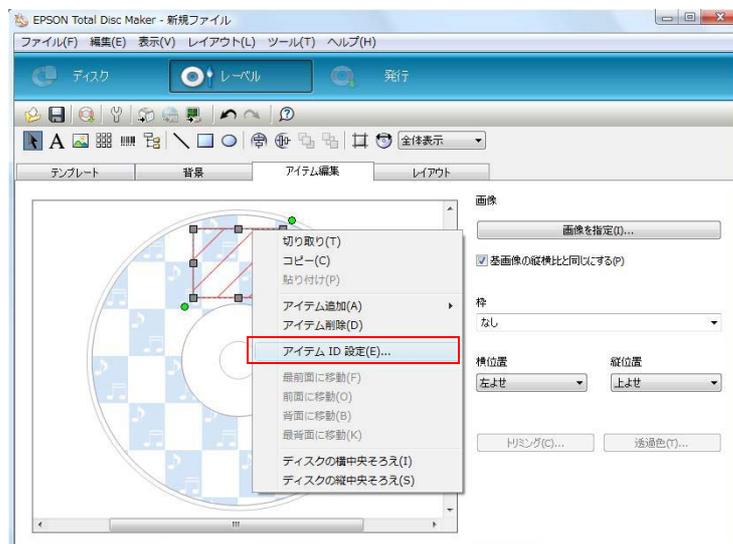
### 参考

新たにレーベルファイルを作成したり、テンプレートファイルを使用したりできます。

- 2 編集する画像アイテムを選択します。  
画像アイテムが無い場合、画像アイテムを追加します。画像アイコンをクリックし、画像アイテムを配置します。



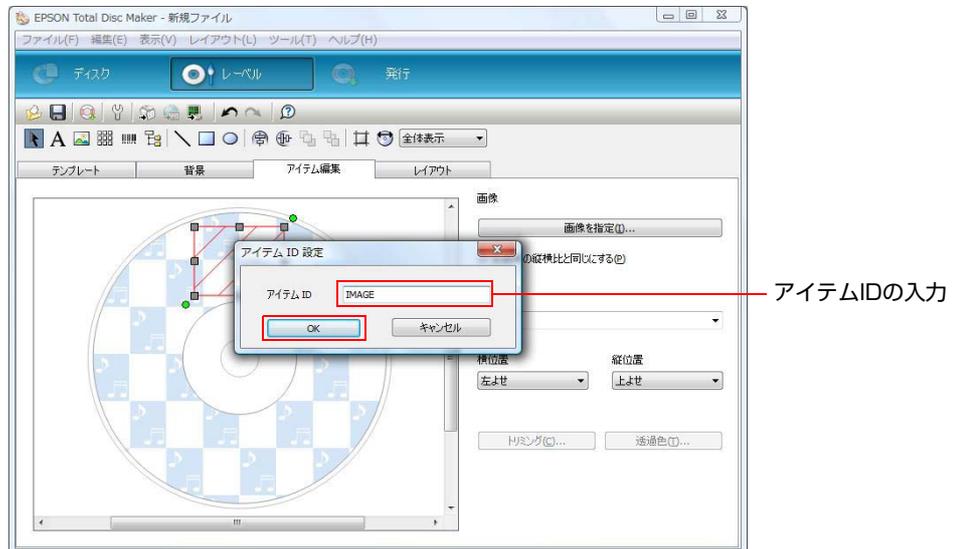
- 3 画像アイテムを選択した状態で右クリックし、表示されたメニューから、[ アイテム ID 設定 ] を選択します。



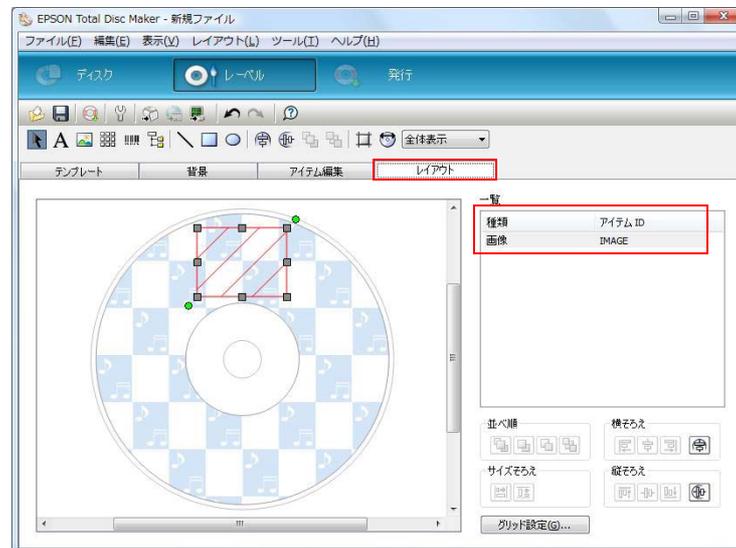
#### 4 アイテム ID ダイアログが表示されます。任意のアイテム ID を入力します。(例: IMAGE) 入力後、[OK] ボタンをクリックします。

アイテム ID には、半角英数, "-", "\_" のみ使用してください。大文字小文字は区別されません。

画像アイテムは斜線で表示されますが、ディスクには画像が印刷されます。複数の差込印刷をする場合は、手順 2 ~ 4 を繰り返します。



#### 5 [レイアウト] タブをクリックします。画像アイテムに、アイテム ID が設定されたか確認します。



#### 6 [ファイル]-[名前を付けて保存] をクリックします。任意の名前を付けて保存し、レーベルファイルを作成します。

保存されたレーベルファイルの拡張子は TDD になります。このファイルを JDF ファイルで指定します。

---

## テキストアイテムファイルの作成

テキストアイテムファイルとは実際に印刷される文字データのファイルです。このファイルは以下の方法に従って、お客様にて用意していただきます。

項目	内容
ファイル形式	テキスト(ANSI)形式
ファイル名	任意
指定できない拡張子	CDN, CER, DON, ERR, INP, JCF, JDF, RJD, STP

## テキストアイテムファイルの記述方法

アイテムID=FILE(TAB)画像ファイルのパス

- アイテム ID

アイテム ID には、半角英数, "-", "\_" のみ使用可能で、大文字小文字は区別しません。半角英数, "-", "\_" 以外の文字を使用した場合、エラーになります。

- 画像ファイルのパス

画像ファイルのパスには、置換して印刷される画像のバイナリーデータが記述されたファイルのパスを記述します。画像ファイルに指定できるのは、BMP, JPEG, TIFF, PNG ファイルのいずれかです。

テキストアイテムファイル例(print3.dat)

```
IMAGE=FILE (TAB) C:\data\cat.bmp
```

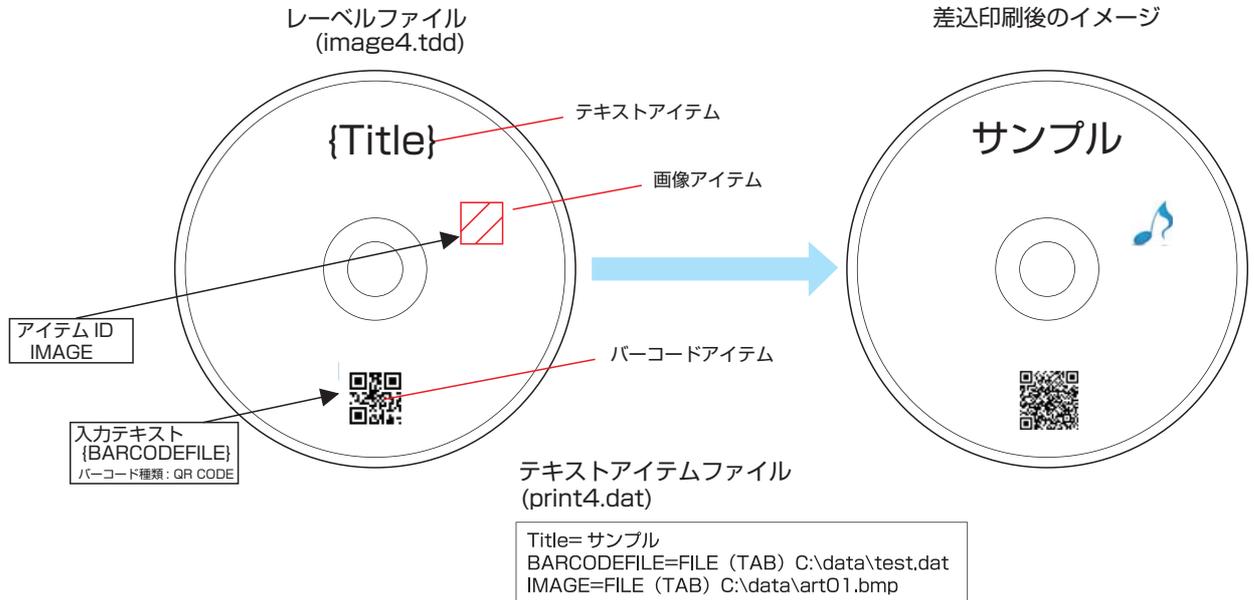
---

## JDF ファイルの設定

JDF ファイルの設定はテキストの差込印刷と同じになります。60ページ「JDF ファイルの設定」を参照してください。

## テキスト / バーコード / 画像アイテムの差込印刷

1つのレーベルファイルに、テキストアイテム、バーコードアイテム、画像アイテムを差込印刷することができます。この場合、テキストアイテムファイルは1つのファイルに併用して記述します。



# マルチセッション書き込み機能

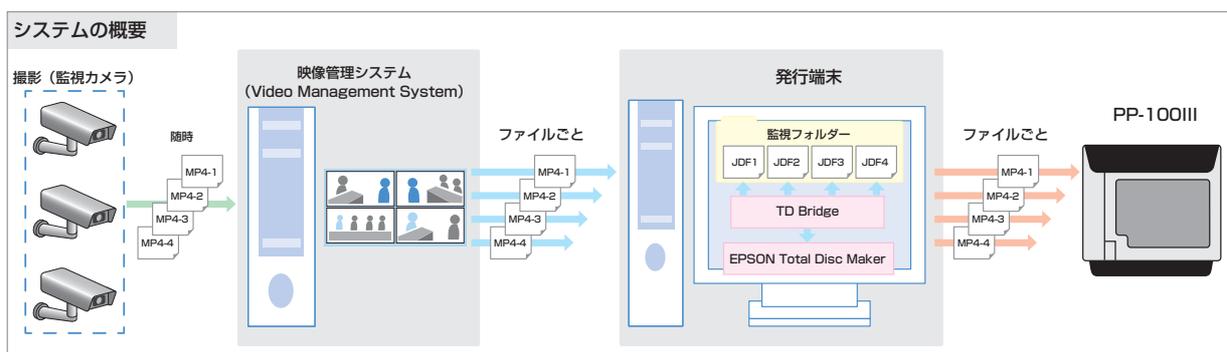
## 機能の概要

撮影中の映像データは、映像管理システムに随時集められます。映像管理システムは、一定の間隔で映像データを発行端末に送ります。発行端末上の連携アプリケーションは、受け取ったデータを書き込みます。

従来は、ディスクに書き込むデータが全て揃ってからでないと書き込みを開始できませんでした。Ver.8.0で追加されたマルチセッション書き込み機能では、受け取ったデータごとに書き込み/コンペアします。そのため、従来よりもディスク完成の時間が速くなり、データ改ざんなどのリスクも減らせます。

使用可能メディア：CD-R、DVD-R、BD-R、BD-R DL

※DVD+R、DVD-R DL、DVD+R DLは使用できません。



## タイムチャート

ここで示している時間経過は一例です。

従来

時間経過	15	30	45	60	75	90
監視カメラ	撮影中					
動画ファイル	MP4-1	MP4-2	MP4-3	MP4-4		
Disc 1 (Drive 1)					MP4-1	MP4-2
Disc 2 (Drive 2)					MP4-1	MP4-2

まとめて書き込み / コンペアを実行

マルチセッション書き込み

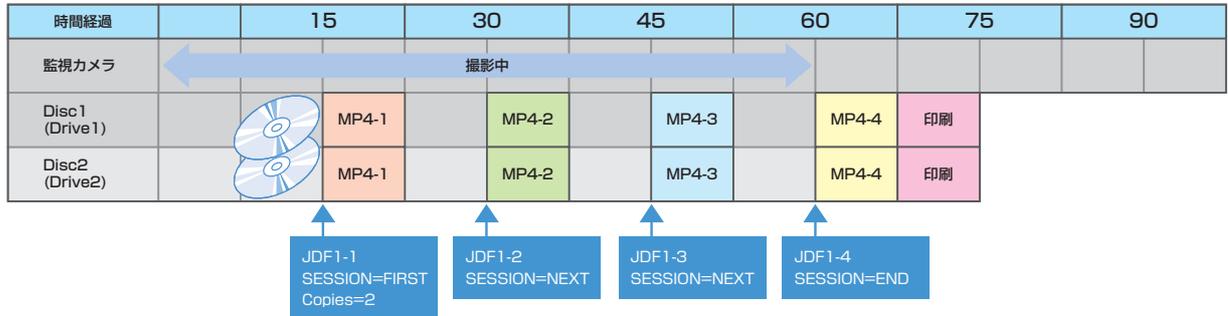
時間経過	15	30	45	60	75	90
監視カメラ	撮影中					
Disc 1 (Drive 1)	MP4-1	MP4-2	MP4-3	MP4-4	印刷	
Disc 2 (Drive 2)	MP4-1	MP4-2	MP4-3	MP4-4	印刷	

データごとに書き込み / コンペアを実行

## JDF ファイルの設定

4分割の動画ファイルを2枚のディスクに書き込むことを例に、STFファイルの遷移、JDFファイルの記載例を説明します。

【例】



## STF ファイルの遷移

JDFファイルごとに書き込み/コンペアを実行します。

各セッションの書き込み/コンペアが終ってもINPファイルはDONファイルになりません。

SESSION=ENDのJDFファイルがDONファイルになるタイミングで、すべてのINPファイルがDONファイルになります。

	JOBID	Session	時間経過
JDF1-1	0001	First	JDF → INP → DON
JDF1-2	0001	Next	JDF → INP → DON
JDF1-3	0001	Next	JDF → INP → DON
JDF1-4	0001	End	JDF → INP → DON

## JDF ファイルの記載例

キーの詳細や値の指定方法などは、42ページ「設定項目リスト」を参照してください。

### JDF1-1 (SESSION=FIRST)

JOB_ID=0001	①
DISC_TYPE=DVD	②
PUBLISHER=PP-100III 1	③
COPIES=2	
OUT_STACKER=4	
FORMAT=UDF102	
VOLUME_LABEL=DATA_1	④
LABEL=C:\Sample\Sample_01.tdd	
SESSION=FIRST	
DATA=C:\Sample\DATA_1 DATA_1	
COMPARE=YES	
SESSION_TIMEOUT=1800	

### JDF1-2/JDF1-3 (SESSION=NEXT)

JOB_ID=0001
DISC_TYPE=DVD
SESSION=NEXT
DATA=C:\Sample\DATA_2 DATA_2
COMPARE=YES
SESSION_TIMEOUT=1800

### JDF1-4 (SESSION=END)

JOB_ID=0001
DISC_TYPE=DVD
SESSION=END
DATA=C:\Sample\DATA_3 DATA_3
COMPARE=YES
SESSION_TIMEOUT=1800

- ①同じディスクに書き込む場合は、セッションでJOB\_IDを共通にします。
- ②各セッション必須の項目です。
- ③SESSION=FIRSTでしか指定できません。
- ④各セッションで指定します。

## Plug-in の実行

JOBの実行時にドライブに搬送されたディスクに対して、独自の処理を行うための拡張プログラムを実行可能です。この拡張プログラムをPlug-inと呼びます。

TD Bridge Ver.5.0以降では、書き込み済みのディスクを読み込むための読み込みPlug-inを用意しています。読み込みPlug-inの詳細は、「EPSON Total Disc Maker」のヘルプを参照してください。

## JDF ファイルの設定

JDFファイルに、実行するPlug-inのPLUGIN\_IDと、Plug-inに渡すパラメーターを記述します。

読み込みPlug-inを実行する場合のJDFファイルの例は以下のとおりです。

スタッカー 1 にセットされた書き込み済みディスクを 10 枚読み込み、ディスクから読み込んだファイルを "c:\readdata" に保存します。読み込んだディスクはスタッカー 2 に排出します。

### JDFファイル(Plug-in.jdf)

```
JOB_ID=007
PUBLISHER=Publisher 0
COPIES=10
IN_STACKER=1
OUT_STACKER=2
DISC_TYPE=CD
PLUG_IN_ID=EPSONTotalDiscReader — Plug-inの呼び出し
PLUG_IN_PARAMETER=-r "c:\readdata" -k 1 -f 1
```

# STFファイル

STFファイル(TDBStatus.txt)とは、Discproducerのステータスを連携アプリケーションに伝えるためのファイルです。

STFファイルにはジョブID、ディスク発行済み枚数、ジョブステータス、エラーコード、スタッカーのディスク残量、インク残量などが記載されています。

- ❑ Total Disc SetupでPUBLISHERが登録されていると、TD Bridgeが自動的にSTFファイルを作成します。
- ❑ TD Bridgeが起動していると、5秒ごとに自動更新されます。連携アプリケーションの起動とは関係ありません。
- ❑ このファイルは一度作成されると、TD Bridgeを終了しても削除されません。
- ❑ 他のアプリケーションからオープンされている間は、STFファイルは更新されません。従って、ファイルを読み込んだらすぐにクローズしてください。
- ❑ TD Bridgeを使わずにEPSON Total Disc Makerから発行したジョブは、STFファイルに出力されません。
- ❑ インク残量は、自動実行されるクリーニングによって減少します。インク残量は、印刷可能枚数の算出には適しません。

## STF ファイルのステータスの変化

STFファイルのステータスはジョブ受付前、ジョブ前処理中、ジョブ処理中、ジョブ終了後でステータスが変わります。機種により表示されないステータスがあります。詳細は77ページ「STFファイルのステータス」を参照してください。

### ①ジョブ受付前

```
[ACTIVE_JOB]
[COMPLETE_JOB]
[PUBLISHER1]
NAME=PP-100III 1
STACKER1=16
STACKER2=12
STACKER3=-1
STACKER4=0
INK_C=76
INK_M=76
INK_Y=75
INK_LC=75
INK_LM=76
INK_B=76
INFO1=
ID={EPPUB20110623_2}
STACKER1_SETTING=1
STACKER2_SETTING=0
STACKER3_SETTING=0
STACKER4_SETTING=99
PRINTER_STATUS=1
PRINTED_COPIES=60
PRINTABLE_COPIES=1
DRIVE1_STATUS=1
DRIVE1_PLUG_IN=
DRIVE1_LIFE=50
DRIVE2_STATUS=1
DRIVE2_PLUG_IN=
DRIVE2_LIFE=50
MODE=1
SERIAL_NUMBER=KHUF
000000
DRIVE1_PROGRESS=0
DRIVE2_PROGRESS=0
[TDB_INFO]
TDB_ID=DFE7F56BB4F14A
00A732EA5EC8A68B2E
VERSION=4.0.0.0
```

### ②ジョブ前処理中

```
[ACTIVE_JOB]
JOB1=003
[COMPLETE_JOB]
[003]
STATUS=1
ERROR=
DETAIL_STATUS=1
[PUBLISHER1]
NAME=PP-100III 1
STACKER1=16
STACKER2=12
STACKER3=-1
STACKER4=0
INK_C=76
INK_M=76
INK_Y=75
INK_LC=75
INK_LM=76
INK_B=76
INFO1=
.
.
```

### ③処理中/処理待ち

```
[ACTIVE_JOB]
JOB1=003
[COMPLETE_JOB]
[003]
PUBLISHER=Publisher 0
STATUS=2
PUBLICATION_NUMBER=10
COMPLETION_NUMBER=5
ERRORDISC_NUMBER=0
TYPE=3
IN_STACKER=1
OUT_STACKER=4
ESTIMATION_TIME=133
ERROR=
DETAIL_STATUS=3
[PUBLISHER1]
NAME=PP-100III 1
STACKER1=16
STACKER2=12
STACKER3=-1
STACKER4=0
INK_C=76
INK_M=76
INK_Y=75
INK_LC=75
INK_LM=76
INK_B=76
INFO1=
.
.
.
```

### ④ジョブ終了後

```
[ACTIVE_JOB]
[COMPLETE_JOB]
JOB1=003
[003]
PUBLISHER=Publisher 0
STATUS=4
PUBLICATION_NUMBER=10
COMPLETION_NUMBER=10
ERRORDISC_NUMBER=0
TYPE=3
IN_STACKER=1
OUT_STACKER=4
ESTIMATION_TIME=133
ERROR=
DETAIL_STATUS=9
[PUBLISHER1]
NAME=PP-100III 1
STACKER1=15
STACKER2=12
STACKER3=-1
STACKER4=1
INK_C=76
INK_M=76
INK_Y=75
INK_LC=75
INK_LM=76
INK_B=76
INFO1=
.
.
.
```

- ① 接続されているDiscproducerのステータスが[PUBLISHER1]に生成されています。
- ② ジョブを受付ると、[ACTIVE\_JOB]にJOB\_IDが生成されます。(JOB\_IDが連携アプリケーションで指定されていない場合、TD Bridgeが自動採番します。自動採番は、JDFの拡張子をRJDに変更した時のシステム日付(yyyymmddhhmmssSSS)が設定されます。)また、[JOB\_ID] (ここでは003) が生成され、ジョブの前処理中は「STATUS=1」、「ERROR=」、「DETAIL\_STATUS=1」が表示されます。[PUBLISHER1]は、常にジョブの下に配置されます。
- ③ 処理を開始する/処理待ちになると、[JOB\_ID]には、ジョブのすべてのステータスが追加生成されます。
- ④ [ACTIVE\_JOB]からJOB\_IDが消去され、[COMPLETE\_JOB]にJOB\_IDが生成されます。完了ジョブが削除される時に、[JOB\_ID]と、[COMPLETE JOB]のJOB\_IDが消去されます。

## STF ファイルのステータスの機種別対応表

STFファイルに生成されるステータスは以下のとおりです。

セクション名	キー名	機種名				
		PP-100III	PP-100II	PP-100AP	PP-100N	PP-50BD
ACTIVE_JOB	JOB[N] ※[N]は1から始まる番号	○	○	○	○	○
COMPLETE_JOB	JOB[N] ※[N]は1から始まる番号	○	○	○	○	○
[JOB_ID]  ジョブIDがセクション名となります。 登録されたジョブごとに、このセクションが追加されます。  他のTD Bridgeから発行した場合、完了したジョブは出力されません。	PUBLISHER	○	○	○	○	○
	STATUS	○	○	○	○	○
	PUBLICATION_NUMBER	○	○	○	○	○
	COMPLETION_NUMBER	○	○	○	○	○
	ERRORDISC_NUMBER	○	○	○	○	○
	TYPE	○	○	○	○	○
	IN_STACKER	○	○	○	○	○
	OUT_STACKER	○	○	○	○	○
	ESTIMATION_TIME	○	○	○	○	○
	ERROR	○	○	○	○	○
	DETAIL_STATUS	○	○	○	○	○
	ESTIMATION_TIME_REMAIN	○	○	○	○	○
	SESSION_NUMBER	○	×	×	×	×
	DISC_REMAINING	○	×	×	×	×
PUBLISHER[N]  出力機器ごとの情報です。  ※[N]は1から始まる機器ごとの番号になります。	NAME	○	○	○	○	○
	STACKER1	○	○	○	○	○
	STACKER2	○	○	○	○	○
	STACKER3	○	○	○	○	○
	STACKER4	○	○	○	○	×
	INK_C	○	○	○	○	○
	INK_M	○	○	○	○	○
	INK_Y	○	○	○	○	○
	INK_LC	○	○	○	○	○
	INK_LM	○	○	○	○	○
	INK_B	○	○	○	○	○
	INFO[M] ※[M]は1から始まる番号	○	○	○	○	○
	ID	○	○	○	×	○
	URL	×	×	×	○	×
	STACKER1_SETTING	○	○	○	○	○
	STACKER2_SETTING	○	○	○	○	○
	STACKER3_SETTING	○	○	○	○	○
	STACKER4_SETTING	○	○	○	○	×
	PRINTER_STATUS	○	○	○	○	○
	PRINTED_COPIES	○	○	○	○	○
	PRINTABLE_COPIES	○	○	○	○	○
	MAINTENANCE_BOX_FREE_SPACE	○	○	○	×	×
	DRIVE1_STATUS	○	○	×	○	○
	DRIVE1_PLUG_IN	○	○	×	×	○
	DRIVE1_LIFE	○	○	×	○	○

セクション名	キー名	機種名				
		PP-100III	PP-100II	PP-100AP	PP-100N	PP-50BD
PUBLISHER[N]	DRIVE2_STATUS	○	○	×	○	×
	DRIVE2_PLUG_IN	○	○	×	×	×
	DRIVE2_LIFE	○	○	×	○	×
	MODE	○	○	○	○	○
	SERIAL_NUMBER	○	○	○	○	○
	DRIVE1_PROGRESS	○	○	×	△	○
	DRIVE2_PROGRESS	○	○	×	△	×
	COMPLETE_DISC_COPIES	○	○	×	×	×
	USB_CONNECTION_MODE	○	○	×	×	×
TDB_INFO	TDB_ID	○	○	○	○	○
	VERSION	○	○	○	○	○

\* PP-100Nで”△”の項目は、PP-100NE、PP-100NE IIのみ出力されます。

## STF ファイルのステータス

STFファイルに生成されるステータスは以下のとおりです。

セクション名	キー名	説明	出力内容	変化する タイミング
ACTIVE_JOB	JOB[N] ※[N]は1から始まる番号	TD Bridge が受付したジョブ ID のうち、処理中 / 処理待ちのジョブ ID が出力されます。 出力の順番は、処理中のジョブ ID が先に、次に処理待ちのジョブ ID が実行される順に出力されます。	処理待ち、または、処理中ジョブのジョブID 他のTD Bridgeから発行したジョブの場合、ジョブIDとTD Bridgeを一意に識別する値が出力されます。	ジョブの受付時/終了時
COMPLETE_JOB	JOB[N] ※[N]は1から始まる番号	最近完了したジョブから順に、ジョブIDが出力されます。	完了（エラー完了含む）ジョブのジョブID 他のTD Bridgeから発行したジョブのジョブIDは出力されません。	ジョブが完了する時
[JOB_ID]  ジョブIDがセクション名となります。 登録されたジョブごとに、このセクションが追加されます。  他のTD Bridgeから発行した場合、完了したジョブは出力されません。	PUBLISHER * <sup>1</sup>	出力先機器の機器名が出力されます。	機器名 (機種名が不明の場合、このキーは出力されません)	ジョブ動作開始時
	STATUS	ジョブの状態を表すIDが出力されます。	登録処理中、または、処理待ちの場合：“1” 実行中の場合：“2” 停止中の場合：“3” 完了している場合：“4” * <sup>3</sup> エラーで完了している場合：“5” * <sup>4</sup> 受付が拒否されている場合：“6” 不明の場合：“99”	ジョブの状態が変化する時
	PUBLICATION_NUMBER * <sup>1</sup>	ジョブの発行枚数が出力されます。	ジョブの発行枚数 不明の場合：“-1”	ジョブ動作開始時
	COMPLETION_NUMBER * <sup>1</sup>	作成済みディスクの枚数が出力されます。	ジョブの作成済みディスク枚数 不明の場合：“-1”	ジョブ動作開始時 ディスク完成の都度
	ERRORDISC_NUMBER * <sup>1</sup>	ジョブのエラーディスク枚数が出力されます。	ジョブのエラーディスク枚数 不明の場合、“-1”	エラーディスク発生時
	TYPE * <sup>1</sup>	ジョブの種類を表すIDが出力されます。	書き込みのみ：“1” 印刷のみ：“2” 書き込み&印刷：“3” 不明の場合：“99”	ジョブ動作開始時
	IN_STACKER * <sup>1</sup>	ジョブの入スタッカーが出力されます。	スタッカー 1の場合：“1” スタッカー 2の場合：“2” スタッカー 1と2の場合：“1,2” 不明の場合：“-1”	ジョブ動作開始時
	OUT_STACKER * <sup>1</sup>	ジョブの出スタッカーが出力されます。	スタッカー 2の場合：“2” スタッカー 4の場合：“4” スタッカー 2,3の場合：“2,3” 不明の場合：“-1”	ジョブ動作開始時
	ESTIMATION_TIME * <sup>1</sup>	ジョブ処理するのにかかる予測時間です。終了予定時刻ではありません。	発行処理開始から終了までの予想所要時間を秒単位で出力します。 (完了しているジョブおよび不明の場合、このキーは出力されません)	ジョブ動作開始時
	ERROR	処理中のジョブにエラーが発生している場合の、エラー要因を表すエラーコードです。 エラー要因が無くなると、STFファイルの更新時にコードが消去されません。 エラー発生していない場合にも“ERROR=”は生成されています。	「エラーコードと対処方法」を参照してください。	エラー発生時

セッション名	キー名	説明	出力内容	変化する タイミング
[JOB_ID]	DETAIL_STATUS	ジョブの詳細な状態を表すIDが出力されます。 DETAIL_STATUSキーのステータスの変化は、 <a href="#">82ページ「DETAIL_STATUSキーに出力される値と遷移図」</a> を参照してください。	受付処理中 の場合："1" 発行待ち の場合："2" 発行中 の場合："3" 一時停止処理中 の場合："4" 復帰待ち処理中 の場合："5" キャンセル処理中 の場合："6" 一時停止中 の場合："7" 復帰待ち の場合："8" 完了(警告なし, エラーディスクなし)の場合："9" 完了(警告あり, エラーディスクなし)の場合："10" *5 完了(警告あり, エラーディスクあり)の場合："11" *5 ユーザーキャンセル済み の場合："12" エラーキャンセル済み の場合："13" 受付が拒否されている 場合："14" 不明 の場合："99"	ジョブの状態 が変化する時
	ESTIMATION_TIME_REMAIN*1	ジョブの残り処理予測時間	発行処理完了までの残り予想所要時間を秒単位で出力する。 ※完了しているジョブの場合、このキーは出力されません。	ジョブ発行中 随時
	SESSION_NUMBER	「PP-100IIIの場合」 マルチセッション書き込みのディスクに登録されているセッション数 1つのジョブに対して受付済みのJDFファイルの数になります。	TD Bridgeが該当ジョブに対して受付終了したセッションの数が返されます。	ジョブ受付終了時
	DISC_REMAINING	「PP-100IIIの場合」 マルチセッション書き込みのディスクの書き込み可能な残り容量 追記するデータのファイル容量の目安に使用します。	TD Bridgeが該当ジョブに対して受付終了したセッションの全書き込み容量をメディアのディスク容量から引いた値を返す。	ジョブ受付終了時

セクション名	キー名	説明	出力内容	変化する タイミング
PUBLISHER[N]  出力機器ごとの 情報です。  ※[N]は1から始 まる機器ごとの 番号になります。	NAME	Total Disc Setupで登録されてい る機器名が出力されます。	機器名	機器が登録さ れていると常 に表示
	STACKER1	当該機器のスタッカー 1のディスク 残量が出力されます。スタッカー容 量に対するパーセント表記であり、 枚数ではありません。	"0"~"100"が出力されます。 (パーセントを意味します) 不明な場合:"-1"	ディスク残量 変化時
	STACKER2	当該機器のスタッカー 2のディスク 残量が出力されます。スタッカー容 量に対するパーセント表記であり、 枚数ではありません。	"0"~"100"が出力されます。 不明な場合:"-1"	ディスク残量 変化時
	STACKER3	当該機器のスタッカー 3のディスク 状態 (フルorフルでない) が出力さ れます。	フルの場合:"100" フルでない場合:"0" 不明な場合:"-1"	ディスクフル 検出時、ディ スクフルでは 無くなった時
	STACKER4	当該機器のスタッカー 4のディスク 状態 (フルorフルでない) が出力さ れます。	フルの場合:"100" フルでない場合:"0" 不明な場合:"-1"	ディスクフル 検出時、ディ スクフルでは 無くなった時
	INK_C	当該機器のシアンインクの残量が 出力されます。	"0"~"100"が出力されます。*2 不明な場合:"-1"	インク消費時
	INK_M	当該機器のマゼンタインクの残量が 出力されます。	"0"~"100"が出力されます。*2 不明な場合:"-1"	インク消費時
	INK_Y	当該機器のイエローインクの残量が 出力されます。	"0"~"100"が出力されます。*2 不明な場合:"-1"	インク消費時
	INK_LC	当該機器のライトシアンインクの残 量が出力されます。	"0"~"100"が出力されます。*2 不明な場合:"-1"	インク消費時
	INK_LM	当該機器のライトマゼンタインクの 残量が出力されます。	"0"~"100"が出力されます。*2 不明な場合:"-1"	インク消費時
	INK_B	当該機器のブラックインクの残量が 出力されます。	"0"~"100"が出力されます。*2 不明な場合:"-1"	インク消費時
	INFO[M] ※[M]は1から始まる 番号	INFORMATIONコードで、ハード ウェアの状態を示します。 複数のINFORMATIONがあるとき は、複数生成されます。 機器の状態が復旧すると、STFファ イルの更新時にコードが消去されま す。 正常動作できる場合にも "INFO[M]"は生成されます。	[INFORMATIONコード一覧表]を 参照してください。	エラー発生時

セクション名	キー名	説明	出力内容	変化するタイミング
PUBLISHER[N]	ID	当該機器の登録IDが出力されます。	登録ID フォーマットは "{EPPUBYYYYMMDD_XXX}" ※YYYYMMDDは登録日（4桁の年、2桁の月、2桁の日） ※XXXは連番	機器が登録されていると常に表示
	URL	当該機器のIPアドレスまたは、ホスト名が出力されます。	IPアドレスまたはホスト名	機器が登録されていると常に表示
	STACKER1_SETTING	当該機器のスタッカー 1 の設定を示すIDが出力されます。	CD-R の場合："1" DVD の場合："4" DVD DL の場合："7" BD-Rの場合："8" BD-R DLの場合："9" 供給元の場合："100" 不明な場合："-1"	機器の設定変更時
	STACKER2_SETTING	当該機器のスタッカー 2 の設定を示すIDが出力されます。	排出先 の場合："0" CD-R の場合："1" DVD の場合："4" DVD DL の場合："7" BD-Rの場合："8" BD-R DLの場合："9" 供給元の場合："100" 不明な場合："-1"	機器の設定変更時
	STACKER3_SETTING	当該機器のスタッカー 3 の設定を示すIDが出力されます。	排出先の場合："0" 使用しない場合："99" 不明な場合："-1"	機器の設定変更時
	STACKER4_SETTING	当該機器のスタッカー 4 の設定を示すIDが出力されます。	排出先の場合："0" 使用しない場合："99" 不明な場合："-1"	機器の設定変更時
	PRINTER_STATUS	当該機器のプリンターの状態を表すIDが出力されます。	待機中 の場合："1" 印刷中 の場合："2" インク乾燥中 の場合："3" クリーニング中 の場合："4" エラー の場合："5" 搬送中 の場合："6" 停止中 の場合："7" 不明 の場合："-1"	プリンターの状態変化時
	PRINTED_COPIES	当該機器の印刷枚数が出力されます。	印刷枚数 不明の場合："-1"	レーベル印刷終了時
	PRINTABLE_COPIES	当該機器の最低印刷可能枚数が出力されます。	印刷可能枚数が1000枚以上の場合、"1000"が出力されます。 印刷可能枚数が0枚の場合、"0"が出力されます。 印刷可能枚数が不明の場合、"-1"が出力されます。 本体起動後に印刷を含むジョブを1度も発行していない場合、"-1"が出力されます。	インク消費時
	MAINTENANCE_BOX_FREE_SPACE	当該機器のメンテナンスボックスの空き容量が出力されます。	"0"～"100"が出力されます。 不明な場合、"-1"が出力されます。	メンテナンスボックスの空き容量変化時
DRIVE1_STATUS	当該機器のドライブ1の状態を表すIDが出力されます。	待機中 の場合："1" 書き込み中 の場合："2" 書き込み確認中 の場合："3" 使用しない の場合："4" エラー の場合："5" 搬送中 の場合："6" 停止中 の場合："7" Plug-in処理中の場合："8" 不明 の場合："-1"	ドライブ1の状態変化時	

セクション名	キー名	説明	出力内容	変化するタイミング
PUBLISHER[N]	DRIVE1_PLUG_IN	当該機器のドライブ1を使用中のPlug-In名称が出力されます。*6	Plug-In名称	ドライブ1でPlug-In利用時
	DRIVE1_LIFE	当該機器のドライブ1の寿命 (%) が出力されます。	"0"~"100"が出力されます。 不明な場合、"-1"が出力されます。	ドライブ1の寿命変化時
	DRIVE2_STATUS	当該機器のドライブ2の状態を表すIDが出力されます。	待機中 の場合："1" 書き込み中 の場合："2" 書き込み確認中 の場合："3" 使用しない の場合："4" エラー の場合："5" 搬送中 の場合："6" 停止中 の場合："7" Plug-in処理中の場合："8" 不明 の場合："-1"	ドライブ2の状態変化時
	DRIVE2_PLUG_IN	当該機器のドライブ2を使用中のPlug-In名称が出力されます。*6	Plug-In名称	ドライブ2でPlug-In利用時
	DRIVE2_LIFE	当該機器のドライブ2の寿命 (%) が出力されます。	"0"~"100"が出力されます。 不明な場合、"-1"が出力されます。	ドライブ2の寿命変化時
	MODE	当該機器のモードを表すIDが出力されます。	標準モード の場合："1" 外部排出モード の場合："2" バッチ処理モード の場合："3" 読み込みモードの場合："5" 不明 の場合："-1"	機器のモード変更時
	SERIAL_NUMBER	当該機器のシリアルNo.が出力されます。	シリアルNo.	機器が登録されていると常に表示
	DRIVE1_PROGRESS	当該機器のドライブ1の処理進捗 (%) が出力されます。	書き込み中、書き込み確認中の場合："0"~"100" (個別の進捗情報が出力されます) 書き込み中、書き込み確認中以外の場合："0" 不明 の場合："-1"	ドライブ1の作業進捗変化時
	DRIVE2_PROGRESS	当該機器のドライブ2の書き込み進捗 (%) が出力されます。	書き込み中、書き込み確認中の場合："0"~"100" (個別の進捗情報が出力されます) 書き込み中、書き込み確認中以外の場合："0" 不明 の場合："-1"	ドライブ2の作業進捗変化時
	COMPLETE_DISC_COPIES	ディスクの総発行枚数が出力されます。	総発行枚数 不明の場合："-1"	ディスク排出時
TDB_INFO	USB_CONNECTION_MODE	ホストコンピューターと当該機器が接続されているUSBの接続モードが出力されます。 PP-100III / PP-100IIのみ出力されます。	USB3.0の場合"1" USB3.0以外"0"	機器接続時
	TDB_ID	現在ご利用中のTD Bridge を一意に識別する値が出力されます。	TD Bridge 識別値	変化しない
	VERSION	TD Bridgeのバージョンが出力されます。	TD Bridge のバージョン	変化しない

\*1 このキーは、JDFの受付が拒否されたジョブおよび発行前のジョブには出力されません。

\*2 "0"はインク交換時期を表します。

\*3 ユーザーがジョブをキャンセルした場合、ディスクを1枚も発行していない状態であっても、"4"となります。

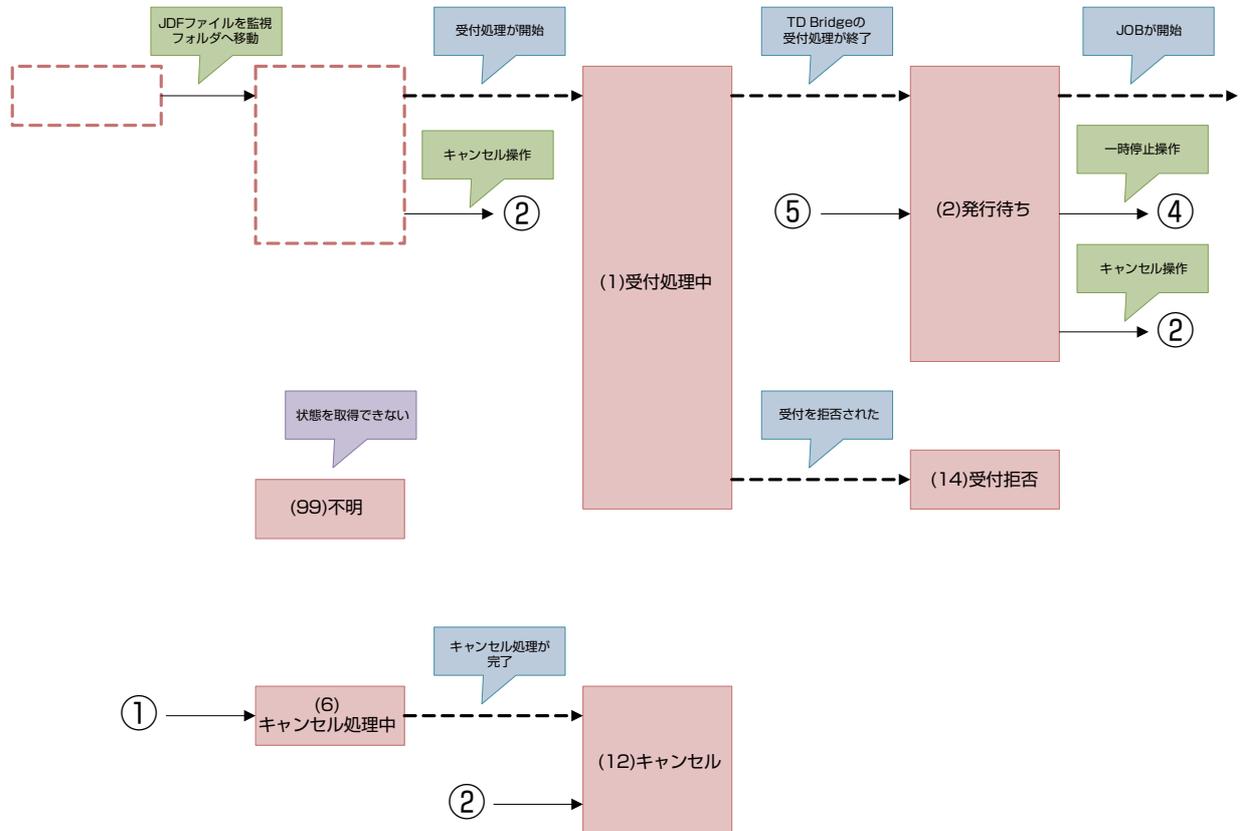
\*4 エラーが発生した場合、作成済みディスクがあってCOMPLETION\_NUMBERが1以上であっても、"5"となります。

\*5 警告の内容は Total Disc Monitor で確認することができます。

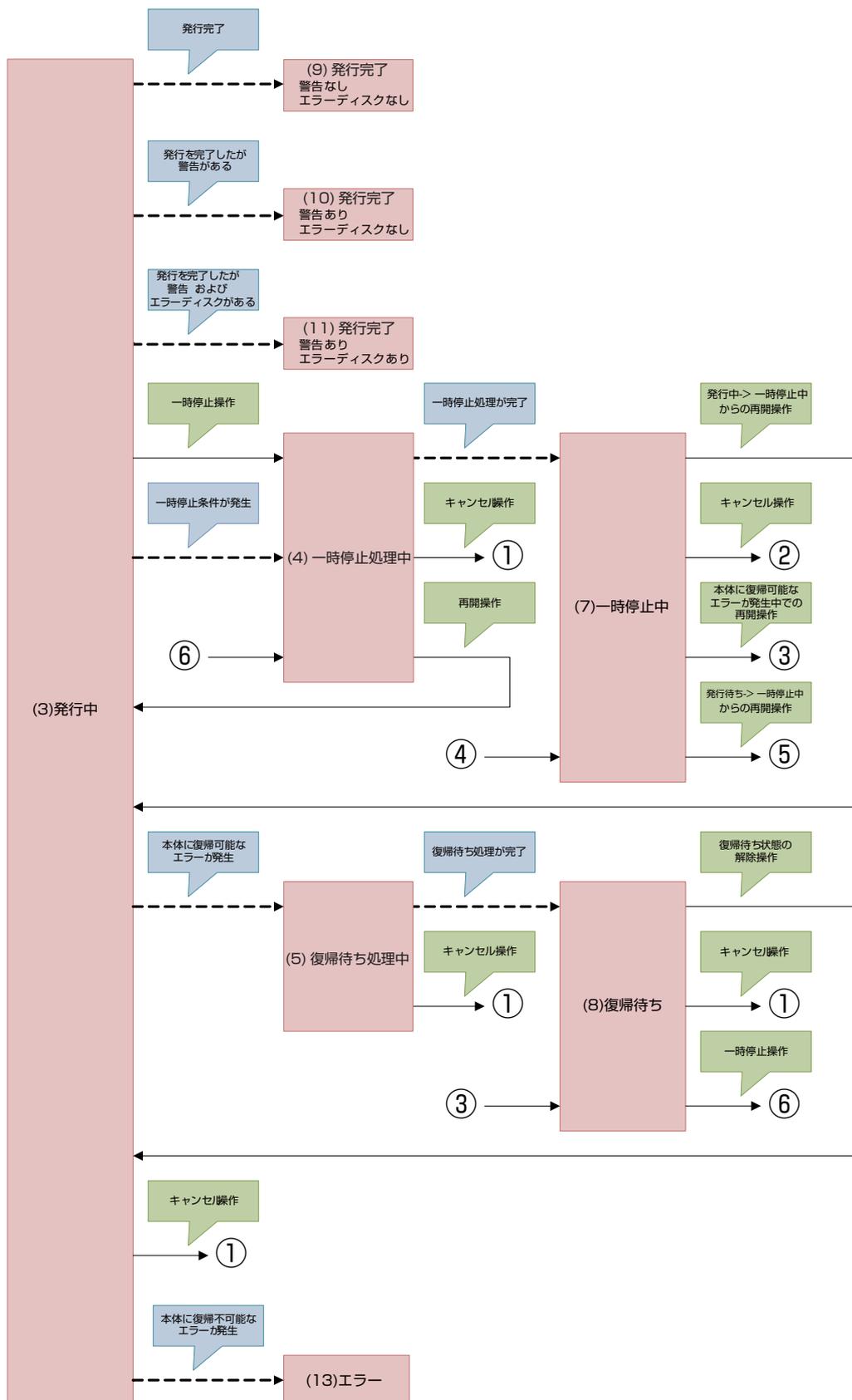
\*6 Plug-inについての詳細は、「Total Disc Maker Plug-in Technical Reference Guide」を参照してください。

## DETAIL\_STATUS キーに出力される値と遷移図

DETAIL\_STATUSキーにより、ジョブの詳細な状態を知ることができます。DETAIL\_STATUSキーに出力される値の変化のタイミングは以下のとおりです。



	ジョブの状態 カッコ内はDETAIL_STATUSキーの値
	DETAIL_STATUSキーには何も出力されていない状態
	連携アプリケーション、または、ユーザーからのTD Bridge、またはTotal Disc Monitor に対する操作によって遷移するもの
	時間の経過によって遷移するもの
	上記以外の事象



## エラーコードと対処方法

エラー発生時に生成されます。

### ジョブ受付前の ERROR コード一覧表

これらの場合には、ジョブは受付拒否になります。またJDF ファイルはERR ファイルになり、STF ファイルの "STATUS=6"になります。

ジョブの状態	キー名	ERROR コード	内容
システムエラー		SYS001	ジョブ発行処理が失敗しました。
		SYS002	出力機器との通信エラーにより、ジョブ発行が失敗しました。
		SYS003	出力機器のHDDに、十分な空き容量がないためジョブ発行が失敗しました。
受付拒否	JOB_IDキー	JDF0100	JOB_IDキーに指定したジョブIDが、すでに存在しています。
		JDF0101	JOB_IDキーに指定した値が40文字を超えています。
		JDF0102	JOB_IDキーに指定した値に半角英数, "-", "_"以外の文字が含まれています。
	PUBLISHERキー	JDF0200	PUBLISHERキーで指定した出力機器が、有効な機器名として登録されていません。
		JDF0201	PUBLISHERキーで指定した出力機器が、サポート外のモード、または、モードを取得できません。
		JDF0202	有効な出力機器が2台以上ありますが、PUBLISHERキーで出力機器が指定されていません。また、環境設定で通常使う出力機器が設定されていないため、出力機器を特定できません。
		JDF0203	有効な出力機器が1台も登録されていません。
	COPIESキー	JDF0300	[PP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II / PP-50BDの場合] COPIESキーに指定されている部数が、1~1000の範囲外の値が指定されています。
	OUT_STACKERキー	JDF0400	[PP-100III / PP-100II / PP-100APの場合] OUT_STACKERキーに、"2", "3", "4"以外の値が指定されています。
			[PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合] OUT_STACKERキーに、"2", "4"以外の値が指定されています。
			[PP-50BDの場合] OUT_STACKERキーに、"2", "3"以外の値が指定されています。
	DISC_TYPEキー	JDF0500	DISC_TYPEキーで指定したディスク種類と、設定されている供給元スタッカーのディスク種類が、一致していません。
		JDF0501	DISC_TYPEキーが指定されていません。
		JDF0502	[PP-100AP / PP-100N / PP-100NEの場合] DISC_TYPEキーの値に、"CD", "DVD", "DVD-DL"以外が指定されています。 [PP-100III / PP-100II / PP-100NE II / PP-50BDの場合] DISC_TYPEキーの値に、"CD", "DVD", "DVD-DL", "BD", "BD-DL"以外が指定されています。
	WRITING_SPEEDキー	JDF0600	WRITING_SPEEDキーに数値以外の値が指定されています。
COMPAREキー	JDF0700	COMPAREキーに、"YES", "NO"以外の値が指定されています。	

ジョブの状態	キー名	ERROR コード	内容
受付拒否	DATAキー DATA_LISTキー	JDF0900	以下のいずれかを検出した場合 ①DATAキーで、書き込み元データと書き込み先データが両方指定されていません。 ②DATA_LISTキーで指定されているファイル内のDATAキーで、書き込み元データと書き込み先データが両方指定されていません。
		JDF0901	異なる書き込み元ファイルを、同一のフォルダーに同一のファイル名で書き込むことはできません。
		JDF0902	指定されている記録フォーマットに適合しない書き込み先のパス（ファイル名を含む）が指定されています。
		JDF0903	指定されているディスク種類に対して、書き込もうとしているデータの合計サイズが大き過ぎます。
		JDF0904	書き込み先のフォルダー階層が128階層を超えています。
		JDF0905	書き込み元のファイルが保存されているドライブの準備ができていません。
		JDF0907	書き込み元のファイルに存在しないものが含まれています。
		JDF0908	書き込み元のファイルにアクセス権がないものが含まれています。
		JDF0909	書き込み元のファイルに使用中のものが含まれています。
		JDF0910	DATA_LISTキーに指定されているファイルが存在しません。（フォルダーが指定されている場合も含む）
		JDF0911	DATA_LISTキーに指定されているファイルにアクセス権がありません。
		JDF0912	DATA_LISTキーに指定されているファイルが使用中です。
		JDF0913	DATA_LISTキーに指定されているファイルのドライブが準備ができていません。
		JDF0914	4095MBを超えるファイルが指定されているため、指定された記録フォーマットでは書き込みができません。
	VOLUME_LABELキー	JDF1000	指定したボリュームラベルが、指定した記録フォーマットに適合していません。
	VIDEOキー	JDF1100	指定したVideoファイルの形式には対応していません。
		JDF1101	Videoファイルの映像信号方式が、すべてのトラックで一貫していません。
		JDF1103	指定されているディスク種類に対して、書き込もうとしているVideoファイルの合計サイズが大き過ぎます。
		JDF1104	指定されているVideoファイルが存在しません。
		JDF1105	指定されているVideoファイルにアクセス権がありません。
		JDF1106	指定されているVideoファイルが使用中です。
		JDF1107	指定されているVideoファイルのドライブが準備ができていません。
		JDF1108	指定されているVideoファイルの再生時間が1秒未満です。
		JDF1150	指定されたVIDEO_TSフォルダーが存在しません。
		JDF1151	指定されたパスが、「VIDEO_TS」という名前のフォルダーではありません。
		JDF1152	指定されたVIDEO_TSフォルダーに、アクセス権がありません。
		JDF1153	指定されたVIDEO_TSフォルダーのドライブが準備ができていません。
		JDF1154	指定されたVIDEO_TSフォルダーに、アクセス権のないファイルが含まれています。
		JDF1155	指定されたVIDEO_TSフォルダーに、使用中のファイルが含まれています。
	JDF1156	指定されたVIDEO_TSフォルダーのファイル構成が不正です。	
	JDF1157	指定されているディスク種類に対して、書き込もうとしているDVD-Videoデータの合計サイズが大き過ぎます。	
	VIDEO_TITLEキー	JDF1200	VIDEO_TITLEキーの値が32文字を超えています。
		JDF1201	VIDEO_TITLEキーの値に使用できない文字が含まれています。
	IMAGEキー	JDF1300	指定したイメージファイルの形式には対応していません。
		JDF1301	指定されているディスク種類に対して、書き込もうとしているイメージファイルの合計サイズが大き過ぎます。
		JDF1302	指定されているイメージファイルが存在しません。
		JDF1303	指定されているイメージファイルにアクセス権がありません。
		JDF1304	指定されているイメージファイルが使用中です。
		JDF1305	指定されているイメージファイルのドライブの準備ができていません。
		JDF1306	指定されているイメージファイルのディスク種類と、供給元スタッカーのディスク種類が、一致しません。

ジョブの状態	キー名	ERROR コード	内容
受付拒否	FORMATキー	JDF1400	ディスク種類がCDで、データファイルが指定されていますが、"FORMAT"キーに"ISO9660L2","JOLIET","UDF102"以外の値が指定されています。
		JDF1401	ディスク種類がDVDまたはDVD-DLで、データファイルが指定されていますが、"FORMAT"キーに"UDF102","UDF102_BRIDGE","UDF150"以外の値が指定されています。
		JDF1402	ディスク種類がBDまたはBD-DLで、データファイルが指定されていますが、"FORMAT"キーに"UDF102","UDF260"以外の値が指定されています。
	LABELキー	JDF1500	LABELキーで指定したレーベルファイルの形式には対応していません。
		JDF1501	LABELキーで指定したレーベルファイルが存在しません。
		JDF1502	LABELキーで指定したレーベルファイルにアクセス権がありません。
		JDF1503	LABELキーで指定したレーベルファイルが使用中です。
		JDF1504	LABELキーで指定したレーベルファイルのドライブの準備ができていません。
		JDF1505	LABELキーで指定したtddファイル内から参照しているパスが存在しません。
		JDF1506	LABELキーで指定したtddファイル内から参照しているパスへのアクセス権がありません。
		JDF1507	LABELキーで指定したtddファイル内から参照しているパスのドライブの準備ができていません。
	REPLACE_FIELDキー	JDF1600	REPLACE_FIELDキーで指定した差込印刷データファイルが存在しません。
		JDF1601	REPLACE_FIELDキーで指定した差込印刷データファイルにアクセス権がありません。
		JDF1602	REPLACE_FIELDキーで指定した差込印刷データファイルが使用中です。
		JDF1603	REPLACE_FIELDキーで指定した差込印刷データファイルのドライブの準備ができていません。
		JDF1604	以下のいずれかを検知した場合 ①識別子または値に使用できない文字が含まれています。 ②文字列を置換するとテキストアイテムの最大文字数(1024文字)を超えています。 ③指定個数が255個を超えています。
		JDF1610	指定されたバーコード値が、差し替え先のバーコード規格に適合しません。
		JDF1611	バーコードファイルが指定されていないか、指定されたバーコードファイルが存在しません。
		JDF1612	指定されたバーコードファイルにアクセス権がありません。
		JDF1613	指定されたバーコードファイルが使用中です。
		JDF1614	指定されたバーコードファイルのドライブの準備ができていません。
		JDF1615	差し替え先のバーコードアイテムのキーワードの指定が不正です。
		JDF1616	指定されたバーコードアイテムを印刷できません。
		JDF1620	画像ファイルが指定されていますが、指定されている画像ファイルが存在しません。
		JDF1621	指定されている画像ファイルの形式には対応していません。
		JDF1622	指定されている画像ファイルに対するアクセス権がありません。
	JDF1623	指定されている画像ファイルが使用中です。	
	JDF1624	指定されている画像ファイルのドライブの準備ができていません。	
	JDF1625	差し替え先の画像アイテムのキーワードの指定が不正です。	
	AUDIO_TITLEキー	JDF1700	AUDIO_TITLEキーの値が、半角128文字(全角64文字)を超えています。
		JDF1701	AUDIO_TITLEキーの値に、マルチバイトに変換できない文字が含まれています。
	AUDIO_PERFORMERキー	JDF1800	AUDIO_PERFORMERキーの値が、半角128文字(全角64文字)を超えています。
		JDF1801	AUDIO_PERFORMERキーの値に、マルチバイトに変換できない文字が含まれています。

ジョブの状態	キー名	ERROR コード	内容
受付拒否	AUDIO_TRACKキー	JDF1900	CD-TEXTの総サイズが3024バイト（半角3000文字相当）を上回っています。
		JDF1901	指定されているディスク種類に対して、書き込もうとしている音楽データとブリギャップの合計サイズが大き過ぎます。
		JDF1910	指定されている音楽ファイルの形式には対応していません。
		JDF1911	音楽ファイルが指定されていないか、指定されている音楽ファイルが存在しません。
		JDF1912	指定されている音楽ファイルに対するアクセス権がありません。
		JDF1913	指定されている音楽ファイルが使用中です。
		JDF1914	指定されている音楽ファイルのドライブの準備ができていません。
		JDF1915	指定されている音楽ファイルが著作権で保護されています。
		JDF1916	指定されている音楽ファイルの再生時間が4秒未満です。
		JDF1920	指定されているトラックタイトルが半角128文字（全角64文字）を越えています。
		JDF1921	指定されているトラックタイトルに、マルチバイトに変換できない文字が含まれています。
		JDF1930	指定されているトラックアーティスト名が半角128文字（全角64文字）を越えています。
		JDF1931	指定されているトラックアーティスト名に、マルチバイトに変換できない文字が含まれています。
		JDF1940	指定されているブリギャップが0~269999（0分0秒0フレーム~59分59秒74フレーム）の範囲外です。
		JDF1950	ISRCキーワードに指定された値に、半角英大文字、半角数字 以外の文字が含まれています。または、12文字ではありません。
	LABEL_AREAキー	JDF2000	DiscDiamOutキーワードに半角数値以外が指定されている、または、値の範囲が700~1194（70 mm~119.4 mm）の範囲外です。
		JDF2001	DiscDiamInキーワードに半角数値以外が指定されている、または、値の範囲が180~500（18 mm~50 mm）の範囲外です。
	PLUG_IN_IDキー	JDF2100	PLUG_IN_IDキーに指定した値が40文字を超えています。
		JDF2101	PLUG_IN_IDキーに指定した値に使用できない文字が含まれています。
		JDF2102	出力機器がPLUG_IN_IDキーの指定に対応していません。
	PLUG_IN_PARAMETERキー	JDF2200	PLUG_IN_PARAMETERキーに指定した値が1024文字を超えています。
		JDF2201	PLUG_IN_PARAMETERキーに指定した値に使用できない文字が含まれています。
		JDF2202	出力機器がPLUG_IN_PARAMETERキーの指定に対応していません。
	PRIORITYキー	JDF2300	PRIORITYキーに、"HIGH"以外の値が指定されています。
	AUDIO_CATALOG_CODEキー	JDF2400	AUDIO_CATALOG_CODEキーに半角数値以外の文字が含まれています。または、13文字を超えています。
	LABEL_TYPEキー	JDF2500	LABEL_TYPEキーに"1", "2", "3"以外の値が設定されています。
		JDF2501	LABEL_TYPEキーに"3"が指定されていますが、PRINT_MODEキーが指定されておらず、かつ、環境設定の印刷モードで"1"以外が選択されています。
	PRINT_MODEキー	JDF2600	PRINT_MODEキーに"1", "2", "3"以外の値が設定されています。
		JDF2601	PRINT_MODEキーに"2"または"3"が指定されていますが、LABEL_TYPEキーが指定されておらず、かつ、環境設定でレーベル種類が"光沢CD/DVDレーベル"になっています。
		JDF2602	PRINT_MODEキーに"2"または"3"が指定されていますが、LABEL_TYPEキーに"3"が指定されています。
		JDF2603	PRINT_MODEキーに"3"が設定されていますが、出力機器の種別がPP-100APではありません。
	IN_STACKERキー	JDF2700	IN_STACKERキーに"1", "2", "AUTO"以外の値が指定されています。
	MEASUREキー	JDF2800	MEASUREキーに、"0", "1"以外の値が指定されています。
ARCHIVE_DISC_ONLYキー	JDF2900	ARCHIVE_DISC_ONLYキーに、"YES", "NO"以外の値が指定されています。	

ジョブの状態	キー名	ERROR コード	内容
受付拒否	SESSIONキー	JDF3000	SESSIONキーに " FIRST" , " NEXT" , " END" 以外の値が指定されています。
		JDF3001	ジョブIDが指定されておらず、かつ、SESSIONキーが指定されています。
		JDF3002	SESSION=FIRSTの場合、すでに発行待ち、または、発行中ジョブの中に同じジョブIDが存在しています。
		JDF3003	SESSION=NEXT、またはSESSION=ENDの場合、すでに発行待ち、または発行中ジョブの中の同じジョブIDにSESSION=FIRSTが存在しません。
		JDF3004	SESSION=NEXTの場合、すでに発行待ち、または発行中ジョブの中に、同じジョブIDにSESSION=ENDが存在しています。
		JDF3005	SESSIONキーは99まで登録が可能です。 SESSION=NEXTの場合はすでに登録されていセッション数が98以上、SESSION=ENDの場合は99以上登録されています。
		JDF3006	SESSIONキーが指定されていますが、出力機種種の種別がPP-100IIIではありません。
		JDF3007	SESSIONキーが指定されていますが、"DATA"、または"DATA_LIST"が指定されていません。
		JDF3008	SESSIONキーが指定されていますが、"VIDEO"、"VIDEO_TITLE"、"IMAGE"、"AUDIO_TRACK"、"AUDIO_TITL"、"AUDIO_CATALOG_CODE"、"AUDIO_PERFORMER"の各キーが指定されています。
		JDF3009	SESSION=FIRSTの場合、" FORMAT" に"UDF102"以外が指定されています。
JDF3010	書き込みデータサイズが空き容量を超えています。		
その他		JDF0000	[PP-100III / PP-100II / PP-50BDの場合] ディスク種類にCDが指定されていますが、データファイル、Videoファイル、イメージファイル、トラック情報、レーベルファイル、Plug-In情報のいずれも指定されていません。 [PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合] ディスク種類にCDが指定されていますが、データファイル、Videoファイル、イメージファイル、トラック情報、レーベルファイル情報のいずれも指定されていません。
		JDF0001	[PP-100III / PP-100II / PP-50BDの場合] ディスク種類にDVDまたはDVD-DLが指定されていますが、データファイル、Videoファイル、イメージファイル、トラック情報、レーベルファイル、Plug-In情報のいずれも指定されていません。 [PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合] ディスク種類にDVDまたはDVD-DLが指定されていますが、データファイル、Videoファイル、イメージファイル、トラック情報、レーベルファイル情報のいずれも指定されていません。
		JDF0002	[PP-100APの場合] 印刷データが指定されていません。
		JDF0003	[PP-100III / PP-100II / PP-100NE II / PP-50BDの場合] ディスク種類にBDまたはBD-DLが指定されていますが、データファイル、レーベルファイル、Plug-In情報のいずれも指定されていません。
		JDF0004	[PP-100III / PP-100II / PP-50BDの場合] 動作モードが読み込みモード時に、TD BridgeからJob発行されました。 読み込みモードに設定されている場合、TD BridgeからJobを発行できません。

## ジョブ受付後の ERROR コード一覧表

ERRORの内容により、ジョブの動作は変化します。その内容と対処方法を説明します。

キャンセル : ジョブがキャンセルされます。対処してから、新たにジョブを発行してください。

一時停止 : ジョブが一時停止されます。対処してから、発行端末の「Total Disc Monitor」でジョブを再開してください。

自動復帰 : ジョブが一時停止されます。対処すると、ジョブは自動的に再開されます。

ジョブの状態	ジョブの動作	ERROR コード	内容と対処方法
受付済みジョブ	キャンセル	CAN000	ドライブトレイまたはプリンタートレイからのディスクピックに失敗しました。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
		CAN001	ピック中のディスクを落としました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、落下したディスクを取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
		CAN002	ディスクリリースに失敗しました。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
		CAN003	ドライブトレイまたはプリンタートレイへリリースしたはずのディスクがありません。 対処方法： ①本体の電源を切った後、内部に異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
		CAN004	バッチ処理モードでジョブ開始時にスタッカー 3が空でなかったため、ジョブ実行中に排出先スタッカーがフルになりました。 対処方法： ①スタッカー 3のディスクを取り出して空にしてください。 ②スタッカー 1とスタッカー 2に新しいディスクをセットした後、ジョブを再実行してください。
		CAN005	アーム移動でエラーが発生しました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、内部に異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
		CAN006	オートローダーフェータルエラーが発生しました。モーター発熱によりアームを移動することができません。 対処方法： ①本体の電源を切った後、内部に異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れ直してください。
		CAN007	ドライブトレイ制御に失敗しました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、ドライブトレイを確認し、異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
		CAN008	ドライブがフェータルエラー状態のため、処理を行うことができません。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
		CAN009	プリンタートレイ制御に失敗しました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、プリンタートレイを確認し、異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
		CAN010	プリンターフェータルエラーが発生しました。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
		CAN011	プリンターとの通信に失敗しました。 対処方法： プリンタードライバーのポート設定が正しく確認してください。
		CAN012	指定されたプリンター名は有効ではありません。 対処方法： 使用するCD/DVD パブリッシャーが登録されていることをEPSON Total Disc Setupで確認してください。
CAN013	プリンターメンテナンスエラーが発生しました。 対処方法： 販売店またはサービスにお問い合わせください。		

ジョブの状態	ジョブの動作	ERROR コード	内容と対処方法
受付済みジョブ	キャンセル	CAN014	インク吸収材の交換時期になりました。 対処方法： 販売店またはサービスにお問い合わせください。
		CAN015	状態不正エラーが発生しました。以下のいずれかを検知しました。 ①ドライブトレイ上のディスクが無くなった ②プリンタートレイ上のディスクが無くなった ③ドライブトレイ上にディスクが置かれた ④プリンタートレイ上にディスクが置かれた ⑤アームがディスクを持たされた 対処方法： ①筐体内部に異常がないか確認してください。 ②本体の電源を入れ直してください。
		CAN016	JOBファイル不正エラーが発生しました。以下のいずれかを検知しました。 ①指定されたディスクイメージファイルにアクセスできなかった ②指定されたレーベルデータファイルにアクセスできなかった 対処方法： ディスクイメージファイルおよびレーベルデータファイルが置かれている共有フォルダーに、「SYSTEM」アカウントのアクセス権を与えるか、ローカルコンピューターにあらかじめコピーしたイメージファイルを指定してください。
		CAN017	サポート外バージョンエラーが発生しました。以下のいずれかを検知しました。 ①オートローダーファームウェアバージョンがサポートバージョン未満である ②ドライブ1のファームウェアバージョンがサポートバージョンと異なる ③ドライブ2のファームウェアバージョンがサポートバージョンと異なる ④プリンターファームウェアバージョンがサポートバージョン未満である 対処方法： デバイスのファームウェアをバージョンアップしてください。
		CAN018	ジョブ発行時にTotal Disc Setupで指定した発行モードとデバイスに保存している発行モードが異なります。 対処方法： Total Disc Setupで発行モードを設定してください。
		CAN019	以下のいずれかを検知しました。 ディスクイメージ作成中にソースパス不正により、ディスクイメージファイル作成が中断されました。 対処方法： ソースパスに指定されたファイル、フォルダーを確認してください。 マルチセッション書き込み機能実行時に、前のデータ書き込みから次のデータを受信するまでの時間が、設定したタイムアウト時間になったためジョブが中断されました。 対処方法： 最初のセッションからジョブ登録をやり直してください。
		CAN020	出力機器との通信でエラーが発生しました。 対処方法： 電源やUSBケーブルの接続状態を確認してください。
		CAN100	Plug-inを起動できませんでした。 対処方法： Plug-inをレジストリーに正しく登録してください。 読み込み Plug-in を使用する場合、管理者アカウントでWindowsにログオンしてください。
		CAN101	Plug-inの終了ステータスコードを取得できませんでした。またはPlug-inの終了ステータスコードが不正です。 対処方法： 定義された終了ステータスを指定してください。
		CAN102	Plug-inによりジョブがキャンセルされました。 対処方法： Plug-inの処理を確認してください。
	CAN103	レジストリー名Sessionに1が指定されていますが、ログオンユーザーを特定できなかったため、Plug-inを起動できませんでした。 対処方法： ログオン状態を確認してください。	
	一時停止	STP000	ディスク種類違い等により、再試行回数がTotal Disc Setupで設定された書き込みリトライ回数に達しました。 対処方法： ①供給元スタッカー内のディスクを確認してください。 ②Total Disc Monitorで一時停止中のジョブを再開またはキャンセルしてください。
		STP001	連続書き込みエラーにより、再試行回数がTotal Disc Setupで設定された書き込みリトライ回数に達しました。 対処方法： ①供給元スタッカー内のディスクを確認してください。 ②Total Disc Monitorで一時停止中のジョブを再開またはキャンセルしてください。  エラーが再発する場合、販売店またはサービスにお問い合わせください。

ジョブの状態	ジョブの動作	ERROR コード	内容と対処方法
受付済みジョブ	自動復帰	RTN000	ジョブで指定された供給元スタッカーにディスクがありません。 対処方法： 供給元スタッカーにディスクを補充してください。
		RTN001	ジョブで指定された排出先スタッカーがフルになりました。 対処方法： 排出先スタッカーからディスクを取り除いてください。
		RTN002	ディスクカバーが開いています。 対処方法： ディスクカバーを閉じてください。
		RTN003	インクカートリッジカバーが開いています。 対処方法： インクカートリッジカバーを閉じてください。
		RTN004	インク交換時期のためレーベル印刷できません。 対処方法： 交換時期となったインクカートリッジを交換してください。
		RTN005	インクカートリッジがありません。 対処方法： インクカートリッジを装着してください。
		RTN006	スタッカーが装着されていないためディスク発行できません。 対処方法： スタッカーを装着してください。
		RTN007	スタッカー 3の装着状態が発行モードとあっていないため、ディスク発行できません。 対処方法： 標準：外部排出モードの場合は、スタッカー 3を外してください。 バッチ処理モードの場合は、スタッカー 3を装着してください。
		RTN008	スタッカー 4が開いているためディスク発行できません。 対処方法： スタッカー 4を閉じてください。
		RTN009	ドライブに搬送したディスクが複数枚であることを検出しました。 対処方法： ①ディスクカバーを開けてください。 ②開いているドライブトレイからディスクを取り除き、ディスクカバーを閉じてください。
		RTN010	プリンターに搬送したディスクが複数枚であることを検出しました。 対処方法： ①ディスクカバーを開けてください。 ②開いているプリンタートレイからディスクを取り除き、ディスクカバーを閉じてください。
		RTN011	インクカートリッジを正しく認識できません。 対処方法： インクカートリッジを正しく装着してください。
		RTN012	供給元スタッカーからのディスクピックに失敗しました。 対処方法： 供給元スタッカー内のディスクをほぐしてください。
		RTN013	スタッカーに許容枚数を超過してディスクが入っているため、発行処理ができません。 対処方法： スタッカー内のディスクを減らしてください。
		RTN014	メンテナンスボックスカバーが正しくセットされていません。 対処方法： カバーの状態を確認してください。
		RTN015	メンテナンスボックスが交換時期です。 対処方法： 新しいメンテナンスボックスに交換してください。
		RTN016	メンテナンスボックスが外れています。 対処方法： メンテナンスボックスを装着してください。
RTN017	メンテナンスボックスを正しく認識できません。 対処方法： メンテナンスボックスを正しく装着してください。		
	その他	OTH000	ジョブの状態を取得できません。ディスクの発行は引き続き可能です。 また、ジョブ発行直後に一時的に出力される場合があります。 対処方法： INFORMATIONコードが出力されている場合、「INFORMATIONコード一覧表」を参照しコードに応じた対処方法をしてください。 INFORMATIONコードが出力されていない場合、エラーではありません。

## INFORMATION コード一覧表

INFORMATIONコードは登録されているDiscproducerの状態を表します。複数の要因がある場合は、すべて表示されます。

項目	INFORMATIONコード	内容と対処方法
プリンター	HPR000	プリンターフェータルエラーが発生しました。 対処方法： 出力機器の電源を入れ直してください。
	HPR001	プリンターメンテナンスエラーが発生しました。 対処方法： 販売店またはサービスにお問い合わせください。
	HPR002	インク吸収材の交換時期になりました。 対処方法： 販売店またはサービスにお問い合わせください。
	HPR003	プリンターとの通信に失敗しました。 対処方法： プリンタードライバーのポート設定を確認してください。
	HPR005	インクカートリッジカバーが開いています。 対処方法： インクカートリッジカバーを閉じてください。
	HPR006	プリンターメンテナンスエラーが発生しました。 対処方法： 販売店またはサービスにお問い合わせください。
	HPR007	メンテナンスボックスが外れています。 対処方法： メンテナンスボックスを装着してください。
	HPR008	メンテナンスボックスが交換時期です。 対処方法： 新しいメンテナンスボックスに交換してください。
	HPR009	メンテナンスボックスを正しく認識できません。 対処方法： メンテナンスボックスを正しく装着してください。
	HPR010	メンテナンスボックスカバーが正しくセットされていません。 対処方法： カバーの状態を確認してください。
ドライブ	HDR000	ドライブトレイ制御に失敗しました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、ドライブトレイを確認し、異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
	HDR001	ドライブがフェータルエラー状態のため、処理を行うことができません。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
	HDR002	ドライブを認識できないため、本体の初期化動作ができません。 対処方法： ①本体のドライブの接続状態を確認します。 ②本体の電源を入れ直してください。

項目	INFORMATION コード	内容と対処方法
オートローダー	HAR000	ドライブトレイまたはプリンタートレイからのディスクピックに失敗しました。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
	HAR001	ピック中のディスクを落としました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、落下したディスクを取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
	HAR002	ディスクリリースに失敗しました。 対処方法： 本体の電源を入れ直してください。
	HAR003	ドライブトレイまたはプリンタートレイへリリースしたはずのディスクがありません。 対処方法： ①本体の電源を切った後、内部に異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
	HAR004	アーム移動でエラーが発生しました。 対処方法： ①本体の電源を切った後、内部に異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
	HAR005	オートローダーフェータルエラーが発生しました。モーター発熱によりアームを移動することができません。 対処方法： ①本体の電源を切った後、内部に異物があれば取り除いてください。 ②本体の電源を入れてください。
	HAR007	スタッカーからのディスクピックに失敗しました。 対処方法： ①ディスクカバーを開けてください。 ②供給スタッカー内のディスクをほぐし、ディスクカバーを閉じてください。
	HAR008	ドライブに搬送したディスクが複数枚であることを検出しました。 対処方法： ①ディスクカバーを開けてください。 ②開いているドライブトレイからディスクを取り除き、ディスクカバーを閉じてください。
	HAR009	プリンターに搬送したディスクが複数枚であることを検出しました。 対処方法： ①ディスクカバーを開けてください。 ②開いているプリンタートレイからディスクを取り除き、ディスクカバーを閉じてください。
シアンインク	HIKC000	シアンインクカートリッジが外れています。 対処方法： シアンインクカートリッジを装着してください。
	HIKC001	シアンインクカートリッジの型番が異なる、または、型番を認識できません。 対処方法： 正しいシアンインクカートリッジを装着してください。
マゼンタインク	HIKM000	マゼンタインクカートリッジが外れています。 対処方法： マゼンタインクカートリッジを装着してください。
	HIKM001	マゼンタインクカートリッジの型番が異なる、または、型番を認識できません。 対処方法： 正しいマゼンタインクカートリッジを装着してください。
イエローインク	HIKY000	イエローインクカートリッジが外れています。 対処方法： イエローインクカートリッジを装着してください。
	HIKY001	イエローインクカートリッジの型番が異なる、または、型番を認識できません。 対処方法： 正しいイエローインクカートリッジを装着してください。
ライトシアンインク	HIKLC000	ライトシアンインクカートリッジが外れています。 対処方法： ライトシアンインクカートリッジを装着してください。
	HIKLC001	ライトシアンインクカートリッジの型番が異なる、または、型番を認識できません。 対処方法： 正しいライトシアンインクカートリッジを装着します。
ライトマゼンタインク	HIKLM000	ライトマゼンタインクカートリッジが外れています。 対処方法： ライトマゼンタインクカートリッジを装着してください。
	HIKLM001	ライトマゼンタインクカートリッジの型番が異なる、または、型番を認識できません。 対処方法： 正しいライトマゼンタインクカートリッジを装着します。

項目	INFORMATIONコード	内容と対処方法
ブラックインク	HIKBK000	ブラックインクカートリッジが外れています。 対処方法： ブラックインクカートリッジを装着してください。
	HIKBK001	ブラックインクカートリッジの型番が異なる、または、型番を認識できません。 対処方法： 正しいブラックインクカートリッジを装着してください。
スタッカー 1	HST1000	スタッカー 1に許容枚数を超えてディスクが入っているため、発行処理ができません。 対処方法： スタッカー 1内のディスクを減らしてください。
	HST1001	スタッカー 1が装着されていません。 対処方法： スタッカー 1を装着してください。
スタッカー 2	HST2000	スタッカー 2に許容枚数を超えてディスクが入っているため、発行処理ができません。 対処方法： スタッカー 2内のディスクを減らしてください。
	HST2001	スタッカー 2が装着されていません。 対処方法： スタッカー 2を装着してください。
スタッカー 3	HST3000	スタッカー 3に許容枚数を超えてディスクが入っているため、発行処理ができません。 対処方法： スタッカー 3内のディスクを減らしてください。
	HST3001	標準モード、外部排出モードで排出先がスタッカー 3に設定されていますが、スタッカー 3が装着されていません。または、バッチ処理モードで、スタッカー 3が装着されていません。 対処方法： スタッカー 3を装着してください。
	HST3002	標準モードまたは、外部排出モードで排出先がスタッカー 4に設定されていますが、スタッカー 3が装着されています。 対処方法： [PP-100III / PP-100II / PP-100AP / PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合] スタッカー 3を外してください。
ディスクカバー	HDC000	ディスクカバーが開いています。 対処方法： ディスクカバーを閉じてください。
通信	HNW000	以下のいずれかの通信エラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Discproducer と通信できない</li> <li>• フィルタードライバーがアタッチされていない</li> </ul> 対処方法： [PP-100N / PP-100NE / PP-100NE II以外の場合] ① Discproducerの電源状態を確認してください。 ② USBケーブルの接続状態を確認してください。 ③ 出力機器を接続し、電源を入れ直してください。 [PP-100N / PP-100NE / PP-100NE IIの場合] ① Discproducerの電源状態を確認してください。 ② ネットワークケーブルの接続状態を確認してください。
	HNW001	サポート外バージョンエラーが発生しました。以下のいずれかを検知しました。 ① オートローダーファームウェアバージョンがサポートバージョン未満である ② ドライブ1のファームウェアバージョンがサポートバージョンと異なる ③ ドライブ2のファームウェアバージョンがサポートバージョンと異なる ④ プリンターファームウェアバージョンがサポートバージョン未満である 対処方法： ① デバイスのファームウェアをバージョンアップしてください。
その他	HAR006	本コードで対処することはありません。本コードと同時に他のコードを参照し、対処してください。  次のいずれかの状態を検出しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ディスクカバーが開いています。</li> <li>• 供給元スタッカからのディスクピックに失敗しました。</li> <li>• プリントトレイへの重送を検出しました。</li> <li>• スタッカ3の装着状態が発行モードとあっていないため、ディスク発行できません。</li> <li>• スタッカ1が装着されていません。</li> <li>• スタッカ2が装着されていません。</li> <li>• スタッカ1に許容枚数を超えてディスクが入っているため、発行処理ができません。</li> <li>• スタッカ2に許容枚数を超えてディスクが入っているため、発行処理ができません。</li> <li>• スタッカ3に許容枚数を超えてディスクが入っているため、発行処理ができません。</li> </ul>

# JCF ファイル

JCFファイルとは、動作中/一時停止中のジョブをキャンセルさせるための指示書ファイルで、お客様の連携アプリケーションで作成します。キャンセルしたいジョブIDを指定し、TD Bridgeの監視フォルダーに移動すると、ジョブがキャンセルされます。

- テキスト(ANSI)形式のファイルですが、拡張子をJCFとします。ファイル名は任意です。
- ジョブをキャンセルできた/エラーが発生してキャンセルできなかった場合は、拡張子が変わります。
  - キャンセルできたファイル：CDN
  - エラー発生でキャンセルできない：CER
- キャンセル完了/キャンセル失敗後60～120分で、監視フォルダーからファイルがログフォルダーに自動的に移動します。(96ページ「ログ機能」を参照してください。)

## JCF ファイル例

demo.jcfファイル

```
[CANCEL]
JOB_ID=003
```

セクション名	キー名	説明	値の指定方法	最大文字数	使用可能な文字 (文字列)	必須 / 任意
CANCEL	JOB_ID	ジョブを一意に識別するためのID	キャンセルするジョブのジョブIDを指定します。	40文字	半角英数, "-", "_"	必須

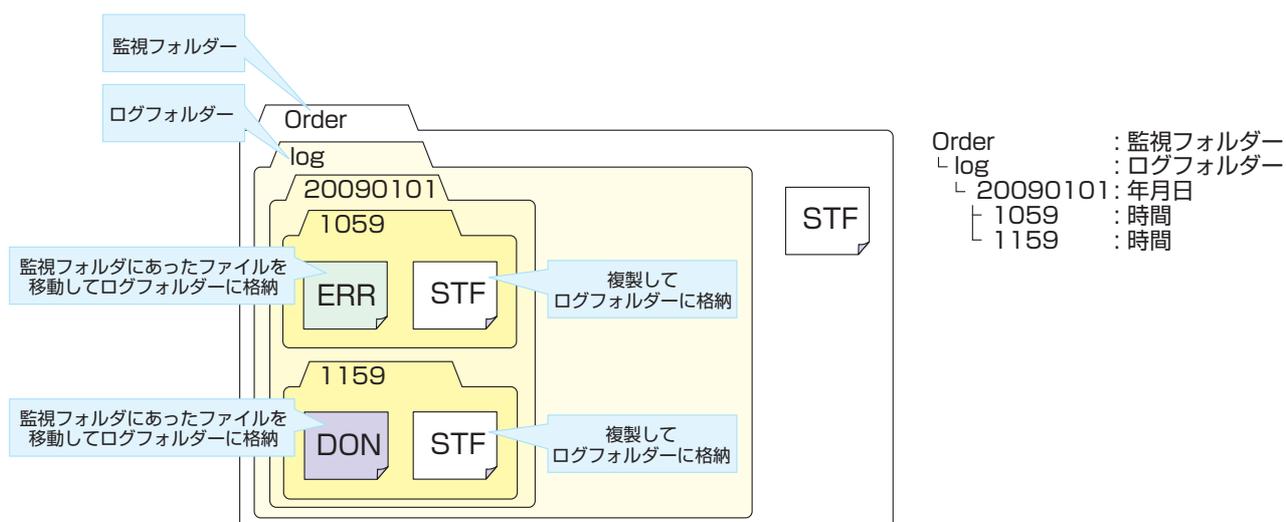
# ログ機能

- ❑ 監視フォルダー (デフォルト"Order")にDON, ERR, CDN, CERファイルがある場合、60～120分で監視フォルダー内にログフォルダーが自動的に生成され、DON, ERR, CDN, CERファイルをログフォルダー (log)に移動します。
- ❑ 監視フォルダー内のINPファイルのうち、STFファイルでSTATUS=99 かつ ERROR=OTH000の状態が60分以上継続しているものは、60～120分でログフォルダー (log)に移動します。
- ❑ ログフォルダー内には年月日のフォルダーが作成され、年月日のフォルダー内には時間のフォルダーが自動的に生成されます。
- ❑ DON, ERR, CDN, CERファイル移動時に、STFファイルが複製され、複製されたSTFファイルはログフォルダーに移動します。
- ❑ 7日以上経過したログは、年月日のフォルダーごと自動的に削除されます。ログフォルダーは削除されません。

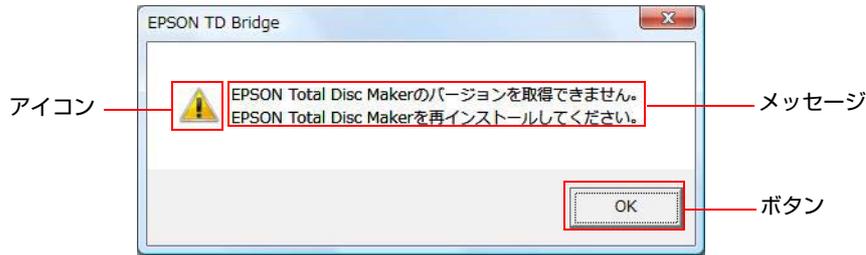
## ログファイルの保存先

下記のログフォルダーに保存されます。ログの詳細仕様は公開していません。

c:\ProgramData\EPSON\Total Disc Maker\Log



# ポップアップメッセージ一覧表



メッセージ	アイコン	ボタン	原因
監視フォルダーを設定してください。	!	OK	環境設定画面で、監視フォルダーにフォルダーを設定していない状態で[OK]ボタンをクリックした。
EPSON Total Disc Setupで作業フォルダーとして指定されているパスが存在しないか、アクセス権がありません。EPSON Total Disc Setupを起動し、作業フォルダーを指定しなおすか、アクセス権を設定してください。	!	OK	EPSON Total Disc Setupで作業フォルダーとして指定されているパスが存在しないか、アクセス権がない。
EPSON Total Disc Makerの作業フォルダー (作業フォルダーのパス)の容量が不足しています。作業フォルダーを変更するか空き容量を確保してからOKボタンをクリックしてください。キャンセルボタンをクリックすると発行を中止してTD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	ジョブ発行時に、EPSON Total Disc Makerの作業フォルダーの空き容量が不足していた。
プリンタードライバーが設定されていないか、または見つかりません。Total Disc Setup で使用するプリンタードライバーを設定しなおしてからOKボタンをクリックしてください。キャンセルボタンをクリックすると発行を中止してTD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	ジョブ発行時に、プリンタードライバーが見つからなかった。
バッテリーモードで PC を起動中です。発行中にバッテリーが切れた場合、ディスクが正しく作成できないおそれがあります。ACモードに切り替えてからOKボタンをクリックしてください。キャンセルボタンをクリックすると発行を中止してTD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	ジョブ発行時に、コンピューターの電源がバッテリーモードになっていた。
XMLパーサーが存在しないか、正しくインストールされていないため、処理を行うことができません。XMLパーサーを正しくインストールしてからOKボタンをクリックしてください。キャンセルボタンをクリックすると発行を中止してTD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	ジョブ発行時に、XMLパーサーがインストールされていないかった。
監視フォルダーが存在しないかアクセス権がありません。監視フォルダーを設定してください。	!	OK	管理者アカウントでWindowsにログオン中、ファイル操作時に、監視フォルダーが見つからなかったか、アクセス拒否された。
監視フォルダーが存在しないかアクセス権がありません。管理者アカウントでWindowsにログオンして、監視フォルダーを設定してください。	!	OK	制限付きアカウントでWindowsにログオン中、ファイル操作時に、監視フォルダーが見つからなかったか、アクセス拒否された。
通常使う出力機器の設定が無効です。有効な出力機器に変更してください。	!	OK	管理者アカウントでWindowsにログオン中、TD Bridge起動時に、設定されている出力機器が有効ではなかった。
EPSON Total Disc Makerの作業フォルダーのあるドライブのファイルシステムが、書き込みデータのファイルサイズをサポートしていないため、発行できません。NTFS でフォーマットされたドライブのフォルダーを作業フォルダーに指定してください。キャンセルボタンをクリックすると発行を中止してTD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	書き込みデータが4GB以上なのに、ディスクのフォーマットが4GB作成に対応していないかった。
サポートバージョン情報を取得できません。TD Bridgeを再インストールしてください。	!	OK	TD Bridge起動時に、EPSON Total Disc Makerのサポートバージョンを取得できなかった。
通常使う出力機器の設定が無効です。管理者アカウントでWindowsにログオンして、有効な出力機器に変更してください。	!	OK	制限付きアカウントでWindowsにログオン中、TD Bridge起動時に、設定されている出力機器が有効ではなかった。
制限付きアカウントが書き込めないフォルダーが監視フォルダーに設定されています。制限付きアカウントが書き込めるフォルダーに変更してください。	!	OK	管理者アカウントでWindowsにログオン中、TD Bridge起動時に、監視フォルダーが不適切な設定であることを検知した。

メッセージ	アイコン	ボタン	原因
制限付きアカウントが書き込めないフォルダーが監視フォルダーに設定されています。 管理者アカウントでWindowsにログオンして、制限付きアカウントが書き込めるフォルダーに変更してください。	!	OK	制限付きアカウントでWindowsにログオン中、TD Bridge起動時に、監視フォルダーが不適切な設定であることを検知した。
出力機器のHDDに十分な空き容量がないため、発行できません。 不要になったジョブデータを削除して空き容量を増やしてください。	!	OK キャンセル	ジョブ発行時に、出力先機器のHDDに十分な空き容量がなかった。
未完了のジョブが存在しますが、終了してよろしいですか？	!	YES NO	TD Bridge終了時に、監視フォルダー内に未完了ジョブが存在していた。
TD Bridgeは既に起動しています。	!	OK	TD Bridge起動時に、すでにTD Bridgeが起動していた。
The application could not start because the necessary resource file could not be found. Please reinstall the application.	!	OK	TD Bridge起動時に、リソースファイルが見つからなかった。
動作に必要なファイル (Control.ini) が見つからないため、TD Bridgeを起動できません。 EPSON TD Bridgeを再インストールしてください。	!	OK	動作に必要なファイル (Control.ini) が見つからなかった。
EPSON Total Disc Makerが見つからないため、処理を継続できません。 EPSON Total Disc Makerをインストールしてください。	!	OK	ジョブ発行時に、EPSON Total Disc Makerの実行ファイルが見つからなかった
EPSON Total Disc Control Serviceが起動していません。	!	OK	EPSON Total Disc Makerのサービスが起動していないことを検知した。
EPSON Total Disc Makerが既に起動しているため、TD Bridgeから発行できません。 EPSON Total Disc Makerを終了してOKボタンをクリックしてください。 キャンセルボタンをクリックすると発行を中止してTD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	ジョブ発行時に、EPSON Total Disc Makerが起動していた。
EPSON Total Disc Makerのバージョンを取得できません。 EPSON Total Disc Makerを再インストールしてください。	!	OK	EPSON Total Disc Makerのバージョンが取得できなかった。
EPSON Total Disc Makerがサポート外のバージョンです。 サポートバージョンのEPSON Total Disc Makerをインストールしてください。	!	OK	EPSON Total Disc Makerがサポート外のバージョンであることを検知した。
変更した設定は次回起動時から有効になります。	!	OK	環境設定画面で、設定値が変更された状態で[OK]ボタンをクリックした。
監視フォルダーはローカルコンピューターのフォルダーを選択してください。	!	OK	環境設定画面のフォルダー選択ダイアログで、ローカルコンピューター以外のフォルダーを選択して[OK]ボタンをクリックした。
設定を反映するには再起動が必要です。 TD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	環境設定画面の設定変更を反映させるため、TD Bridgeを終了させる際の確認。
TD Bridge環境設定ファイルに書き込みができませんでした。	!	OK	環境設定画面で[OK]ボタンをクリック後、iniファイルは存在しているが、アクセス権がなかったために書き込むことができなかった。
TD Bridge環境設定ファイルが存在しないかアクセス権がありません。 TD Bridgeを終了します。	!	OK	TD Bridge起動直後や、環境設定画面を開いた時にiniファイルを開こうとしたが、ファイルが存在していなかったり、アクセスができなかった。
設定を反映するにはコンピューターの再起動が必要です。	!	OK	環境設定の設定が変更された。
設定を反映するにはコンピューターの再起動が必要です。 TD Bridgeを終了します。	!	OK キャンセル	環境設定の設定が変更された。

# 付録

## オープンソースソフトウェアの著作権について

本製品は当社が権利を有するソフトウェアの他にオープンソースソフトウェアを利用しています。  
本製品に利用にされているオープンソースソフトウェアに関する情報は下記のとおりです。

### LGPL

1. 当社は、GNU LESSER General Public License Version 2, June 1991またはそれ以降のバージョン（以下「LGPL」）の適用対象となるオープンソースソフトウェアを本製品に利用しています。  
LGPLの全文は以下のWebサイトでご覧いただけます。  
<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>
2. 当社は、本製品に含まれる LGPL の適用対象となるオープンソースソフトウェアについて LGPL に基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、以下のサイトよりソースコードをダウンロードしてください。  
<http://log4cpp.sourceforge.net/>  
なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はGPLおよびLGPLの条件に従ってください。また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利（特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない）を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。
3. 上記2.のとおり、本製品に含まれるLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合（当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます）に関する当社による保証の条件（保証書記載）に影響はありません。
4. 本製品に含まれるLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアおよびその著作権者は2.にて開示するソースコード内に記載してあります。